



廣雅
獨案內

全



櫻田郡鶴鳴渡年
負市方壺于二家
衣進鶴鳴渡



山
渡
河
渡
道
六
宮
司

印

水陸心傳

道心傳

尾張
 郡誌
 卷之二

(尾張郡誌卷之二)

目次

名古屋市	至第 八	第 十	頁
尾張郡村部總評	至第 八	第 十一	頁
愛知郡	至第 八	第 十三	頁
東春日井郡	至第 八	第 十三	頁
西春日井郡	至第 八	第 十九	頁
丹羽郡	至第 八	第 十九	頁
栗原郡	至第 八	第 二十八	頁
中嶋郡	至第 八	第 二十九	頁
海東郡	至第 八	第 三十五	頁
海西郡	至第 八	第 三十五	頁
知多郡	至第 八	第 六十五	頁

三河郡村部総評	至第二百六十三頁
碧海郡	至第二百六十五頁
幡豆郡	至第二百八十四頁
額田郡	至第二百九十二頁
寶飯郡	至第二百九十三頁
渥美郡	至第三百零四頁
八名郡	至第三百零四頁
南設楽郡	至第三百零五頁
北設楽郡	至第三百零九頁
東加茂郡	至第三百一〇頁
西加茂郡	至第三百一〇頁
以上	至第四百一十二頁

緒言

此愛知縣獨案内は本會が明治三十三年十月十日より名古屋市に第六回東海農區農會を開くに方り來會諸士の便覽に供せんが爲め特に中京新報主筆竹内善七氏に囑して編纂せし本縣各郡市に於ける最近の記事なり、此編成に就ては同氏は非常の精勵を以て能く新古の事態を網羅せられ、又本會委員石川正美氏は材料蒐輯等に関し最も盡力あり、畫家辻村秋峰氏亦専ら

四方に奔走し圖畫眞景を實地に就て摸寫せられたるの勞あり、是本會が特に右三氏に對して深謝する所なり。

明治三十三年十月

愛知縣農會

凡例

一本書は愛知縣一市十九郡に於ける農商工業及び水産物鑛業品の實況を記して既往と現今の對照を加へ尙ほ將來の趨勢を下知せしむるの便宜に供するを主眼とし殊に其中直接に間接に農業關係事項の多きは本書編纂の目的が第六回東海農區農會を開くに當り來會者諸士に頒布するに在るが故なり。

一名古屋市の部に於て特に商工業及び其他雜件を交ゆるの多きは都會地の例として農業上參考とすべき價値を有する者稀れなると又市府觀察の要點は商工二業に基く者多きが故に重きを此二業に措き詳に物産の既往現況を記して其大勢を知らしめ且つ世人をして各其措置に迷はざらしむるを期す。

一神社、佛閣、名勝、舊蹟は其創設最も古く其由緒極めて正しき者を取ると雖ども限りあるの紙數を以て殆ど限りなきの多數を網羅する能はず、故に其最も重なるものを採録せり、又右に關する社傳、緣起、口碑の類は編者猥りに之を取捨せず又輕々に批評を加へず一に讀者の判斷に任すこととせり。

一物産の數量及び其他統計に關する數字は重にも明治三十二年末の現狀に基くも其種類に依り一ヶ年の産額を以て標準とすべからざるものは最近數年間の統計を參酌して之を實地に對照し亦之を當業者に質し努めて實際に違はざらんことを期す又銀行諸會社製造場の如きは本年一月の現在に基けり。

一 氣候は各種の産業に最も重き關係を有するに依り名古屋測候所の調査に基き之を尾三兩國總評の末に概括記載し、地質も亦生産事業に種々の關係あるに依り農商務省地質調査所の調査に基き之れを各郡農産物の末段に掲げたるも其詳細を知らんと欲せば各其専門の書冊圖畫等に就て見らるべし。

一 運輸交通の各種産業に大關係を有するは勿論なれば本書には努めて解剖的に之を記載し其調査の材料は編者の踏査及び各官廳の調査地方公共團体の報告並に地方有志者の實驗通信を參照し愛知縣測量圖帝國陸地測量部製圖及び其他數種の地圖に照合して誤謬なきを期し努めて讀者の便宜を圖る。

一 治水事蹟古戰場其他總て歴史的事事は官廳及び町村役場各地舊家の古記録中極めて信用すべきもの並に編者が多年歴史上或は其他古書圖畫等より蒐輯したるもの、中最も正確の事實と認むるものを取り之を新式測量の各地圖に照合して誤謬なきを期し實地の巡見者をして其方途に迷はざらしむ。

明治三十三年十月

編者識

愛知縣獨案内

○名古屋市の來歴と將來

名古屋市は慶長十五年徳川家康公の其第九子義直卿(敬公)を尾張に封じ六十一萬九千石を與へて城廓を此處に創設せし時始めて市街を爲したるものにて爾來二百九十一年間の來歴は徳川氏の治平に連れ常に太平を謳歌して年々歳々發達の方向を示しつゝ明治維新の際に至りても他の大都府が多く兵亂の卷となりたるに拘らず名古屋は毫も其影響を蒙らず、加之明治廿三年東海鐵道の東西に全通するや頗る長足の進歩を促し續いて一昨年に及び關西鐵道の全通するあり商工諸業の發達は人口の激増と共に逐次世人を驚かさんとし現今に於ては戸數六萬二千二百六十六戸、人口廿五萬八千二百九十二人に達し尙ほ市部接續の準市街地を加へれば實に戸數七萬、人口三十萬の上に出づ、而して近年最も着眼すべきは名古屋市の海門たる熱田に築港の舉あり又名古屋の西部笹島方面即ち鐵道停車場附近一帶の地又は市の東南部たる前津小津林東陽館附近一帶の土地の如き會て郡部に屬し當時寥々たる一小村落たりしもの今は市部に編入せられて漸やく繁昌の市區たらんとし、曩時の田園は忽ち變じて工場倉庫の敷地に化する等實に驚くべき變遷を示したる箇所を擧ぐれば約三十餘萬坪の多きに達し尙ほ益々其區域を擴張し、今又中央鐵道名古屋多

治見間の開通は市の東部一帯の土地に非常なる繁昌を招くの氣運を現はし此方面の發達も亦數年の後には實に驚くべきものあるは疑ひを容れず、且つ熱田の築港は五年の後に完成を告げて大船巨船の出入頻繁となるべく中央鐵道も十年の後は濃信甲武の諸州に全通し北陸の交通機關亦大に發達せば名古屋市は真に日本本州の中心点を占め僅々十年間に五十萬以上の人口を有する大都府たらんこと敢て空想といふべからず況んや尙ほ其後年に於てをや、而して尙ほ茲に記すべきことあり即ち既設鐵道としては官線には東海鐵道の殆ど本縣の東西に貫通せらるゝあり中央鐵道の一部たる名古屋多治見間の開通は近く數旬前に至りて東海の支線たる武豊線は早く既に大府を経て名古屋に聯絡し、又私設線としては夫の關西鐵道の犬坂及び畿内伊賀伊勢近江に通じ更に之に聯絡して尾西鐵道の尾張平野を貫通して一宮官線に聯絡せるあり、又東海官線に接続して豊川鐵道は新城に達し共に其地方をして名古屋に密接せしむるもの如くにして盛んに運輸交通の利便に供せられ、尙ほ將來には越中富山に、三遠兩國に、瀬戸或は犬山方面に名古屋を起点として鐵道敷設の計畫と希望とを抱くもの少からず、又右三遠線に接しては西參より南信に鐵道敷設の設計を爲すものあり然れも早晚着手の望みあるものと知るべく名古屋と各地方との聯絡上實に輕視すべからざるものにして將來益々有望の實を證するに足るものなり。

○名古屋離宮

(名古屋城天守閣)



名古屋離宮は舊城本丸の諸建築を編入せられ天守閣も亦其中に在り世人の知る如く名古屋城は慶長十五年徳川家康公其第九子義直卿の爲に六百餘萬石の祿尚を有する諸侯に賦課して之を築造せしめたるものにて、本丸の一部分は織田信長の清須城に在りし建物に移し(西北の角櫓は清須舊城の天守閣と云ふ)其他は當時の名匠に命じて建築せしめ其後寛永の頃更に増築修繕したるものとし有名な天守閣は加藤清正の設計寄進に成るの建築と稱せられ其封國熊本五十餘萬石の収入三ヶ年分に相當する費額を投入して尙足らざりしと傳へ夫の間上の金の賦は双尾各九尺有餘の偉物にして大判一萬八千枚を要したりとは舊記に存する所なり、明治の初年一度取外されて埃木利世界大博覽會に出

品せられ外國人の眼を驚かしたるが間もなく本邦に歸來して再び閣上に備へられ依然舊時の美觀を保ち黄金の輝色燦爛として名古屋に於ける内外人注目の焼点となり居れり、又舊城本丸は廢藩後陸軍省の所轄たりしを明治廿六年六月宮内省に引渡され最も光榮ある離宮と定められ續て非常に修理を加へられしかば壯嚴昔日に増さる殊に殿内の襖・壁張等に描ける狩野土佐諸名家の妙筆は今日の時に遭ひて益々光彩を放つこと洵に面目ありと謂ふべし。

○諸官衙及び公會議場

○愛知縣廳　は本年迄南久屋町茶町筋の行當りに在りて左に縣會議事堂、右に警察部を控へて西面せしが名古屋市に於て茶町筋の大道路を東方千種停車場(中央鐵道)に開修するに就き七曲町(道路開修の上は東榮町と改稱するの議あり)舊本縣第一師範學校跡の敷地へ移轉せられ縣會議事堂も亦同所に移轉することとなり即ち縣廳は南面して新開の大道路に其本門を構ふるものと知らるべし。

○第三師團司令部　舊城三ノ丸舊東照社天王社の跡に置かれ歩兵第五旅團司令部は其構内の東北に、軍法會議は其西北に、監督部は司令部の西方に在り又歩兵第六聯隊は舊城二ノ丸趾に、其他騎、砲、工輻重の各隊並に衛戍病院等は總て舊城三ノ丸趾に在り。

○名古屋控訴院　は本町一丁目(舊町方役所趾)に在りて愛知岐阜三重三縣内の法衙を管し名古屋地方

裁判所は東外堀町に在り尾張一國を管し三河に對しては額田郡岡崎町に支部を置き之を管す又名古屋區裁判所は地方裁判所の構内に在り。

○名古屋稅務管理局　は東古渡町字柳畑にあり其管する所は愛知三重岐阜の三縣下とし名古屋稅務署は其構内に在り又其附近には大藏省の葉煙草專賣支局あり。

○名古屋郵便電信局　は茶町筋住吉町角に在りて市内の郵便受取所は二十二箇所あり明治三十二年中の郵便物取扱數は配達七百一十一萬〇三百四十二通、引受八百六十二萬〇五百八十三通とし、又同年中電信の發着は内國に於ける發送は十四萬九千三百三十八通、到着は二十一萬四千七百六十八通なり。

○名古屋電話交換局　は市内及び熱田枇杷島等に於ける電話の交換を掌り併せて長距離電話を取扱ふ長距離電話は東京(一通話一圓)、横濱(同上九十五錢)、神戸(同上六十五錢)、堺(同上六十錢)、大阪(同上五十五錢)、京都(同上四十五錢)、大津(同上四十錢)、四日市(同上廿五錢)、桑名(同上廿五錢)にて現今普通電話加入者(一ヶ年五十四圓を納む)五百五十四名(外に關係官衙に五個あり)、長距離電話(特、一ヶ年通話料の外に六圓を納む)加入者三百八名あり。

○憲兵隊及び警察署　第三憲兵隊本部は南外堀町に在り第三憲兵分隊本部及び名古屋市憲兵屯所は其裏手本町一丁目に在りて控訴院と相對す、又名古屋警察署は南久屋町四丁目(舊縣廳構内警察部跡)に置

かれ門前町分署(門前町五丁目即ち大須門前に接す)、江川町分署(和泉町三丁目)、鍋屋町分署(石町三丁目)を有す各署の所轄區域は左の如し

▲名古屋警察管内 茶屋町、和泉町、小田原町、下長者町、玉屋町、仲ノ町、四柳町、蘇鐵町、久屋町、伊勢町、宮町、白山町、車道東町、長島町、木挽町、伏見町、本重町、新柳町、繁三ツ談町、笹島町、泥江町、南外郎町、南桑名町、矢橋町、下奥山町、車道町、上長者町、皆月町、西高町、桶屋町、榮町、船入町、納屋町、横三ツ談町、白川町、八百屋町、南桑名町、辰巳町、南小川町、菅原町、上岡町、東高町、園井町、島田町、東安町、池田町、水主町、末廣町、南大津町、南伊勢町、南辰巳町、七曲町、桑名町、車ノ町、材木町、小市場町、朝日町、南武平町、南新町、天王崎町、入江町、前津小林、奥田町、春庭横町、宮出町、蒲焼町、大津町、廣井、花車町、傳馬町、西菅原町、南久屋町、宮澤町、武平町、内藤敷町、伊倉町、本町、四瓦町、東本重町、關原治町、京町、小島町、袋町、住吉町、大坂町、針屋町、四魚町、北浦町、下岡町、南伏見町、南天町、寶町、神樂町、七間町、東柳町、月見町、磯崎町、研屋町、鶴重町、東魚町、南福宜町、中市場町、東橋町、四新町、南福宜町、南鍛冶屋町、東田町、桑原町、梅ヶ枝町、東瓦町、南長島町、流川町、東新町、(愛知郡の内支那、千種岡村の一部も同署の所轄とす)

▲門前町分署管内 門前町、金澤町、吾妻町、宮岡町、不二見町、下津津町、永樂町、東角町、船屋町、東橋町、古渡町、西洲崎町、櫻町、役割町、橋町、東古渡、古城町、花園町、若松町、三輪町、葛町、下堀川町、西脇町、前津小林(南部)、小林町、下目屋町、松重町、上堀川町、梅川町、蛭子町、正木町、霧谷町、梅園町、伊勢山町、下茶屋町、岩井町、常盤町、四角町、前塚町、上目屋町、日ノ出町、根津町、城代町、旅籠町、裏門前町、天王町、音羽町、春日町、(愛知郡の内支那村の一部も同分署の所轄とす)

▲鍋屋町分署管内 鍋屋町、飯田町、松山町、添池町、布池町、車道東町、杉ノ町、小川町、板屋町、安房町、車道町、東矢場町、倉入町、榮町、往還町、平田町、黒門町、赤塚町、水筒先町、手代町、堅代官町、荻屋町、古出来町、東主税町、東二葉町、城道町、新出来町、東白壁町、檀木町、八軒家町、東門前町、山口町、前ノ町、長麻町、森下町、土居下町、長久寺町、白壁町、大曾根町、清水町、下野杉ノ町、宮士塚町、七小町、上野杉ノ町、東芳野町、芳野町、東外堀町、東片端町、石町、東新道町、裏井井町、駿河町、相生町、高岳町、筒井町、石神堂町、(西春日井郡の内清水町、杉村及び六郷村の一部は同分署の所轄とす)

▲江川町分署管内 大船町、廣井、埴町、高埴町、澤井町、井桁町、堀詰町、小舟町、上渡間町、下渡間町、奉公人町、江戸屋町

南陽町、殿下町、千盛町、枝郷町、新道町、江川町、渡岡町、南原匠町、北原匠町、紙漉町、北野町、江中町、倭町、笠寄屋町、樋ノ口町、五平蔵町、泥町、上仲町、吹出町、前ノ川町、手木町、山神町、庭町、新屋敷町、江川端町、江川根町、柳町、深井町、花ノ木町、白壁町、養所町、六句町、外山町、北陽町、明道町、上島町、馬喰町、押切町、八坂町、南押切町、平野町、

○名古屋測候所 は南武平町二丁目にあり明治廿三年七月の創立にして尾三兩國の氣象に關する事項を掌り毎日天氣豫報を發し、又風雨警報河川出水豫報を發し且つ毎月二種の氣象報告を定期刊行し天候氣候の變化を臨時報告する等専ら其應用普通を計り年内の報告發數は約二萬にして殊に近來は電話加入者の電話を以て天候等を問合する者尠からざるに至れり。

○御料局名古屋支廳 は武平町東片端町角に在り。

○第四土木監督署 は上野杉ノ町主税町角に在り。

○鐵道作業局出張所 は泥江町にあり目下主として中央鐵道工事を管轄す。

○愛知縣監獄署 は千種村(愛知郡なれを茲に出す)に在り敷地三萬餘坪、其構造の壯大と内部の整頓とは全國中殆んど無比の稱あり。

○名古屋市役所 は榮町筋(南大津町と南伊勢町との間)にあり戸籍役場も此内に設けらる市會議事堂も亦此構内に在りと知るべし。

○諸 學 校

○愛知縣第一師範學校 是東芳野町に在り現今生徒數二百八十八人。

○愛知縣第一中學校 是南外堀町に在り現在生徒數七百八十九人。

○愛知醫學校 是天王崎町愛知病院と同構内に在り現に生徒六百八十八人を養成す。

○名古屋高等女學校 是南外堀町に在り市立にして生徒三百餘人あり。

○名古屋幼稚園 是南久屋町にあり初め私立なりしが後ち市に寄附せられ昨年高等女學校に附屬せられたり現に保母五人、兒童百五十三人を有す。

其外名古屋地方陸軍幼年學校(官立、長塚町)、名古屋商業學校(市立縣費補助、南大津町)、明倫中學校(徳川侯爵家設立、東主税町)、英和學校(私立、長久寺町)、金城女學校(私立、白壁町)、清流女學校(私立、東片端町)あり、又市立高等小學校六校、同尋常小學校二十八校あり高等小學の生徒現在數は四千四百三十五人、尋常小學の生徒現在數は一萬三千二百五十七人なり。

○赤十字社支部

○日本赤十字社名古屋支部 是愛知縣廳内に設けられ現任知事沖男爵其支部長たり、名古屋市に於ける社員數は有功社員一名、特別社員十五名、終身社員四百十五人、正社員二千〇〇二人、贊助社員九十四人とし全縣を通じて各社員の數二萬四千六百九十八人(本年八月末日調査)あり又本年一月以來毎月の入

社員は平均百餘名に當れり。

○病院

○愛知病院(縣立) 是天王崎町に在り西の方堀川に臨める高地にありて遙かに尾張西部の平野及び濃勢の連山を眺望す院長は醫學士熊谷幸之輔氏にして内科外科眼科婦嬰科には各醫學士の主醫及び係醫員を置き病室の數は甲室二十室、乙室五十室、丙室(二人詰)十一室、丁室(四人詰)九室を有し別に傳染病室六室の設けあり。

○好生館 是城西堀の口町にありて其三層樓は眺望甚だ佳なり、本館は往年故横井陸軍軍醫監の創設せられたるものにて上中下の病室九十三室と傳染病室七室とを有し現にドクトル北川乙治郎氏館長たり醫學士佐藤勤也氏は副館長たり。

○川原療病院 是下堅杉の町にあり會て愛知病院内科醫長たりし醫學士川原汎氏院長として之を創設し病室數多を有せり。

○柴田婦産兒科院 是武平町にありて蒲燒町に分院を有す院長は會て靜岡縣に在り後愛知病院婦嬰科醫長たりし醫學士柴田耕一氏にして本院も亦數多の病室あり。

○浪越療病院 是南園町に在り院長は曩に愛知病院眼科醫長たりし醫學士小倉開治氏にして是亦病室

數多と有す。

○右の外前田眼科院(北鷹匠町)、野村眼科院(桶屋町)、鈴木診療館(南外堀町)、中川療痔館(神樂町)、小島病院(南武平町)等の病室を有するあり又病室を有せざる開業醫の總數は約二百四十名なり。

○博物館

○愛知博物館(縣立) は門前町に在り館は品評所、美術館、第一、第二、第三、第四の諸館及び賣品館を以て成立ち別に五二會賣品館あり園内には鶴、熊、鹿其他の動物を飼養し植うる處の樹木には櫻、紅葉多く春秋の兩季は一層の風趣を添へ來觀者を樂ましむ、又品評所の北方には有名なる猿面さるめんの茶室あり同茶室に接する日本風の座敷中には希代の名畫多く襖張り四百餘枚の繪畫の如きは來觀者をして覺せず噴賞の聲を發せしむるもの多し。

○愛知教育博物館(私立) は門前町七ツ寺境内の西部に在り其創設に最も盡力したるは醫學士奈良阪源一郎氏なり、創設以來幾多困難なる事情を排して専ら維持に努めたるを以て此館内に藏する諸種の標本の如き他に多く其比を見ざるものあり。

○慈善事業

○愛知育兒院(私立) は矢場町一の切にあり明治十九年の創立にして爾來百四十九名の育兒(男八十

二人、女六十七人)を収容し本年三月末日の現在兒數は六十三人にして内二十二人は尋常小學校へ通學せしめあり同院の資本金は六千五百三十六圓八十八錢を有せり。

○大日本施藥院(私立) は南瓦町に在り院長は二條公府にして事務所は橋詰町慶榮寺内にあり、大坂四天王寺に奉置せられたる聖徳太子の尊像を申受け況く淨財を勸募して貧民に施藥す但し此貧民と稱するは市區町村長又は衛生組合長に於て貧民たることを証明したるものに限れり。

○愛知縣出獄人保護會(私立) 事務所を大津町光圓寺に設け會長は本縣書記官菅井誠美氏にして幹事評議員等を置く。

○名古屋聯合音樂會 は毎年春秋二季に慈善音樂會を適宜の場所に開設し其收納金を以て慈善事業に充て、又金城婦人會も本年より適宜の場所に於て其手製品等を販賣し其收納金を以て慈善事業に充つるの舉あり、此外慈善會支部等の設けあり、又近來は慈善百書會等を催して其收入金を慈善事業に投入することあり。

○神社

○東照宮(縣社) は長嶋町に在り尾張藩祖義直卿の元和五年創建せられしものにて元は舊城三の丸(今の師團司令部所在地)にありしが維新後現在の地即ち舊藩校明倫堂の趾に移され社殿の結構尙舊觀を

存す、祭神は家康公に山王、日光の両権現を配祀し後に藩祖義直卿、前藩主慶勝卿の神靈を合祀せらる
毎歲陰曆四月十七日本社の祭事は名古屋市中最盛の大祭として遠近各地に喧傳せらる、往時は此宮の
別當として天長山尊壽院神宮寺なるものありしが維新後神佛兩部を廢せられ今は全く廢寺となりぬ。

○那古野神社(縣社) は上長者町に在りて東照宮の東に隣りし境内殆ど區別を見ず、祭神は須佐之男
命を祀り醍醐天皇延喜十一年の鎮座にして俗に龜尾天王社と云ひ慶長十五年名古屋城建築の當時此社の
み、城内に存留せられて府城の鎮護府民の兵神たらしめられしものにて近年迄は須佐之男神社と稱せし
も那古野開創の神社とも云ふべきに依り那古野神社と改稱せられき、現今の場所に移轉せられしは東照
宮と同時に別當龜尾山安養寺は尊壽院と共に廢寺に歸したり。

○若宮八幡社(縣社) は末廣町にあり天武天皇の御宇に鎮座あり祭神は仁德天皇(御相殿は應神天皇
武内宿禰)と申す慶長十五年までは舊城三の九天王社の南にありしが築城の際今の地に移轉されしもの
にて境内大樹多く維新前は社の裏手御旅所(若宮横町)には出入門なかりしが今は住吉町に通する場所に
二門を開き名古屋の中部に於ける小公園の姿を示せり。

○泥江縣神社(縣社) は袋町一丁目にあり廣井八幡と稱し祭神は應神天皇、神功皇后、玉依姫の三坐
を祀き奉り境内には神明社熊野社熱田社等其他末社數座あり數百羽の鳩は常に境内に戯れ居るも神鳥な

りて何人も害を加へざれば能く人に馴れたり。

○日置神社(縣社) 一に日置八幡(式内)と云ひ桶町妙善寺(七面山)の西に在り延喜式愛知郡日置天神
とあるは是れなり鎮坐の年代詳かならず祭神は應神天皇と申す。

○開森八幡社(縣社) は古渡橋筋の北側にあり祭神は應神天皇、神功皇后の二柱なり永正十八年重修
の古記あれば勸請は遙かに上代なるべく古木陰森鬱鬱は開く元祿享保の頃既に非常に樹木の生茂りたる
こと舊記にあり開の宮の名は餘程古き時代より起りたるものと見ゆ、此地鎮西八郎爲朝に縁故ありと聞
ぬ其靈をも本社に合せ祀るとの説あり。

○朝日神社 は榮町筋富澤町東にあり天照太神、天兒屋根命の二坐を祀る鎮座の年代詳かならず慶長
十六年春日井郡朝日村より名古屋に移され朝日神明社と稱せらる、此邊は榮町繁昌の土地なれば夜店多
く境内には賣卜者益菟店など少なからず。

○櫻天満宮 は菅原町櫻町通本町西にあり天元九年の創建にして名古屋築城の時天守圍の足場は此處
より掛け渡されしと傳ふ、往時は別當職として櫻花山靈岳院なるものありしが今は廢寺となり、又其頃
は二六時の梵鐘ありて特に名古屋市中は是に因りて時刻を知るの便ありしが是も今は師團の午砲と變化
し靈岳院の跡は菅原尋常小學校となれり。

○涿川神社 是浪越公園内にあり維新後の鎮座にして楠公を祀れり。

○佛閣

○徳興山建中寺 是筒井町京筋東に在り藩祖義直卿追福の爲め慶安四年二代目光友卿(瑞龍院殿)の創建せられしものに係り舊藩侯及び其夫人などの廟所あり境内極めて宏潤、殿堂亦頗る壯麗なり殊に徳川氏歴代の位牌を安置せらるゝ、靈屋の如きは恰かも東京芝増上寺の徳川家靈廟に似て規模稍々小なるのみ。

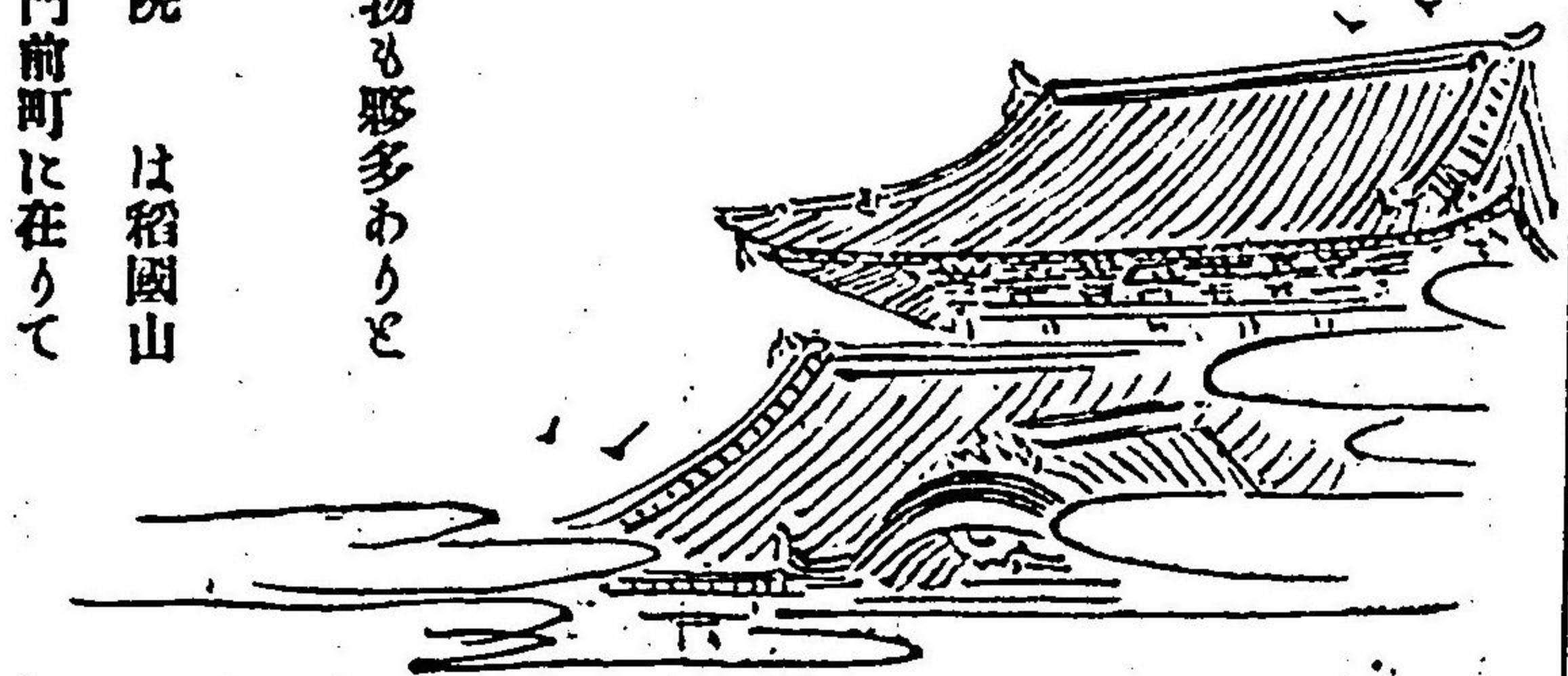
○大谷派本願寺別院 是下茶屋町に在り天正年間僧祐賢なるもの盤江村に泉龍寺といふ門徒寺を創設せしが慶長十一年之を名古屋袋町に移し、其後本願寺十六世の門跡一如上人名古屋に別院を置かんことを希望し舊藩主の允諾を得て元禄三年泉龍寺を別院とし續て同年十二月藩侯より古渡村の内古渡の古城趾一畝餘坪を本願寺に寄附せられ同五年より別院建築の經營に着手し同十三年に至り一如上人は遷化せられしも同十五年十月十七世眞如上人の時始めて其工を竣り東掛所と稱す、其後文化の頃本堂改築の舉あり現今のもの即ち是れなり其建築の大なる其用材の美なる殆ど日本全國無比の稱あり、明治廿四年の大地震に際しても些少だも損害を蒙らざりしが如き以て其堅牢の他に類ひなきを知るべし、又此境内には櫻樹の老なるもの數十株あり花期爛熳の候は市内の貴賤老若群を爲し又別院の東に當る廣見には掛

茶屋夥しく出で来て其賑かさ言はん方なく殊に廣見は前津の田面を瞰下し遠く三河の峰巒を望み風景實に佳なり。

○本派本願寺別院 門前町にあり眞如上人の時代、尾張の大守織田信雄公に請ふて伊勢長嶋の廢寺たる願証寺(昔は勢尾濃三ヶ國の小木山)を再興し清須に其寺を築き慶長十五年後名古屋に移轉し尙願証寺の名を存せしが享保年中始めて別院となりぬ、境内に櫻の大樹十數株あり春日遊人絶えず院内の壯嚴は東別院に劣らずして規模稍々小なるあるのみ。

○大須眞福寺 是門前町にあり北野山眞福寺寶生院と云ひ昔は中嶋郡大須の庄北野村(今は美濃に屬す)にありしが慶長十七年即ち名古屋築城後二年目に家康公は住僧堯遍に命じて今の地に移轉せしめらる、當時此邊は尙ほ極めて偏僻にして門前町は兩側共に松原の姿なりしが爾後元禄享保の間には頗る繁昌を來し門前町橋町には旅亭を連ねたりと云ふ、維新後大須の北隣清壽院の地は浪越公園となり大須の西北近接地には遊廓を設け南に七ツ寺あり境内には劇場見世物小屋寄席を始め幾多の賣物店客を呼び四時の賽客遊人絶ゆる間なく名古屋第一の繁昌地たり、又當寺は本堂山門等の外に五重塔あり市内唯一の者なりしに去る明治廿四年火災に罹り本堂山門五重塔共に燒失せしが爾來山門と本堂とは舊時に優る新築出來たれど五重塔は未だ再築に着手せず、尙當寺は往時後村上天皇の御祈願所として其名高く殊に

皇子二品
任瑜法親
王は第三
世の住職
として當
寺に居給
ひたるに
依りおほ
ろけなら
ぬ勅願所
なりしゆゑ寶物も夥多ありと
なり。



十六
秋
浄
心
近
茶
カ

(大須眞福寺邊風俗圖)

○七ツ寺正覺院 是稻園山
長福寺と稱し門前町に在りて

北は大須に隣りし南は西本願寺別院に接す天平七年行基菩薩の開基にして昔は中嶋郡七ツ寺村にあり、世に言ひ囃さるゝ光仁天皇の天應元年河内權守紀是廣が反魂香の古事は即ち當寺の住僧智光の時代に在り、斯て當寺は七區の伽藍十二の僧坊ありて種々の來歴を経て天正十九年豊太閤の命に依り清須に移り慶長十六年(大須より一年前)再び今の地に轉せしものにて當寺に在る古佛像及び經文古文書の類には實に國寶と稱すべきもの少なからず、又寺中に在る三重塔は極めて有數の建築と聞ゆ、境内繁昌は大須に次ぎ温泉料理店等あり其西部には教育博物館あり明治館(潮奈店)あり。

○七面山妙善寺 是橋町にあり天和三年の建立にて其以前愛知郡岩作村に妙禪寺といふ廢寺ありしより其名を採りて妙善寺と稱し延寶の頃より藩侯の崇信厚く逐次繁昌せり安置せる七面像は茶屋長以の自作なりと傳ふ。

○護國山東輪寺 是橋町にありて古渡町に接近す寛文十一年唐僧千泉和尚の創立にて一時廢寺の姿となりしを元祿五年再び舊に復し宇治黄蘗山萬福寺の直末として其名近國に顯はる、本尊は明人作の釋迦文殊普賢の像にて有名なるものなり、又當寺にては齋食に普茶を供することあり即ち明時代の野菜料理の遺風なるべし。

○五百羅漢 是新出來町にあり福壽山大龍寺と云ふ享保十年の創建にて本堂(本尊は丈六拈華の釋迦)

の両袖にある堂内に五百羅漢像を安置す其像の大なる殆ど普通の入牀に同じきものあり名工の作少ならず、維新後一時非常に頽敗せんとせしが近時は住僧及び有志者の盡力にて舊觀に復し保存會の設立を見るに至り内外人の賽客觀覽者頗る多く名古屋名勝の一に數へらる。

○蓬萊山徳源寺 是新出來町にあり元青龍山寶泉寺といひて熱田にありしを寛文二年愛知郡石佛村に移し今の山號に改め元祿二年日置村に移し寛保元年燒失後始めて今の地に移し文化六年今の寺號に改めたり、臨濟宗妙心寺末にして輓近碩徳相踵て出で四方の雲衲集來して禪道を修するもの多く近年に至りて其名漸やく顯はる。

右の外市内にて有名の寺院は左の如し

大光院	(門前町)	總見寺	(門前町)
萬松寺	(裏門前町)	性高院	(門前町)
政秀寺	(矢場町)	極樂寺	(門前町)
阿彌陀寺	(門前町)	大林寺	(南桑名町)
高田本坊	(替地町)	高岳院	(高岳町)
相應寺	(山口町)	法華寺	(小川町)

大光寺	(鍋屋町)	法輪寺	(小川町)
照遠寺	(小川町)	養念寺	(飯田町)
長久寺	(長久寺町)	守綱寺	(矢場町)
白林寺	(矢場町)	常德寺	(南小川町)
妙蓮寺	(南小川町)	圓頓寺	(橋詰町)
光明寺	(白川町)	西光院	(白川町)
徳林寺	(口ノ出町)	榮國寺	(東橋町)

○教會 南久屋町に美以教會あり、善光寺筋に天主教公會あり、南長嶋町に美普教會あり、南伊勢町名古屋教會あり、南外堀町に日本基督教會あり。

○故跡

名古屋には故跡なるもの甚だ稀れなり、是れ名古屋は三百餘年前迄は寥々たる一寒村に過ぎずして海道の宿驛にもあらざりしが故なり、殊に千余年前にありては名古屋は那古野、浪越などの文字用ゐられ今の前津小林邊又は西部笹嶋方面より庄内川に至るの間は海水深く灣入し漸く東北より那古野熱田に達する半嶋形の土地たりしこと舊記に因りて分明なれば、其以後稍々開發せられたる後も別段是ぞと云ふべ

き故跡なく漸やく六七百年前に於ける

○鎌倉街道の遺跡　として主税町(盛杉ノ町の通)に鎌倉街道の榜示石杭の存在せしものありしが是も維新後何れにか紛失し師團廓内今の砲兵營所の前に在る老松二三株は即ち鎌倉街道の並木松なりと云ひ之より富士塚町富士権現の土地は最も古き舊記に存し居り、尙ほ更に前津小林の七本松も鎌倉街道の並木松なりと云ふ者あれども考証確かならずし又

○名古屋の古名勝　として山吹谷(東片端町の阪下)、紫川(榮町より二丁程南に、北よりも南よりも低下せる土地大抵花屋町通に當る)、鶯谷(洲崎橋の東南)などの名ありて故跡に數へらるれども其時代は三所とも同一ならざるべく又其正確なる考証を得る能はず、緋かに名所圖繪等に記載せらるゝものあれども其だおぼろげなるものにて山吹谷は今人家偏比し紫川の遺跡は今は大下水路の一部分と變じ鶯谷も亦甚だ不潔見るに足らざる土地と化しぬ。又

○近古時代の故跡　としては那古野、古渡の城跡にて那古野城は矢張舊城二の丸邊(今の歩兵第六聯隊營所)の一小部分なりと云ひ古渡城は今の大谷派本願寺別院の土地なり(別院内に其趾あり)、又徳川時代となりては變遷甚だ少きも前津の富士見原(今の富士見町の東に當り南北約二百間東西約百二十間)及び橋町東輪寺裏葛町かつらの邊(昔は西小路と云ふ)は享保元文の間名古屋の遊廓として非常に繁昌し伊勢古

市の備前屋の如きは元文の末年右両所廢廓の命下りて同所に移轉したるものなりと云ふ。又

○二子山と那古野山　の内二子山の故跡は徳川時代以前のものにて今の西本願寺別院裏の高地は其遺蹟とし、那古野山の故跡は今の浪越公園(門前町)内の小丘なり徳川時代には此邊清壽院の林泉地にて老樹生茂り怪石道を擁し其幽深清酒言ふばかりなかりしに維新後其廢院と共に此林泉は殆ど其全部を破壊せられ今日纔かに存するものは那古野山の名残りなる一小丘と老樹十數株あるのみ其他は公園の名稱を附してより再び植樹したるものなり。又

○堀川　は慶長年中名古屋の築城と共に運河として開鑿せられしものにて福嶋正則の一手に引受けたるなりと云へど這は堀川筋に太夫堀といふ所ありて恐らくは其邊のことなるべく全長の工事は矢張他の諸大名の手傳ひもありしならん。又

○舊藩の古刑場　として聞ゆるは東本願寺別院裏榮國寺の地にして慶長より寛文に至るの間舊藩の刑場(俗に仕置場)たり殊に嶋原乱の後名古屋及び郡村に在りし耶蘇教徒一千餘人此處にて斬首せられたる悲惨の舊地なり(寛文五年に西春日井郡土器野に刑場を移し跡に一寺を建立す榮國寺是れなり)。

○陳元贊の宅址　明末の處士陳元贊が名古屋に來りて藩祖義直卿の知遇を受けたことは世人の知る處なるが此宅址は袋町西廣井八幡の邊にありしと云ひ其場所分明ならざるも其父子の墓は筒井町建中寺

にあり。

○小抽塚 又時代は古るけれども太政大臣師長公の井戸田に配せられしとき契り浅からざりし横井氏の女が公の歸洛を悲しみ公を逐ひて琵琶嶋に赴くの途次小袖を掛けて遺物とせしは當市鍛冶屋町通本重町北東角の邸地裏にあり四五十年前迄は小き塚あり松樹一株を植ゑありしと云へど今は只ればるげに口碑に遺れるのみ。又

○御下屋敷の跡 は東部榮町筋大道路改修地に接し南小川町(舊法華寺町)より約一町餘の東より東北一帯數萬坪の土地なるが是も元祿享保の間までは藩侯の最も意を注ぎて經營せられたる園圃とし林木泉石の勝概東海第一のものたりしに元文以後は格別の修補もなく放棄しありて殊に維新後は惜ひべし悉く此名苑は一種雜沓たる原野に化し僅かに當時の遺物として見るは小丘の各所に散在して清泉の流るゝゝるのみ現今は其一部分たる一萬八千餘坪の土地名古屋市の有となりて公園地たらしめんとするの希望を抱くものわれども未だ確定に至らず。

○商工業概評

名古屋の商工業に就て茲に概評を下さんに、草創時代にありては大抵商工共に名古屋在住者の需用に對して供給するを目的とし近國郡村地方への販賣は真に附屬的の事に過ぎざりき、中古に及びて信州及び

東濃地方に對し商取引を開始せしも未だ商業都府たるの實なく又工業地たるの姿も備へざりしが明治廿三年東海鐵道の東西に貫通するや名古屋の商工業は頓に長足の進歩を示し從來多少見るべき商工業は大に其規模を擴大せるのみならず新に興れる商工業の意外に盛運を迎へたるは全く運輸交通機關の利便を得たるに因るものにて爾來關西鐵道の開通は益々陸運の便宜を進め熱田海上船舶の出入は愈々頻繁を加へ今亦名古屋多治見間の鐵道開通に依りて更に名古屋の商工業に一新面目を來さんとせり、而して今日名古屋工業品にして外國貿易に充るもの頗る多きのみならず商取引の上に於て内國向の諸品が東京大阪等大都會地商人の手を經ずして直接に東は北海道、奥羽、關東、北陸の諸州及び西は畿内、山陰、山陽、又は九州、南海の諸州に取引する者日に多きを加へ嘗て信越鐵道開通の爲めに名古屋の取引先を關東商人に占有せられたるものは遂からずして再び其幾分を回復するの氣運を迎へんとす、殊に茲に特筆すべきは名古屋市人は生活費の他に比較して低廉なるより賃銀は割合に廉なるが上に男女手工に關するものは其製産頗る多く隨つて他地方の製造品に對する競争上大に便宜を得ることあり東西各地の特製品と稱せられしものにて今は其歩を名古屋に譲るもの甚だ多きを來したるは之が爲めなるべし。

○商工團體

○名古屋商業會議所

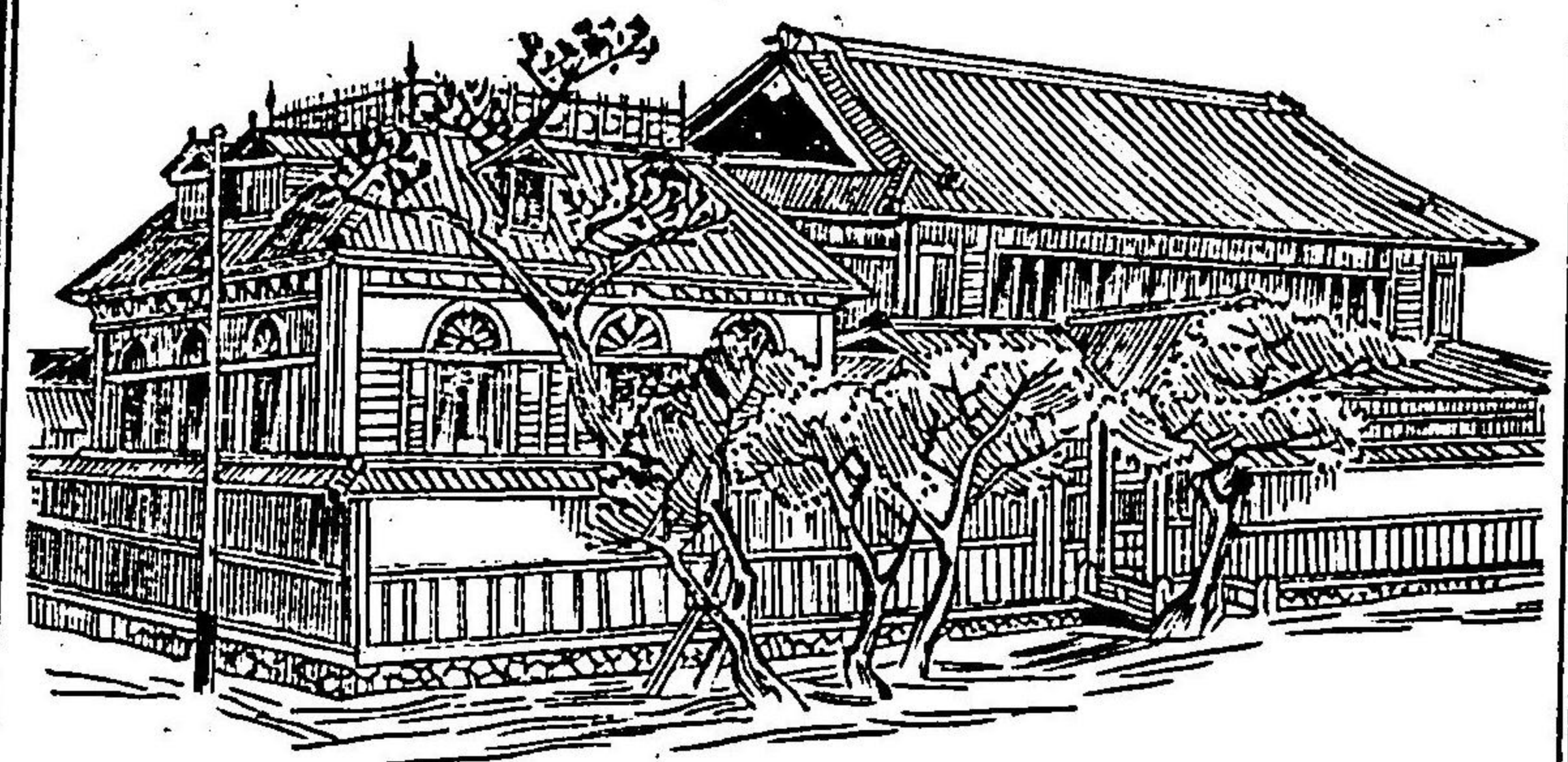
は榮町筋南久屋町角にあり會員の數三十五名、外に特別會員數名を置くことわ

り當會議所は明治廿九年新築し樓上には凡る百數十畳の大廣間を設け商工業に關する諸集會の席に充ることを得せしめ別に會議には壯麗完備の會議室あり榮町筋に於ける一壯觀にして現今會員選舉權を有する商工業者は二千九百六十九人、一箇年の經費徵收額は金八千九百六十六圓餘なり。

○商工業組合 名古屋市に於ける重要物産同業組合は左の如し

- | | | |
|---------------|-----|-------|
| 愛知燐寸同業組合 | 事務所 | 伊倉町 |
| 尾三勢漆物鍋釜農具同業組合 | 同上 | 鍋屋町 |
| 名古屋紙製品同業組合 | 同上 | 江戸屋町 |
| 愛知七寶商工同業組合 | 同上 | 玉屋町 |
| 愛知縣生糸製造同業組合 | 同上 | 駿河町 |
| 名古屋市硝子同業組合 | 同上 | 目下撰定中 |

築建所議合業商屋古名



名古屋市綿毛布同業組合 設立計畫中 名古屋市吳服太物同業組合 設立計畫中
 愛知縣肥料米穀雜穀同業組合 設立計畫中 名古屋漆器同業組合 設立計畫中
 右の外未だ重要物産同業組合法に依らざる從來の組合を存續し居るもの左の如し

- | | | | | | |
|-------------|-----|------|-------------|---|------|
| 愛知縣管内時計製造組合 | 事務所 | 本町 | 漆商精漆組 | 同 | 和泉町 |
| 農表商組合 | 同 | 赤塚町 | 玩弄器商工組合 | 同 | 玉屋町 |
| 糖商組合 | 同 | 南瀬宜町 | 名古屋漆器商工組合 | 同 | 伊倉町 |
| 佛壇佛具商組合 | 同 | 七間町 | 書籍商組合 | 同 | 鐵砲町 |
| 酢釀造業組合 | 同 | 袋町 | 砂糖商組合 | 同 | 上園町 |
| 名古屋製島商組合 | 同 | 三輪町 | 薪炭商組合 | 同 | 堀川町 |
| 搬商組合 | 同 | 船入町 | 彫物職組合 | 同 | 桶屋町 |
| 名古屋抄紙業組合 | 同 | 月番交代 | 名古屋菓子製造營業組合 | 同 | 鶴重町 |
| 名古屋油商組合 | 同 | 赤塚町 | 名古屋樂器商工組合 | 同 | 京町 |
| 名古屋繪具染料組 | 同 | 榮町 | 名古屋洋物商組合 | 同 | 東西町 |
| 名古屋市文房具商工組合 | 同 | 宮町 | 藥種商營業組合 | 同 | 月番交代 |

名古屋元結商工組合	同	堀詰町	名古屋賣藥業組合	同	月番交代
青物商組合	同	新柳町	名古屋洋鏡商組合	同	撰定中
名古屋染物職工組合	同	京町	名古屋煙草業組合	同	傳馬町
名古屋箔置業組合	同	金澤町	味噌溜商組合	同	車ノ町
吳服太物洋反物小賣商組合	同	茶屋町	職工業組合	同	本町
名古屋材木商組合	同	材木町	名古屋靴業組合	同	傳馬町
乾物生熟業組合	同	西魚町	名古屋煙草仲買業組合	同	桶屋町
名古屋吳服物洋反物木綿絞卸商組合	同	上園町	名古屋種菓子製造營業組合	同	橋詰町
酒類商名古屋組合	同	傳馬町	米穀商組合	同	納屋町
名古屋肥料米穀問屋組合	同	大船町	名古屋瀝車積業組合	同	笹嶋停車場前
名古屋瓦商組合	同	下堀川町	名古屋酒造組合	同	傳馬町

○商業興信事業

○商業興信所支部

は茶屋町(上長者町西へ入る)に在り大阪商業興信所の支部とし専ら當地方に於け

(備考) 此組合中には重要物産同業組合の成立と共に舊組を解散するものありと知るべし

る商業興信の事業を行ふ。

○銀行

○日本銀行名古屋支店 中央部新柳町に在り愛知、三重、岐阜、静岡、福井の五縣下に對する營業區を支持し國庫金の取扱ひ及び普通銀行を始め其他貸付割引の業を營めり。

○尾三農工銀行 愛知縣廳内に在り、明治三十一年五月の設立にして株式組織資本金百五十萬圓(本年八月迄拂込七十五萬圓)、現今縣金庫の事務を取扱ひ居り最近(本年六月末日)の調査に依れば其貸付總高五十四萬餘圓にして當座預け五十一萬餘圓とし現任頭取は小栗富治郎氏なり本年八月三十一日限第三回株金の拂込みを爲したれば現今の拂込金は百十二萬五千圓となり榮町大道路開通の後には縣廳附近に本行新築の準備あり現今の貸附歩合は農業に對するもの三分の二を占め居れり。

○愛知銀行 中央部玉屋町に在り明治廿九年四月株式組織の設立にして資本金二百萬圓(現今拂込百萬圓)とし諸預り金は三百五十餘萬圓とす現任頭取は岡谷惣助氏にて半田、豊橋、津、岡崎に支店を有し津嶋に出張店を置けり。

○明治銀行 中央部傳馬町に在り明治廿九年八月株式組織の設立にして資本金は三百萬圓(現今拂込七十五萬圓)とし諸預り金は二百八十萬餘圓を有す頭取は神野金之助氏にして熱田、金澤の兩支店と市

内門前町に南出張店を設けあり。

○名古屋銀行 中央部傳馬町に在り明治十五年七月株式組織の設立にして資本金五十萬圓（現今拂込三十二萬圓）、諸預り金は百四十八萬餘圓あり頭取は澁兵右衛門氏にて京都に支店を有し蟹江に出張店を市内奥田町に東出張店を設けあり。

○伊藤銀行 中央部茶屋町にあり明治十四年九月株式組織の設立、資本金十萬圓（悉皆拂込）にして諸預り金は百五十六萬圓餘に達し居り頭取は伊藤治郎左衛門氏なり。

○小栗銀行 中央部新柳町に在り明治三十一年六月合名組織の設立にして資本金十五萬圓とし諸預り金は五十三萬圓餘、頭取は小栗富治郎氏なり。

○關戸銀行 中央部傳馬町にあり明治二十四年三月關戸守彦氏一個人の設立とし資本金拾萬圓、諸預り金は七十三萬餘圓に達し現今行主は矢張り關戸守彦氏なり。

○愛知實業銀行 中央部傳馬町に在り明治三十一年三月株式組織の設立にして資本金十五萬圓（拂込済）、諸預り金は拾八萬一千餘圓とし頭取は吉田祿在氏なり。

○商業銀行 南部鐵砲町にあり明治廿七年五月株式組織の設立にして資本金三十萬圓（現今拂込廿二萬五千圓）とし諸預り金は四十二萬餘圓を有す頭取は八木平兵衛氏なり。

○尾張銀行 南部門前町に在り明治廿七年一月株式組織にして資本金三十萬圓（現今拂込十四萬二千五百圓）、諸預り金は十二萬圓餘とし現任頭取は後藤増平氏なり。

○幅下銀行 西部小舟町に在り明治廿七年六月株式組織の設立にして資本金拾萬圓（拂込済）、諸預り金は廿二萬圓餘を有し頭取は加藤彦兵衛氏なり。

○金城銀行 東部赤塚町に在り明治廿七年六月株式組織の設立にして資本金拾萬圓（拂込済）、諸預り金は拾二萬四千餘圓あり頭取は中村與右衛門氏とし市内石町及び勝川町に出張店を設けあり。

○堀川銀行 西部船人町に在り明治廿八年二月株式組織の設立にして資本金は拾萬圓（拂込済）とし、諸預り金は廿五萬圓餘あり頭取は武山勘七氏なり。

○愛知起業銀行 東部東田町にあり明治三十一年六月株式組織の設立にして資本金拾萬圓（拂込六萬圓）、頭取は村瀬九郎右衛門氏とす。

○十一銀行 中央部玉屋町愛知銀行内にあり資本金は廿萬圓（株式組織）にて頭取は關戸守彦氏なり。

○百三十四銀行 同上愛知銀行内にあり資本金は十萬圓（株式組織）にて頭取は岡谷惣助氏なり。

○右の外第一銀行名古屋支店と三井銀行名古屋支店とは傳馬町にあり、豊橋銀行名古屋支店は下長者町に、津島銀行名古屋支店は榮町に在り、又名古屋に於ける貯蓄銀行は左の如し。

九八貯蓄銀行

玉屋町(愛知銀行北隣)

明治貯蓄銀行

傳馬町(明治銀行東隣)

名古屋貯蓄銀行

傳馬町(名古屋銀行内)

堀川貯蓄銀行

船入町(堀川銀行内)

愛知貯蓄銀行

傳馬町(愛知實業銀行内)

尾張貯蓄銀行

門前町(尾張銀行内)

小栗貯蓄銀行

新柳町(小栗銀行内)

日本貯蓄銀行支店

玉屋町三丁目

一宮貯蓄銀行出張店 園井町三丁目

○諸會社

○名古屋電燈株式會社

は南長嶋町にあり廣井に第二發電所を有し別に洲崎町に新式の大發電所を築造中なり資本金は五十萬圓(拂込廿四萬九千二百〇八圓)にして現今市内及び熱田町に供給する電燈は十燭力(換算)九千八百五十餘燭なり而して其點燈料は左の如し。

拾燭半夜燈一ヶ月八十五錢

同上三時燈一圓十二錢

同上終夜燈一圓廿八錢

五十燭半夜燈三四四十錢

同上三時燈四圓

同上終夜燈四圓三十五錢

但右の外五燭、十六燭、廿燭、廿五燭、三十二燭、百燭以上差等あり。

○名古屋電氣鐵道株式會社

の本社及び發電所は上笹嶋にありて車輛倉庫を榮町(南大津町東)に有す資本金は五十萬圓(拂込廿六萬二千五百圓)にして現今車輛十六臺あり毎日笹嶋より榮町筋南久屋町角

(舊縣廳前)に至る間を往復し尙ほ第二期線泥江町新柳町角(柳橋)より分岐して幅下押切筋に通ずるの工事中にあり、又此會社は本町一丁目より橋町に至る二十餘町の間に線路敷設の權を享有し居れども未だ着手せず將來榮町筋の大道路千種村に完通するに至らば現今既成の線路を延長して千種停車場に達するの計畫を爲すならん、又現今同社乗客數は大抵平均一日六千六百餘人ありて其賃錢は左の如し。

笹嶋停車場より柳橋迄

壹錢

柳橋より新柳町筋南園町角迄

壹錢

新柳町南園町角より榮町富澤町角迄

壹錢

榮町富澤町角より同南久屋町舊縣廳前迄 壹錢

右四區通計の賃錢四錢(但し一區間の距離は大約六町とす)

○日本郵船會社出張所

は傳馬町一丁目(傳馬橋附近)にあり四日市支店と聯絡して名古屋市及び其附近方面に於ける海運の取扱を爲す但し毎年同出張所の名古屋に對する貨物は凡ろ六萬噸とす今最近三ヶ年間堀川へ輸入する貨物の總平均數を調査するに十二萬六千八百九十九噸、三にして大約其半數は同會社出張所の取扱なり。

○名古屋倉庫株式會社

は泥江町(笹嶋停車場附近)にあり資本金二十萬圓(拂込十一萬圓)にて明治廿六年一月の創立とし其一ヶ月に關する倉敷料の大畧は左の如し。

米雜穀一石

二錢五厘

大麥一石

二錢三厘

糠粕一俵廿貫以上 一錢六厘

糠粕一俵廿五貫以上 一錢八厘

羽織一俵	一錢四厘	大豆粒一枚	三厘	米利堅粉一袋	七厘	支那綿一袋大	十二錢
支那綿一袋中	八錢	支那綿一袋小	五錢	孟買綿一個三百斤以下	八錢	孟買綿一個三百斤以上	十錢
米國綿一個	十五錢	紡績糸一個廿五入	七錢	紡績糸一個四十五入十二錢		紡績糸一個四十五入二十錢	
白木綿百反入	五錢	綿毛布百枚入	十錢	葉茂十貫匁國府	五錢	葉茂地葉十貫匁	三錢
刺苧一個	五錢	白砂糖一俵	一錢五厘	干蘭十貫目(精蘭)	廿五錢	干玉蘭十貫目	二十錢
板硝子一個	一錢	菜種油一樽四斗入	三錢	石油一箱	一錢		

但雜品は倉庫面積方一尺に對一ヶ月三錢にて之に充ざるも三錢と一特に高價品は價格千分の一なり

- 名古屋船艇株式會社 は大船町にあり船艇を限度とせる運送業を營む。
- 名古屋圖書出版株式會社 は橋町にあり種々の圖書出版に従事す。
- 名古屋生糸株式會社 は宮町にあり生糸の依託販賣を營業す。
- 名古屋蠶糸株式會社 は神樂町にあり繭及び生糸の依託販賣に従事す。
- 名古屋乾物株式會社 は西魚町にあり乾物類の賣買を營業す。
- 名古屋扇子株式會社 は江川町にあり扇子類の製造販賣を營業す。
- 名古屋煙草株式會社 は古渡町字柳畑にあり葉煙草の委託販賣を營業す。
- 名古屋海産株式會社 は船入町にあり魚島海産物乾物肥料菓物類の委託販賣に従事す。
- 愛知貯氷株式會社 は富澤町に在り氷の製造販賣を營業す。

- 名古屋競賣株式會社 是本重町にあり物品競賣を營業す。
- 三明株式會社 は鍋屋町にありて火葬業を營みて火葬場を鍋屋上野村に置く。
- 愛知材木株式會社 は正木町に在り材木及び板小白木の委託販賣等を營業とせり。
- 愛知挽木株式會社 は正木町にあり木材挽立を營業とす。
- 名古屋養牛株式會社 是本重町にあり乳牛を養ひ牛乳搾取及び其販賣を營業とす。
- 名古屋干燥株式會社 は前津小林にあり生繭干燥爲換及び擔保貸付の業等を營む。
- 愛知製綿株式會社 は塩町にあり生綿の製造販賣に従事す。
- 中京物價株式會社 は前津小林にあり組紐、蠶糸、織物の依託販賣を營業とす。
- 金城織物株式會社 是新出来町にあり織物製造販賣の業を營む。
- 佐々紵株式會社 は下堀川町にあり綿織物(佐々紵)の製造販賣を營業とす。
- 愛知時計製造合資會社 は東橋町にあり専ら玉振掛置時計の製造販賣に従事す。
- 三瓦株式會社 是水主町にあり瓦、煉化石、セメント等の販賣を業とす。
- 日本酒造株式會社 は矢場町にあり酒類の釀造販賣を業とす。
- 名古屋製油株式會社 は堀内町にあり油の搾製賣買、及び菜種粉碎の受負等を營む。

- 名古屋精米株式會社 是松重町にあり精米業を營む。
- 愛知燐寸株式會社 是正木町にあり燐寸の原料及び製造販賣を業とす。
- 株式會社化製組 是東片端町にあり石鹼製造業を營む。
- 新神合資會社 是笹嶋町にあり鐵道貨物の取扱を營業とし東西各地に聯絡を有す。
- 奥田運送合資會社 是天王崎町にあり運送業を營めり。
- 共榮合資會社 是住吉町に在り洋物雜貨の委託販賣に従事す。
- 愛北物産合資會社 是船入町に在り肥料米穀雜穀の販賣を營業とし北海道に關係多し。
- 川村合資會社 是末廣町にあり印度藍の販賣に従事す。
- 名古屋砂糖合資會社 是下長者町にあり砂糖の卸賣及び委託販賣等を營む。
- 煙草委託合資會社 是伊勢山町にあり煙草の委託販賣を業とす。
- 名古屋水産合資會社 是船入町にあり水産物の委託販賣を業とし日々市場を開けり。
- 名古屋絨合資會社 是本町にあり羅紗の販賣を營業す。
- 賣藥卸賣合資會社 是京町にあり賣藥の卸賣に従事す。
- 新聞合資會社 是本町にあり新聞雜誌(東西各地發兌)の販賣を營業とす。

- 名古屋古物合資會社 是富澤町にあり骨董物の賣買を業とす。
- 合資會社名古屋商會 是江川端町にあり官衙の用達(需用品及諸工事)に従事す。
- 合資會社用達商會 是泥江町にあり土木請負業を營む。
- 廣盛合資會社 是泥江町にあり家屋建築賃貸を營業とす。
- 合資會社愛知物産組 是本町に在り織物製造(絹綿織、絹毛織等)販賣を業とす。
- 愛知織物合資會社 是暨代官町に在り織物製造業を營む。
- 名古屋絹織物合資會社 是西新町に在り専ら絹織物を製造販賣せり。
- 名古屋製織合資會社 是舍人町に在り織物製造業を營む。
- 名古屋毛布合資會社 是東新道町にあり毛布織物(綿製輸出品)の製造販賣に従事す。
- 愛知コールテン製織合資會社 是鶴重町にありコールテン製織販賣を業とす。
- 愛知煉石合資會社 是下堀川町にあり煉化石の製造販賣に従事す。
- 名古屋興業合資會社 是押切町に在り製粉、製油、精米等を營業とす。
- 合資會社日清商會 是東古渡町にあり葉煙草業を營み、新出來町に其支店を置けり。
- 名古屋建築合資會社 是南外堀町にあり土木建築請負を業とす。

- 名古屋土木合資會社 是矢場町に在り土木請負を業とす。
- 名古屋時計製造合資會社 是塩町に在り掛時計製造販賣を營む。
- 尾張時計製造合資會社 是廣井町にあり掛時計製造販賣を業とす。
- 消防機械製造合資會社 是正木町にあり消防機械の製造販賣を營み各地の需用に應ず。
- 丸八唧筒合資會社 是古渡町にあり唧筒器具の製造販賣を營業とす。
- 名古屋人力車製造合資會社 是榮町にあり人力車の製造販賣を營み近國に輸送せり。
- 名古屋石鹼合資會社 是下堅杉ノ町にあり石鹼製造を業とす。
- 水野合名會社 是下長者町に在り紡績綿糸の賣買を營業とし兼て外國綿糸を販賣す。
- 伊藤合名會社 是車の町にあり綿花綿糸の販賣に従事す。
- 合名會社鈴木本多兄弟商會 是新柳町にあり七寶燒製造及ひ販賣を業とす。
- 株式會社村井兄弟商會支店 是傳馬町にあり煙草製造賣買を業とす。
- 日本攝酒株式會社支店 是新柳町にあり清酒の醸造販賣を業とす。

○保 險 業

名古屋市に本店を有する保險會社は名古屋生命保險株式會社(傳馬町に在り)とす而して他地方より名古屋

屋市に支店出張所代理店を設けたる諸會社は左の如し。

日本生命保險會社出張所	榮 町	帝國生命保險會社代理店	玉屋町
明治生命保險會社支店	榮 町	海國生命保險會社出張所	南伊勢町
日宗生命保險會社代理店	南伊勢町	仁壽生命保險會社代理店	笹島町
內國生命保險會社代理店	研屋町	共濟生命保險會社代理店	傳馬町
明教生命保險會社代理店	宮 町	日本教育保險會社代理店	下長者町
有隣生命保險會社代理店	本 町	朝日生命保險會社代理店	赤塚町
愛國生命保險會社代理店	鶴重町	大阪生命保險會社出張所	神樂町
護國生命保險會社代理店	鐵砲町	日本海上保險會社代理店	大船町
日本海陸保險會社代理店	榮 町	帝國火災保險會社出張所	榮 町
東京火災保險會社支店	榮 町	明治火災保險會社支店	榮 町
日本酒造火災保險會社支店	傳馬町	橫濱火災保險會社代理店	吳服町
日本火災保險會社代理店	傳馬町	六條生命保險會社代理店	市内所々にあり

右の外九州生命保險會社、北陸生命保險會社、佛敎生命保險會社、國民生命保險會社、酒家生命保險會

社、萬世生命保險會社の代理店等其他保險業に従事するもの少からず。

○取引所

○名古屋米穀取引所　は廣井にあり(笹嶋停車場に近き米屋町)明治十年十月の創立にして資本金九萬圓、現今仲買店は十八戸あり毎日午前五節、午後五節つゝの開市あり取引頗る盛んなり。

○名古屋株式取引所　は南伊勢町にありて榮町の大道路に接す明治廿七年一月の創立にして資本金は九萬五千圓、現今仲買店は二十戸あり毎日午前三節、午後三節つゝの立會あり多く取引せらるゝは關西鐵道株、尾西鐵道株、名古屋株式取引所株等にして直取引も行はる。

○名古屋蠶糸綿布取引所　は宮町(吳服町角)にあり明治三十一年十一月の創立にして資本金七萬圓(拂込三萬七千五百圓)、仲買店は十一戸とし多くは蠶糸の取引なり。

○市場

○魚市場　明治の初年迄は名古屋市に魚市場なるものなく只小田原町本町西へ入る邊にて其附近の料理店が集まりて幾何か魚鳥を競買せし位なりしが其後笹嶋附近禰宜町出口に於て熱田、下ノ一色等の魚商人が來集して市場の如きものを開き購買者も此處に來りて相對に賣買せしが漸次盛大となり今日にても他の市場とは遠ひ其場主には魚荷の多少に拘らず一日捧一本若干といふ料金を納めて賣買し買人は何

も納むるに及ばず、代金も直接に其場に授受し極めて簡單の組織にて一日の商高數百圓に及ぶと少なからず、現今は鐵道踏切の東と西とに一箇所宛あり、又右の外に小田原町は矢張舊態を存する傾きあれども是は市場といふ程のものにわらず少數なる需用者が便宜上此處にて買分けを爲すの姿なり。

○鹽魚類市場　船入町の問屋向にて毎日市場を開く其商品は鹽魚類、鰹節、干魚類にして其仲買人たる認定を受けたるものに限り之を買入るゝことを得、但し賣主は何れも他地方よりの入船物即ち委託物なりと知るべし。

○菜蔬類市場　菜蔬は批把嶋に大市場を有する故に名古屋には市場らしきものなきも市街地の場末には多少小市場の如きものを開くものあり然れども極めて幼稚不完全のものにて茲に明記する程の價值を有せざるものなり。

右の外時々道具類、骨董品などの市場を開くことあれども其場所の一定せずして市場の部に數へ難ければ茲には明記せず。

○名古屋の農業

名古屋に於ける農業は記すべきもの甚だ稀なり要するに市街地場末の箇所又は市内の舊士族邸中最も荒廢に屬する一小部分に普通の農作物及び些少の桑茶を栽培するものあり隨て此收穫は多少之あるも別

段茲に之を列挙するの價値を有せず唯蠶業と乳牛飼養の点に就て聊か之を擧ぐれば左の如し。

○養蠶 家々少量の飼養を試むる者ありて其数は甚だ多きも大抵は皆自家用料の飼養に止まり之を營業者と認むる能はず唯市街地に於て織かに十六七戸は全く營業的に飼養する者にして此成繭は悉く蠶種を製造するものに充てられ一ヶ年の産額蠶種紙は大抵五千枚内外とし此蠶種は近來頗る良好の評ありするに市街地の養蠶は繭を得るよりも蠶種として販賣するの利益多きが故に此製造に注意するの結果なるべし。

○乳牛 名古屋に於ける乳牛飼養者は現今六戸を有し乳牛の數百五十八頭あり近來需用者は乳質の精否に就て大に注意を加ふるの傾向を生じ當局官廳亦精細の監視を爲さんとするに依り營業者は頗る其品質の精良を期するものゝ如し。

○新聞雜誌

○名古屋市に於て現今發行さるゝ新聞紙及び其發行所は左の如し。

新愛知 (日刊新聞)	發行所	本町新愛知合資會社
中京新報 (日刊新聞)	發行所	下長者町名古屋印刷合資會社
扶桑新聞 (日刊新聞)	發行所	南外堀町扶桑新聞社

東海日々新聞 (日刊新聞)	發行所	末廣町明報株式會社
齊藤新聞 (日刊新聞)	發行所	鶴重町名古屋朝報社
名古屋日報 (日刊新聞)	發行所	天王崎町名古屋日報社

右の外尙ほ保証金を納めたる新聞雜誌并に月報は大畧左の如し。

名古屋商況新聞 (日刊新聞)	所在地	廣井(米屋町)
株式新報 (日刊新聞)	同	南伊勢町
愛知教育會雜誌 (月刊雜誌)	同	愛知縣廳内
光 (週刊雜誌)	同	東片端町
運輸 (月刊雜誌)	同	泥江町
中央小間物商報 (週刊新聞)	同	白川町
名古屋銀行青年會雜誌 (月刊雜誌)	同	南伊勢町
名古屋實業新聞 ()	同	天王崎町
名古屋商業會議所月報	同	榮町

此外尙ほ雜誌月報の類甚だ多きも之を畧す。

○新聞雜誌販賣　の重なるものは本町新聞合資會社、研屋町朝日屋、塩町報成舎、門前町耐成堂等に
て又大阪毎日新聞は新柳町に支局を置けり。

○度量衡

八十頁に補正あり

○名古屋市に於ける現今度量衡の製作人は左の如し。

度量衡器	傳馬町十一番戸	金森清兵衛	量器	塩町百十八番戸	山内正一
量器	橋町二十二番戸	服部小十郎	量器	木挽町九十五番戸	川本喜兵衛
衡器	榮町八番戸	守隨録之助			

○又名古屋市に於ける度量衡器の販賣人は左の如し。

度量衡器	鐵砲町	岡谷惣助	度器	玉屋町	澤市郎左衛門
度量衡器	中市塙町	加藤勘太郎	度量衡器	阪上町	水野昌藏
度量衡器	東田町	松井永次	度量衡器	新柳町	守隨録三郎
度量衡器	押切町	石原半左衛門	度量器	榮町	守隨録之助
衡器	菅原町	岩津多兵衛	度衡器	京町	八神幸助
度量衡器	京町	馬場重太郎	量衡器	門前町	加藤清次郎

○名古屋物産

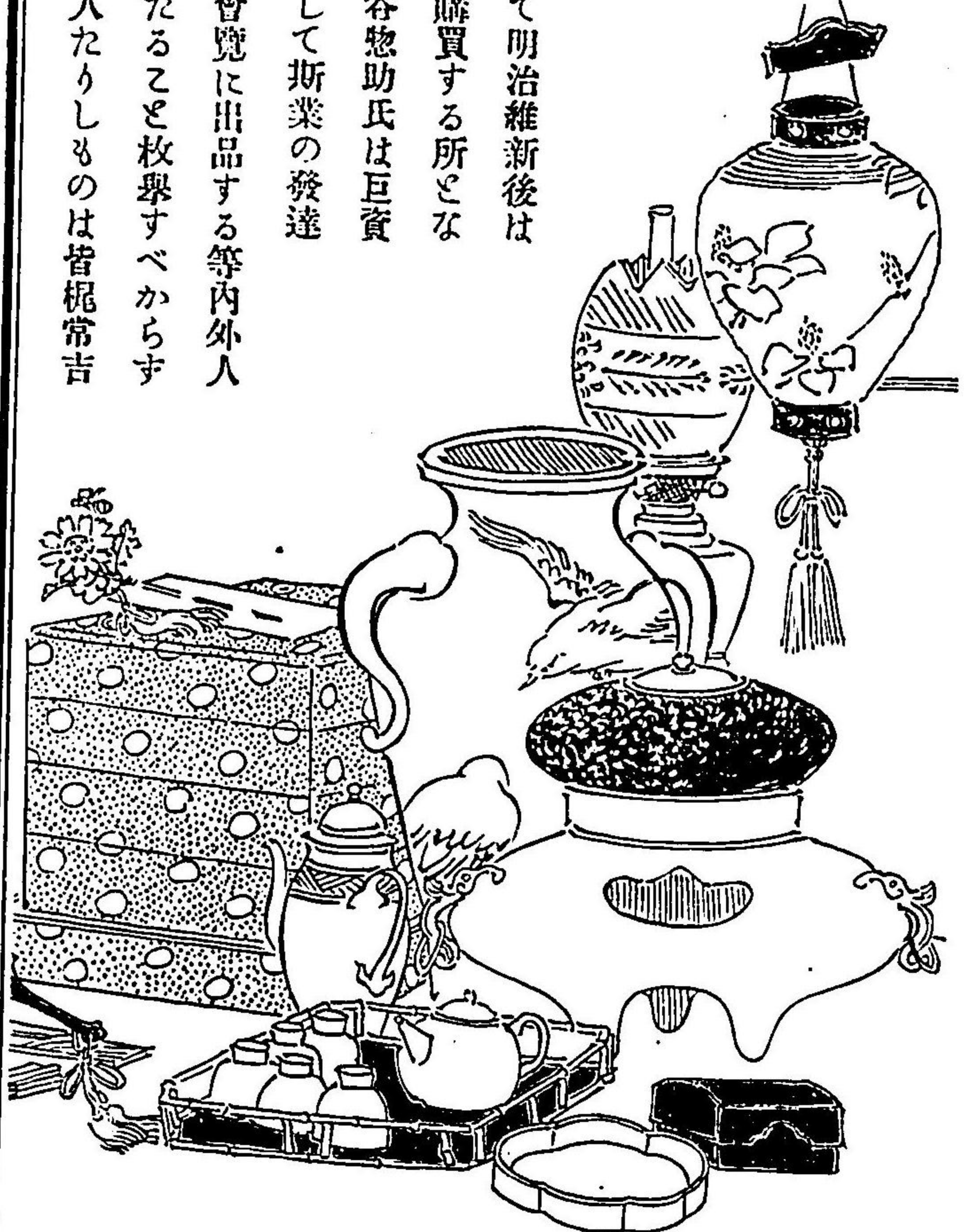
名古屋に於ける物産は其數甚だ多く悉く之を掲るは容易の業にあらず左に掲るは其内産出最も多く殊に
世人の眼に映するものとす而して中には名古屋市に産出せざるも名古屋商人の手に依りて大に販賣の便
宜を開きたる材木の類の如き亦此部分に加へたり。

度量衡器	門前町	神戸利左衛門	度量衡器	末廣町	山本權十郎
度衡器	掘詰町	吉本治右衛門	度量衡器	木挽町	林久助
度器	大津町	加藤辰次郎	度量衡器	古渡町	梅尾直太郎
度量衡器	替地町	神戸利左衛門	度衡器	木挽町	川本喜兵衛

○七寶燒

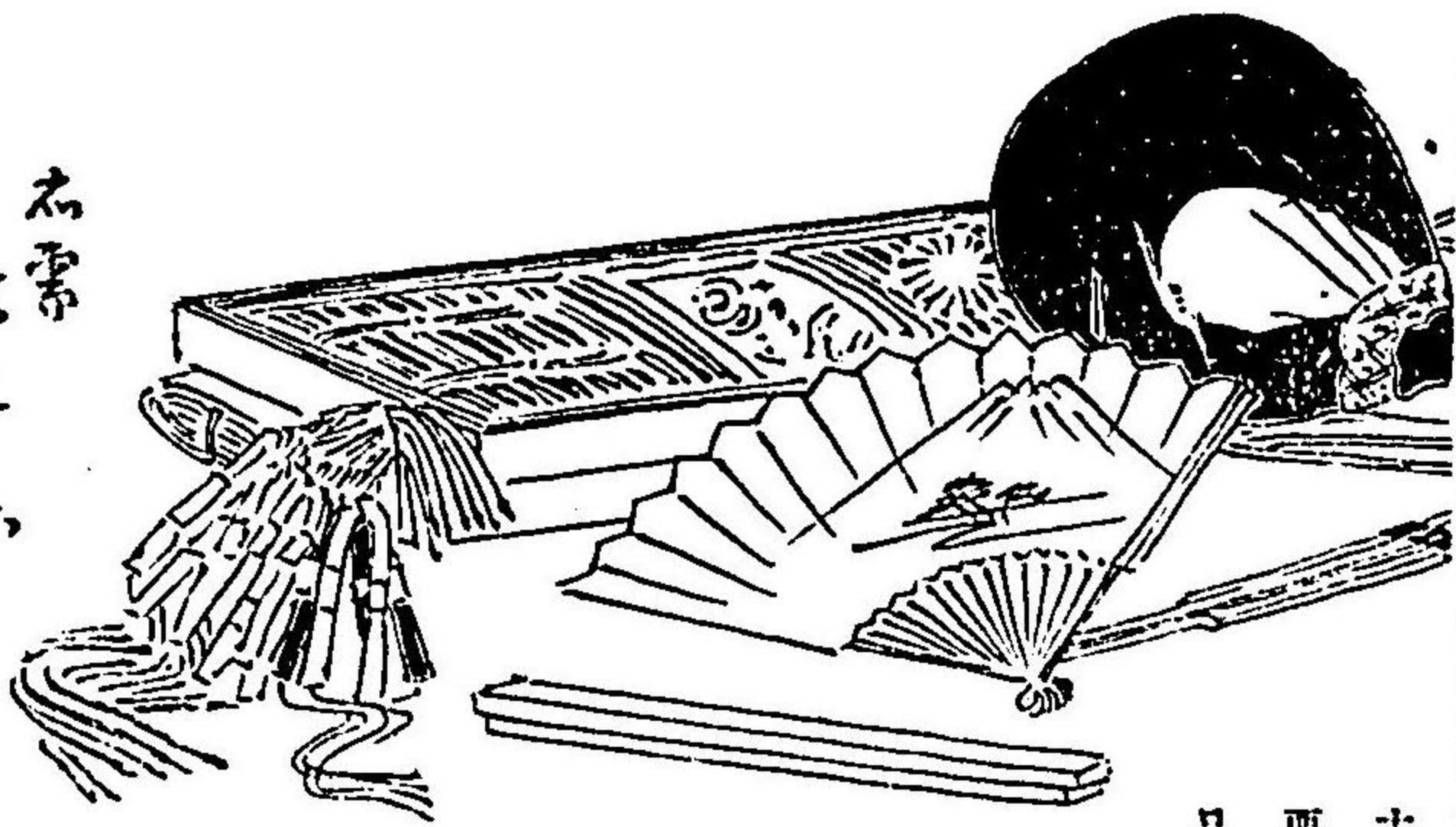
本邦に於て七寶燒類似の製作は遠く足利時代にありたりと云へど眞の七寶燒と稱すべきも
のにあらず外國に於ても支那明代には多少之に類するものなきにあらず偶々和蘭船が長崎に持ち來りた
ることあり今も尙ほ本邦に其遺品を藏する者あれども甚だ不完全のものなり惜本邦に於て斯業の漸く其
の端緒を開きたるは文政八年海東郡正治村の住人梶常吉なる者名古屋末廣町松岡屋嘉兵衛なる者より明
代の器物(阿蘭陀燒と稱へし)も其實明代の七寶燒を購買し之を破却して熱心に此製作に従事したるを發
端とし爾來數回の失敗を重ね天保三年に至り僅に一小盆を造り出し之を右松岡屋へ金五兩に賣れり是れ

本邦七寶燒の開祖とし是より文房具等の製作あり藩侯大に之を嘉賞し常吉に命じて種々の器具を造らしめ幕府に献し併せて有力の諸侯に贈れり是に於て尾張に七寶燒なるもの製作せらるゝの評判高く（此時製作場は名古屋灘川樓十郎氏邸内）、續て明治維新後は此器物外國人の歎賞購買する所となり名古屋市の紳商岡谷惣助氏は巨資を出し村松彦七氏をして斯業の發達を計らしめ萬國大博覽會に出品する等内外人の注意を惹くに努めたること枚擧すべからず當時此七寶會社の工人たりしものは皆梶常吉



名古屋産物

氏の養成せしものにて斯業に對する功績は共に大なるものあり其後収支相償はざるより此會社を東京に移すの必要を生じたれども目下帝室技藝委員たるの名譽を膺へる壽川惣助氏の如きは全く幼年より名古屋に來り岡谷氏出資の工場に於て七寶燒の工務に従ひ其養成を受けたるものなれば壽川氏の技倆を生み出したるは實に名古屋にあり又京都横濱等の同業者も皆其系統を本縣に有するは顯著なる事實とす、是より後名古屋市に於ける七寶燒の業は一時の盛衰は免れざりしも近年に至りて非常に技術の進歩を來し深く内外人の賞賛を博し産額次第に多く目下其店舗に於ては玉屋町安藤、新柳町本多（鈴木本多兄弟商會）、下園町服部、下堀川町兒玉等の諸家とす又専ら此工業に従事し或は傍ら横濱等に輸送して其販賣を兼る者凡ら一百餘戸に及び其雇人徒弟工人は數百人に達し本年佛國巴里大博覽會に出品せし本縣の價格十有五萬圓に及び名古屋出品の分頗る聲價ありとす、現今重要物産同業組合法に據り愛知七寶商工同業組合を組織し（本縣下を通じ）其事務所は組長玉屋町安藤重兵衛氏方に設けあり



主要品

名産 秋葉

○陶磁器 名古屋市に於て眞に製出せらるものは富士見焼(前津小林村瀬)、夜寒焼(東古渡町辻)、東雲焼(東古渡町木全)、豊助焼(上前津町大喜)、等にして雅致愛すべきものなれど産額甚大ならず然れども陶磁器の製作を以て高名なる本縣下瀬戸赤津方面及び岐阜縣下多治見方面の陶磁器は皆其咽喉地たる名古屋を經由して各地に販賣輸出せられ加ふるに特に内外國人に注目せらるる金園燒の如きは其原品を瀬戸窯に需め彩色畫は大抵皆名古屋市に於て施さるゝものにて更に名古屋に於て一回の燒立を爲すものなれば貿易品たる金園燒は全く名古屋市の物産と云ふべく、營業(貿易家)の重なる者は松村日本燒製陶所(七曲町)、西郷陶磁器書附場(撞木町)、安藤出張所(白壁町)、關西貿易會社出張所(撞木町)にて販賣上には森村組、關西貿易會社、瀧藤萬次郎(茶屋町)等とし職工の數多きは一千人に及ぶことあり外國貿易の消長に依りて時に幾分の盛衰なきにあらざるも本縣に於ける一大重要な物産たり。

○漆器 名古屋には從來漆器なるもの、製造多少之ありたるも維新後一時は頗る不振の狀勢にして見るべきもの甚た少かりしも近年に至りては營業者間に大に奮發改良を加ふる者あり産額亦非常に長足の進歩を爲し内外博覽會品評會等に出品して名譽の褒賞を受ける者少からず現に本年佛國巴里に開ける大博覽會に名古屋市より出品したる漆器は極めて好評を博したる報あり以て營業の發達を見る可し、又一閑張漆器は其製作の年月尙は淺きも其製品の美麗にして其價格の低廉なる多く他に其比を見ざるに依り産

出額の進歩莫大となり加ふるに營業者は益々改良を加へつゝ、あれば四方に輸送せられて一般の愛玩を受けること日に多きを見る、現今此漆器業に著名なるは袋町一丁目守隨、袋町六丁目黒田、鐵砲町黒田、鐵砲町成田、鐵砲町二丁目川崎(一閑張)、裏門前町一丁目建松(一閑張)、飴屋町神谷(一閑張)等の諸店とし製造總戸數百六戸にして職工數は四百六十餘人の多きに達せり。

○織物 現今名古屋市に於ける織物の種數は甚た多し而して之を大別すれば純絹織物、絹綿交織、絹綿毛交織、瓦斯糸織、木綿織等とす殊に其中最も注目せらるゝものは博多地(純絹)、絹綿毛交織、絹綿交織、紺小倉白小倉地、紋二羽重、紡織木綿、紺木綿、洋服地、紺小倉地、佐々紵(以上内國向)、綿毛布(貿易品)とし其他にも尙ほ麻織物等種々の産出あり其工場之最も著名なるは各會社の部に記したる各織物會社即ち愛知物産組は絹綿毛の交織を主とし、筑前博多工場は絹織物博多地を主とし、春日井工場は絹織物、愛知織物、金城織物の二會社及び熊澤織工場(白壁町)等は絹綿交織、田中製織所(南久屋町及び大阪町)は綿毛布、佐々紵會社は紵、板倉織工場(池田町)は洋服地小倉、山本工場(東橋町)は紺木綿を主とし綿毛布の外國輸出品(多く支那印度西伯利亞地方へ輸出す)を除くの外は大抵皆内國向にして愛知物産組の如き特に其名高し、又外國輸出品たる綿毛布は近日産額益々増加するが故に重要物産同業組合法に依り組合組織中なりと知るべし。

○紡績綿糸

名古屋市に於て綿糸生産の起原は維新前にありては薩藩武士族及び市中貧人の女子が個々に手づから紡績したるもの(俗にかせ糸と云ふ)を買集むる者あり中島郡の機屋は再び之を買入れて少數の精緻物と爲せしが明治維新後は舶來糸の時代となり同十二年頃より本邦産洋式紡績綿糸の需給起り明治十四年名古屋紡績會社の創立と共に目限其販路(其以前に三河にては水力利用の紡績糸を産出す)を増し續て尾張紡績會社は明治二十年に創立せられて専ら當地方の需用に應し其後三重紡績會社分工場津嶋紡績株式會社、一宮紡績株式會社、知多紡績株式會社等の創立を見るに至り現今是等各社十一萬七千百三十二鍾の運轉より生ずる綿糸の大部分は名古屋市に集散し尙ほ各會社より直ちに清國に輸送するものあり、又右當地方各社の製品以外の綿糸にても多少名古屋に於て販賣せらるゝものあり全國中大需用地の一たる當地ゆゑ販賣高の巨額なるは勿論にして優に一頭角を顯せり、又目下名古屋に於て販賣店の著名なるは車の町伊藤支店(吳服伊藤の支店)、下長者町二丁目水野合名會社等とし別に綿糸瓦斯糸(絹糸も兼ぬ)等の小賣店として末廣町糸彦、研屋町三河屋等繁昌し居り其他枚舉に遑わらず。

○刺繍

維新前より名古屋は内國用刺繍に於て其名高く其後外國貿易の益々開發し來りて貿易品の産額も亦非常に發達し内外諸國に輸送せらるゝもの莫大の額に達し内國向は衣裝佛具祭具諸裝飾品等を重なるものとし外國向はハンカチーフ及び其他の裝飾品等とす、現今斯業に著名なるは和織の方にて末廣

町宇佐美、本町上田、同町若山等とし洋織の方は茶屋町佐田、桑名町杉山等の諸店なり。

○名古屋扇

扇子は外國貿易品、内國用(舞扇を含む)の二種あり外國貿易品扇子は殊に名古屋扇の名高く(多く市内幅下方面に産す)其生産の夥多なる内國用を凌駕し歐米及び東洋各國に輸送せらる、現今此業に著名なるは押切町一丁目井上、替地町磯野、末廣町杉浦等とす、又内國用扇子も近年は大に技術の進歩を示して世間の需用益々多きを加ふ、夫の塗骨舞扇の如き名古屋の特産物として東西に其名あり京都の如き此塗骨の供給を名古屋に仰ぐの俛きあり此内國用扇子に著名なるは鍛砲町三丁目加藤、本町五丁目前田、玉屋町二丁目杉浦の諸商店なり。

○名古屋團扇

是も維新前には格別の産出なかりしに明治十年頃より漸次其産額を増加し明治二十年以來は益々其發達を來し諸方に輸送せられ價格甚だ廉なり、現今此業に著名なるは八百屋町二丁目柴田(君風堂)、同町一丁目山田(松榮堂)、前塚町伊藤(衆靜堂)、古渡町岸(清風堂)等なり。

○時計

時計の製造は最近名古屋産物の一にして本町林市兵衛氏等が刻苦經營漸く其目的を達したるは十年前にあり爾來名古屋は原料を得るに便利なると工賃の低廉なるとに依り非常なる發達を來し内國用は勿論支那印度等に向て輸送せらるゝもの甚だ多く最近の産出額は一ヶ年に二拾萬個以上に達し其價格亦五十五萬圓に及べり、現今此業に著名なるは本町林(松山町に製造場あり)、堀町二丁目時計製造合

資會社、東橋町愛知時計製造會社、東古渡町加藤製造場、久屋町五丁目横田製造場、南大津町太田製造場等とし販賣店にて有名なるは玉屋町一丁目長谷川、同町三丁目野々部、同町四丁目後藤、末廣町加藤同町幡野、鐵砲町堀田、門前町林支店等とし其外尙ほ此業に従事する者多し。

○履物及び鼻緒類 是も維新後最も發達したる名古屋産物の一にして殊に品物の佳麗にして價格の低廉なること東西に其比を見ず黒塗下駄の如きは名古屋の特産と稱せられ産額益々増加の傾向あり近年履物類の他地方に輸送せらるゝ極めて多きは偶然にあらず又鼻緒類の製産の如き最も驚くべきものあり東は關東奥羽北海道に、西は大阪以西の各地に輸送せられ小倉鼻緒の一種丈けにても一ヶ年の産額六十萬圓を下らず履物類を合して名古屋市當業者の販賣額は實に二百餘萬圓に及べり、現今斯業に著名なるは履物店に於ては「中央部」に宮町大橋、和泉町日比、新柳町五丁目鶴飼、茶町小澤、下長者町四丁目三輪等「南部」に門前町松水、大須門前木村、門前町四丁目鈴木、門前町五丁目長谷川、矢場町二の切松平等、「東部」に鍋屋町三丁目武田等の諸店あり、又鼻緒業に著名なるは下園町四丁目吉田、傳馬町宮地、傳馬町塚本、傳馬町安田等の諸店と知るべし。

○硝子類 是も明治十年以後の名古屋産物にして多く洋燈及び附屬品、藥用瓶、化粧瓶類、器物、玩弄品等とし價格低廉なるの故に各地方に販賣せらるゝもの極めて多く近年は非常に發達の姿勢を示せり

現今此製造者は石塚製塋所(西二葉町)、八神硝子製造場(極木町)、柴田硝子製造所(南鍛冶屋町)、谷硝子工場(押切町)、前田硝子製造所(押切町)、平野硝子製造場(東矢場町)等とし尙ほ販賣に従事する者今坂(南伊勢町)、前川(傳馬町六丁目)、近藤(久屋町三丁目)、土井(鐵砲町)、水野(傳馬町)等の諸店を始め其數實に枚舉に遑わらず。

○花簪類 維新前は名古屋に花簪類の製造甚だ微々たるものにて見るに足るものなかりしも明治二十年頃より漸次發達して技術の進歩最も著しく花簪、花櫛等各地に輸送販賣せらるゝもの巨額に達せり、現今斯業に著名なるは末廣町渡邊、末廣町近藤、押切町三丁目榊原、門前町山森、下長者町榊原等の諸店とす。

○金銀特類 是も亦名古屋市に於ける近年の特産物にして明治二十三年東海鐵道の東西に貫通する以前は殆ど見るに足るものなかりしに爾來世間の需用頗る増加すると共に技工大に進み洋銀製簪及び櫛の如き東京大坂を始め直接に奥羽、北海道、北陸道、中國筋、九州方面に販賣せられ其産額亦にても十萬圓に達せんとするの説あり工賃廉に技術亦他に超越するものありて他地方の競争者漸次劣敗の地位に立てるが故なるべし、現今斯業に有名なるは鐵砲町三丁目柴田、同町小泉、末廣町村上、同町近藤等の諸店と知るべし。

○燐寸 是も亦維新後の製産物にして名古屋市の製造箇所は總計三十六、男工六百人、女工二千四百人を使役す、明治三十二年の産額は五千四百萬打にして價格百二十一萬五千圓に達す以て其盛況を知るに足るべく其販賣は當地の外東西各地及び外國輸出品もありと知らる、現今此製造の重なる箇所を擧れば新榮社(中の町淺井)、青山工場(山口町)、靖明社(六句町)、前榮合資會社(三輪町)、明榮社(中の町)成瀬工場(前の川町)、愛知燐寸合資會社(水筒先町)、新榮社(下堀川町大岩)、愛知燐寸株式會社(正木町)等とす。

○煙草 名古屋市に於ける煙草の製造は刻み巻き共に其産額は少からず製造戸數大約八十戸内外に達し多く内國煙草の製造なりしが近來は京都の村井製品に劣るる巻煙草を製出するに至り機運一轉大に進化的の趨勢を促さんとせり、目下斯業製造に有名なるは山田兄弟商會(宮町)、森川(茶屋町)、馬場(研屋町)等とし卸賣に有名なるは宮田(下長者町)、太田支店(傳馬町)、伊藤(新柳町)等の諸店なり。

○材木 材木は名古屋に産出する物にあらざるも舊藩時代に木曾山の如き尾州徳川家の領地として木材集散の地を名古屋と定めたるに依り二百餘年來名古屋は斯業に於て最も販賣の便宜を有し木曾山及び飛騨美濃の良材は殆ど専賣の姿勢となり名古屋檜等の名稱は他地方に喧傳せらる、維新後は多少其形勢を異にしたる者あれども尙ほ斯業の聲價は全國に高く御料局亦支廳を此地に置かれ白鳥(堀川沿岸)には

出張所の設けありて御料材及び御拂下材を始め其他木材の集數夥しきに依り世人は名古屋産物を以て木曾飛騨等の良材を見るに至る依て茲に之を加ふ現今斯業に有名なるは木挽町材惣、材木町牧田、木挽町濱木屋、下堀川板小、同町長谷川、正木町永田等の諸店とし殊に近年は挽木の業亦頗る發達し所謂白木なるもの(木材を各種の寸尺に挽き割りたる)の販賣高極めて多く何れも東西各地に輸送せらる。

○生糸 市内に絹糸製造を以て最も有名なるは太田組製糸場(主税町)とす其規模は敢て大なりと云ふにあらざるも工場の整理適法にして製糸の精良なるは縣下多く其比を見ず此工場は専ら直輸出を爲して外國市場の聲價を博せり此外製糸工場三四あり自宅製造も亦四十餘戸に及び其産額は器械系千八百五十貫目、坐繰系六百三十五貫目、熨斗系百三十貫目、玉糸二百貫目、真綿五十三貫目に達すること最近統計の示す所なり。

○名古屋絞 一名有松絞にして舊時は本縣下知多郡有松町の特産なりしが維新以後は名古屋にも此業大に開け其の製品産額有松と伯仲の間にあり一ヶ年の産額百餘萬反に上る、現今斯業に著名なるは製造(販賣も兼ね)に於て下園町服部、玉屋町高木、同町服部等とし販賣店に於ては玉屋町春日井、和泉町吹原、玉屋町龜屋等の諸商店とし其他市内の呉服太物店は皆之を販賣せざるなし。

○賣藥 維新前にありて名古屋に於ける賣藥は其數甚僅少に製産亦多からざりしが維新後は東西各地

の賣藥業界に一大變化を來すと同時に名古屋も亦其趨勢を同ふし二十年前よりは其營業者遂次増加し近年に至ては益々原料藥種に改良を加ふるの風行はれ包装の如きも亦美麗となり各國に輸送せらるゝもの莫大の金額に達せり、現今製造者に於ては伏見町堀田（へりん病妙藥）京町鈴木専弘舎、押切町中嶋（蘇香剛）、東萬町大橋（福助藥）、末廣町松田（熊鷹丸）等著名なりとし請賣の方にては本町五丁目土屋、京町賣藥卸賣會社、新柳町小林盛大堂等を重なるものとす。

○玩弄品 名古屋に於ける玩弄品の製作は三十年前迄は極めて幼稚の評あり産額隨て僅少にして僅に市街及び郡村地の小需用に應ずるに過ぎざりしが近來は日に斯業の發達を迎へ價格低廉にして小兒の玩弄に適する者少からず隨て他國に輸送するもの意外の巨額に達せり、斯業に就て重立たるは玉屋町扇山鐵砲町扇治、末廣町柿源等の店舖にして製造工人無慮數百名に及び頗る盛況を示せり。

○石輪 名古屋に於て石輪製造の最も發達し來りたるは明治二十四五年以來にして一時の盛衰はありたれども製品が關西物などに比し概して良好なる爲めに漸次世間の信用を得たるの頗あり、其製造に名あるは東片端町化製組、矢場町愛知石輪會社、堅杉の町名古屋石輪會社等にして販賣店の重なるは傳馬町水谷、橋町四丁目加藤雜貨商會、末廣町一丁目村瀬等の家々とす。

○白粉 明治二十年頃迄は其産額微々たりしに爾來當業者の熱心擴張する者ありて品質良好、價格亦

低廉の評あり隨て産額非常に増加し今日にては名古屋特産の一として四方に輸送せらる、現今斯業に著名なるは鐵砲町一丁目宮田、針屋町三丁目小足、末廣町三丁目小出等の諸店なり。

○寒暖計 名古屋に於ける寒暖計の製造は二十年前迄は殆ど云ふに足るべきものなかりしが十年前より日限發達し内國用及び貿易品をも製作するに至れり、現今斯業に重なるものは矢場町一の切山本、末廣町加藤等の諸店とす。

○筆筒長持類 名古屋には木材及び漆工の便宜多く工賃亦低廉なるの故に從來筆筒長持類の製作ありしも近年に至りては運輸交通機關の發達と一般生活程度の昇進とに依り日限需用を増加し隨て其産額は莫大となれり、現今斯業に著名なるは玉屋町鏡屋、袋町万茂、袋町高麗屋、袋町五丁目丸屋等とし其外此品を製作販賣する者甚だ多し。

○小道具指物類 名古屋は維新前より小道具指物類に名あり近來は益々進歩の模様ありて需用亦大に増加せり、斯業に著名なるは古渡町四丁目水野、上長者町船橋、東洲崎町田中（祐齋）、上園町吉田等とし又唐木細工は近年日限製産額を増加し其職工販賣店も各所に散在し末廣町服部、八百屋町山中、袋町麻屋等其名あるものなり。

○洋鏡類 維新後舊鏡臺滅却して洋鏡漸く勢力を得んとするや本縣人戸谷吉次（海東郡人）は明治四年

早くも之に着眼し金様姿見等の製造に就き頻りに熱心して之を發明し名古屋住吉町三丁目に來りて明治十一年頃より開店す爾來明治十七八年頃よりは頗に發達の姿勢を示し來り二十年後は愈々産額を進めて遂に名古屋重要産物の一となり、現今斯業に従事する者凡そ二十餘戸にして戸谷吉次(元祖住吉町)、杉山(玉屋町)、鈴木(門前町)、長塚(伏見町)は多く特等品を製し、安藤(上前津)、川口(門前町)、中村(末廣町)、志村(南伏見町)、小嶋(南桑名町)等の諸店は多く卸物を製造せり。

○佛壇佛具類 佛壇の製作は百年前より名古屋は其名高かりしが維新後一時大に衰頹の色を顯はさんとせしに明治十五六年以後は再び發達の姿勢となり漸次其産額を進むると同時に東西各地に輸送の端を開き現に京都の如きすら名古屋佛壇を購買し之に京都製作の名を附して販賣する者あり品質極めて良好にして價格は割合に廉なり、目下斯業に著名なるは七間町五丁目高木、同町岩田、同町四丁目山田、同町水野等とし又佛具類は佛壇と同じく名古屋の製作品は甚だ巧妙なる上に漆工の精練にして色合の適當なるは殆ど唯一の評あり隨て東西各地の需用夥しく京都の如き其名全國に高き佛具の産地も多くは名古屋の製作品を取り寄せて販賣す殊に名古屋は他に比して價格も亦た非常に低廉とす、目下斯業に著名なるは玉屋町青山、本町五丁目増田、鐵砲町岡谷支店等とし是等佛師佛具店には末廣町に播磨屋重兵衛、同久助、堀町に播磨屋藤次郎あり。

○青銅器 是は名古屋市最近の産物にして其品質は非常に良好なるが爲めに頗に世間の賞賛を得て其販路大に擴張せらる、現今製造者は矢場町小澤利平、前津小林小澤利助、鍋屋町加藤徳三郎、七小町水野徳三郎等にして取扱商の重なるは鐵砲町岡谷、下長者町四丁目後藤の諸店なり。

○麥藁眞田 名古屋市は愛知郡に續て多額の産出あり最近の調査に依れば一ヶ年の製作五十五萬束にして價格は十九萬二千五百圓に及べり。

○酒類 清酒醸造家は三十五戸、醸造石數(最近)は一萬四千六百五十四石あり其他少量の白酒銘酒家を有するも市内の需用最も多きが故に他地方より輸入する清酒、麥酒、其他和洋酒甚だ多し。

○醬油 製造家は三十戸あり醸造石數は一萬六千二百五十一石あり他よりの輸入亦頗る多し。

○酢 古來名古屋は丸勘酢の産地にして現今も尙ほ益々發達を示せり袋町笹田は即ち丸勘酢の製造元と知るべし。

○ラムネ 是は近年最も發達の姿勢を示せしものにて京町二丁目飯田、新柳町一丁目清涼舎支店、小田原町二丁目金泉舎の如き其製造所なり。

○漬物罐詰類 名古屋は特に優等なる漬物類僅少なりしに近年は大に其業の發達を示して東西各都會地の製品を凌ぐに至り現に末廣町喜多福商店の如き東京大阪に其支店を出して聲價を博せり又罐詰物も

同様にて特に世間の嗜好に適する者多く産額亦非常に増大せり。

○名古屋元結 此物産は名古屋産物中最も古き時代より其名あるものにして三十年前迄は信州の飯田元結と並び稱せられたる程なりしが明治五六年頃より散髪となりて男子の需用は頓に消滅し一時は大に衰頹の状勢なりしが明治二十年後は交通運輸の利便を得たると山間僻陬の土地にも女子の需用を増加したるに依り近年は再び舊時の觀を呈せり。

○化粧品 名古屋に於て化粧品の製作は甚だ寥々として見るに足らざりしも近年は各種大に改良進歩を加へ其産額頗る増加の傾向あり其種目は白粉の外、紅、香水、香油の類なり。

○袋物類 維新前は名古屋市の袋物製作は甚だ幼稚にして重もに他の供給を仰ぎたるも明治十年以後は漸次其技術を進め明治二十年後は益々世間の需用を増すに隨て其産額は非常に増加せり其種目は煙草入、紙入、蝦蟇口、手提袋等とす。

○組紐類 明治廿五六年迄は尙ほ名古屋は斯業に就て幼稚の評ありしが近來は目限進歩の實を擧げ産額亦大に増加せり其種目は多く羽織紐、時計紐、帯締の類なり。

○烟管 斯業は維新前より在來にして其製作稍々見るべきものありしも僅に當地方一部分の需用に應せしに止まり産額至て少かりしも近年は其産額を進め價格亦低廉にして品質は遙に京阪地方の物に優れ

るの評あり東西各地に輸送せられて名古屋の一産物となれり。

○箸 竹箸は維新前より名古屋の特産物と稱せられたれど其製作は甚だ不完全なりしが維新後は漸次改良を加へ品質極めて良好のものあり主税町塗箸會社の起りて其他にも此業に従事するもの少からず今日も尙ほ名古屋の一特産たるを失はず。

○足袋類 名古屋に於て足袋の製造は二十年前迄は漸く當地の需用に應じたるに過ぎざりしが爾來斯業も亦他の諸産物と共に發達の徴候を顯はし殊に市内手工賃錢の低廉なるも原料購入にも便宜多きとに依り自然に他地方産を壓倒するの勢ひにて目下は他の地方へ輸送するもの夥しきに及べり。

○更紗染 更紗染は十五年前にては甚だ幼稚にして多く東京地方のものを需用せしが近年に至りては原料産地(多く中嶋郡に産す)に近く技術亦大に發達して他地方産に優るものあり價格頗る低廉の評あり東西各地に輸送せらるゝもの甚だ多きに至れり。

○中形染 近年迄専ら東京物の供給を受け居り是も原料綿布は本縣より東京に輸送し染方丈を同地に施し更に當地に輸入せしものなれど名古屋は二三年前より熟練なる染工を東京より聘して斯業を開くものあり大に世間の歡迎を受け今や名古屋産中形染の名を各地に傳へしむるの機運を迎へたり。

○建具類 名古屋は重なる原料の木材購買に利便多く工人亦由來熟練の評ありて價格は他に比して廉

なるにも拘らず其品概して良好に世間の需用は日に多きを加ふるものゝ如し。

○靴類 明治十八九年頃より名古屋の靴商は漸次發達の實を擧げ技工亦頗る進歩の姿勢あり品質良好價格は他の都會地に比して低廉の評あり其店舗は多く本町及び玉屋町邊にあり。

○噴水器 名古屋に於ける噴水器は其大部分全く消防器具にあり從來古渡町方面には舊式の龍吐水などを製造する者多かりしも一變して鐵製ゴム管の新式器具を製造するに及び其販賣高は莫大の價格を示すに至り正木町古渡町の邊には消防機械製造合資會社を始め數多の當業者を見るに至れり。

○彫刻物 名古屋に於ける彫刻物は從來多少之ありたれを概して幼稚の域にあるを免れざりしに近來は目限其趣を異にし漸次名工を出さんとするの望みあり早くも世間の注目を惹くの傾向を示せり。

○鍋釜 斯業は名古屋工業品中最も古き物の一に數へられ其創始は遠く名古屋開創の時代にあり維新頃一時衰頹の微ありしも近年は更に發達の傾向を示し隣縣同業者間に組合を組織して其改良進歩を計畫せんとせり。

○鐵業細工 二十年前より大に發達し來り家具建築附屬品、玩弄品、菓子函等の製出甚だ多く横三ッ廠町鐵業製造合資會社の如きを始め市内に多數の製造者を有するに至れり。

○櫛類 竹櫛(すき櫛)及び木櫛は維新前より名古屋の製作品頗る好評を博し居り殊に竹櫛の如きは全

國唯一の聲價を保ち現今に於ても名古屋一種の產物なり。

○駄菓子 是は維新前より其產額少からず近年は運輸交通機關の發達に隨ひ大に其増加を來せしのみならず社會生活程度の進むに隨て是迄駄菓子を需用せざりし箇所にも目限販路を開くに至れり。

○幅廣綿布 名古屋には幅廣木綿の製出殆ど皆無の姿なりしが三重紡績株式會社分工場を此地廣井に設けたる後近年此分工場にて天笠金巾等の織布機械五百七十臺を備へ、同社の紡績綿糸(一日の製産一千二百玉の内四百玉を使用す)を以て一尺九寸乃至二尺幅(何れも一反二十四ヤール)の天笠木綿、及び二尺四寸乃至二尺八寸幅の金巾織立に従事したるに依り、今は毎日一千二百反(多く天笠木綿)を織出し内九分は内國に販賣せられ他の一分は海外輸出品なり。

○造鳥及動物標本 外國輸出品としては鴨、鴨及び各種小鳥類の刺製物とし内國教育界の需用に供する鳥、昆虫類の刺製物多く名古屋に於て販賣する金高或は十萬圓に及ぶことあり近年は其金額甚だ不同なれども大略五萬圓内外の製産ありと知るべし。

○市街の光景

名古屋市に於ける現今の光景を記さんに最も繁昌の土地は中央にありては本町、玉屋町、鐵砲町、末廣町(以上本町通)、榮町(株式取引所等あり)新柳町、東西柳町(以上停車場に通する十三間幅大道路)にて目

下巻縣廳跡より東の方千種停車場に通ずる大道路(十三間幅)の落成近きにあれば頗る盛況を來すべく之に次ぐは本町通に接する各町及び茶町通に聯絡する町々は日限り繁昌を來し居り何れも百種商業家の居住する所とす又笹嶋より左方に通ずる新道路を通して堀川傳馬橋を越ゆれば傳馬町通りにて此町には銀行諸會社又は大商人多く最も繁昌の土地とし此東宮町邊(本町東)も亦甚た賑かなり之に續ぐは京町筋にして和泉町



茶町(廣小路角)

茶屋町等とし本町東に行けば京町、中市場町、石町等にして樂店の多きは京町とし更に轉じて杉の町筋(東西萬町と稱す)には古着店軒を並べて客足繁く袋町(傳馬町より一丁南)筋には骨董店甚だ多く内外人の購買少からず其他大抵甚盤割市街(東は久屋町より西は堀川迄、南は榮町及び新柳町より北は京町筋に至るの間)は何れも上等の場所にて俗に上町の稱あり中央部を離れて南に向へば大須、七ツ寺、公園及び遊廓等を中心として門前町、福町より南園町、南伏見町、南桑名町、又は大須周囲の土地より古渡町(是より熱田及び佐屋前ヶ須に通ず)、下茶屋町東本願寺別院邊までを南部繁華の地とし飲食店の如きは他の部面に比して非常に多く且つ此間には博物館あり劇場寄席見世物小屋等も特別の賑ひを添へ裏門前町には古道具古建具(新物もあれど上品は中央部皆戸町俗に正萬寺町の方有名なり)等の商人多く是より道を西に轉じて堀川筋に出づれば船



名古屋元標

船の出入夥しく沿岸には材木、瓦、薪、炭、其他土木に關する供給品を商ふ者極めて多く尙ほ北に進めば此川筋米穀商、肥料商、石油、塩魚、干物類等其他日用品の大商店軒を並べ車馬の輻輳極めて頻繁にして晝間は殆ど人行を止むることあり序でに此川筋の橋梁を數ふれば大幸橋、朝日橋、小塩橋、五條橋、中橋、傳馬橋、納屋橋、洲崎橋、日置橋、新橋等にて何れも皆要路に架せり、又是より西に向へば笹嶋停車場附近には倉庫會社、米穀取引所等あり又禰宜町の那部へ通ずる出口あり諸店料理店等此區域にも其の數少からず新繁昌地の一とし、更に一層北東に行けば幅下方面に達し新道筋の駄菓子卸店は數十軒に及びて毎年の製造高十餘萬圓に及ぶ其附近には亦六句町ありて古道具屋多く圓頓寺筋は此方面にて繁昌第一と評せられ劇場寄席料理店等多く又押切筋は枇杷嶋(笹嶋停車場附近より枇杷嶋に通ずる新道出來たれど)に通して岐阜美濃津嶋の三街道及び岩倉小折等の道路に接するが爲めに其繁昌は他の出口に優れり、又名古屋の東方は如何と云ふに駿河町口即ち千種停車場(中央鐵道)附近の地は極めて將來の繁昌を卜せられ稍々東して愛知縣の監獄署あり、此駿河町口の街道は昔の所謂駿河街道にして八事、平針より三河の岡崎、知立、舉母、足助及び信濃の飯田等に通すべく道路頗る良好なり、又其東北には出來町口あり猪子石、長久手等の諸村に通し其北西には大曾根口あり南は赤塚筋の商店軒を並ぶるに接して遙に瀬戸、多治見等に通ず、又清水口より小牧犬山及び勝川等に達する道路あり共に名古屋東北の樞要地と

稱せらる而して駿河町通以南にて前津小林方面に通ずるには未だ完全の道路なきも既に小道路の改修せるあり、又近來本町通り末廣町御旅所より直線に東陽館前の新道路に連絡せん爲め新道を開かんとするの計畫あり遠からずして開通の期を見るならん、因みに瀬戸多治見等の陶磁器運搬は是迄馬車にて大曾根口に來りしが、多治見物は鐵道開通の爲めに大に其運輸の狀況を變すべき景況あり從來大曾根方面より京町筋に於ける諸陶磁器店の位置は多少の移動を促すことならん。

○船車の現在數

○各種船舶 市内に有する各種船舶の概數を記せんに蒸氣船一、風帆船、日本形(大)百三十餘隻、同上(小)百八十餘隻あり總て貨物運漕の用に供せられ別に免稅船七十餘隻あり。

○各種車輛 市内に有する各種車輛の概數は乗馬車五十餘輛、荷馬車九輛、人力車四千〇五十餘輛、荷車一萬〇〇八十餘輛の多きに達し自轉車の數亦千〇三十四輛に下らず右は總て市の内外に於ける交通運輸の用に供せらるゝものとす殊に當市に於て各店舗が二輪車を利用すること極めて早く隨て用務所辨の上に少からざる便宜を得たることは事實として認めらるゝものゝ如し。

○有名諸店舗

茶屋町 伊 藤(吳服) 本 町 大 丸(吳服) 玉屋町 十一 屋(吳服)

本町	瀧	兵(臭服卸)	東萬町	絹	定(臭服)	玉屋町	桔梗	屋(臭服)
玉屋町	永	東(臭服)	玉屋町	春日	井(臭服卸)	本町	系	重(臭服卸)
門前町	栴	喜(臭服)	古渡町	中嶋	屋(臭服)	鍋屋町	美濃	佐(臭服)
鐵砲町	八	木(太物卸)	和泉町	吹	原(木綿)	下長者町	駒	平(砂糖)
傳馬町	野	崎(砂糖)	茶屋町	柳	橋(砂糖)	門前町	梅	屋(砂糖)
大船町	近	藤(米穀)	塩町	渡	鉦(米穀)	納屋町	高	松(肥料)
大船町	木曾	兵(肥料)	船入町	井口	名古屋會支店(肥料)	大船町	藤	清(石油)
赤塚町	熊	田(種油)	船入町	堀	部(海產物)	船入町	清	水(干魚)
傳馬町	京口	屋(酒類)	傳馬町	長谷	川(洋酒)	鐵砲町	紅葉	屋(洋反物)
鐵砲町	野間	平(洋反物)	本町	名古屋織物會社(洋反物)	下長者町	宮	本(更紗)	
玉屋町	柏	屋(小間物)	鐵砲町	笹	善(小間物)	玉屋町	加賀見	屋(小間物)
玉屋町	菱	富(洋物)	富澤町	美濃	萬(洋物)	玉屋町	梅	屋(洋雜貨)
玉屋町	金	屋(洋傘)	研屋町	美吉	屋(洋服)	玉屋町	九八	組(洋服)
久屋町	白木	屋(産物)	關鍛治町	菅	井(産物)	伊倉町	松	下(古着)

東萬町	木	全(古着)	傳馬町	三井物産支店(内外貨)	大船町	小栗支店(内外貨)		
玉屋町	平	子(陶磁器)	中市塙町	佐治(陶磁器)	宮町	名古屋生糸會社(生糸)		
宮町	會社支店(生糸)	宮町	瀬戸系店(生糸)	東田町	玉	林(繭類)		
古渡町	富	田(繭類)	小島町	綿盛會社(綿花)	鐵砲町	三輪	屋(袋物)	
傳馬町	柏	屋(袋物)	本町	林(時計)	玉屋町	長谷	川(時計)	
鐵砲町	能	惣(金庫)	玉屋町	駿河	屋(菓子)	本町	両口	屋(菓子)
茶町	日	軒(菓子)	本町	川	瀬(書籍)	門前町	吉良	兼(書籍)
本町	丸	善(洋物)	末廣町	伊勢	屋(國旗)	袋町	中	林(骨董)
玉屋町	朝比	奈(骨董)	鐵砲町	岡	谷(銅鐵)	下堀川町	大	矢(瓦類)
彌宜町	石	垣(疊表)	京町	菱	源(和紙)	下長者町	櫻	屋(和洋紙)
吳服町	米與	會(和紙)	傳馬町	中	井(洋紙)	下長者町	萬	常(洋紙)
鐵砲町	宮	川(白粉)	鐵砲町	大	澤(繪具)	新柳町	盛大	堂(化粧品)
袋町	小	林(樂器)	東門前町	鈴	木(樂器)	車ノ町	大津	屋(味噌溜)
蓋屋町	佐野	屋(味噌溜)	本町	土	屋(賣藥)	京町	山	六(藥種)

京町小	嶋(藥種)	榮町守	隨(度量衡)	本重町花	岡(動植本)
東萬町土	屋(袴地)	下園町服	部(鼻緒)	八百屋町一東	齋(金工)
本町揮雲	堂(筆墨)	傳馬町京國	屋(筆墨)	玉屋町文明	堂(文房具)
本町山上	陽(洋靴)	玉屋町同人	社(洋靴)	本町金目	屋(硝子)
京町八	神(用藥)	裁下町紙	彦(元結)	本町早	川(銃器)
古渡町川	口屋(飾類)	傳馬町櫛	半(茶類)	末廣町山	本(算盤)
袋町一	洗堂(一開張)	古渡町丸	丸(柳筒)	本町ふ	枝(人力車)
廣井	服部支店(人造石)	榮町大倉	組支店(用達)	傳馬町吉	田(葉煙草)
傳馬町北	山(葉煙草)	鐵砲町池	田(兩替)	門前町山	田(彫板)
末廣町宮	下(寫真)	浪越公園	青(山寫真)	浪越公園	中村牧陽(寫真)
玉屋町青	山(佛具)	末廣町村	瀬(佛具)	住吉町一	柳(葬具)
富澤町江	戶七(麻入)	傳馬町內	國通運會社(運送)	新柳町	名古屋運送組(運送)
榮町九	濱運送店(運送)	傳馬町白	茂(雜品)	赤塚町江	尻(雜品)
末廣町海	老屋(飯頭)				

○有名旅館料理店

家名	町名	旅館の部			宿泊料	食料		
		上等	中等	下等		上等	中等	下等
秋琴樓	榮町	一圓五十錢	一圓	七十五錢	七十五錢	五十錢	三十五錢	
志那忠	ホテル泥江町	七圓	五圓	四圓	二圓	一圓	一圓	
名古屋	ホテル堅三ツ藏町	和洋五圓五十錢	四圓五十錢	一圓	二圓	一圓	一圓	
山田	屋茶町	一圓	八十錢	八十錢	五十錢	四十錢	四十錢	
金城	館廣井	一圓	七十五錢	五十錢	三十五錢	三十錢	廿五錢	
有隣	亭富澤町	六十錢	五十錢		二十錢			
橋	屋七間町	七十五錢			三十錢			
三	藤嶋田町	一圓	八十錢	六十錢	五十錢	四十錢	三十錢	
三	嘉伏見町	一圓	七十五錢	五十錢	五十錢	三十錢	二十錢	
多波	良榮町	一圓五十錢	八十五錢	七十五錢	五十錢	四十五錢	三十五錢	

右の外遠近に其名ある者左の如し

家名 町名	家名 町名	家名 町名	家名 町名	家名 町名	家名 町名	家名 町名
知多屋 長嶋町	中 新南榮町	山口屋 朝日町	近江屋 玉屋町	柳 屋住吉町	谷 屋新柳町	
丸茶館 笹嶋町	百六園 長嶋町	甲子館 南久屋町	菊 屋住吉町	竹 屋門前町	桔梗屋 富澤町	
鶴鳴館 門前町	井澤屋 富澤町	藤 屋菅原町	万梅支店 七ツ寺	川 仙桶屋町	木勝屋 富澤町	
新 屋富澤町	桑名屋 富澤町	青龍館 新柳町	忠愛館 新柳町	舞鶴屋 富澤町	山本屋 東本重町	
東 屋玉屋町	大竹屋 木町	平子屋 東柳町	林 屋門前町	葉村屋 日ノ出町	茨木屋 久屋町	
万 茂本町	濱田屋 富澤町	葛 茂 八百屋町	天勝屋 東柳町	中野屋 門前町	牧野屋 東柳町	
近江屋 玉屋町	河村屋 八百屋町	志那思支店 笹嶋町	河 嘉伏見町	丸 屋西魚町	大和館 西柳町	
志費の屋 富澤町	和可六 下長者町	清 駒 新柳町	錢 屋玉屋町	山形屋 久屋町	小川館 彌宜町	
大橋屋 茶町	小 西玉屋町	若松屋 下長者町	鋸 宗住吉町	北國屋 宮町	河内屋 西柳町	
京 屋浦焼町	外 山住吉町	三河屋 八百屋町	名古屋館 西柳町	花 屋泥江町	早川屋 富澤町	
大松屋 富澤町	美濃惣 下茶屋町	黒田屋 新柳町	美濃兼 日ノ出町	萬〇樓 西柳町	非筒屋 宮町	
岐阜長 下長者町	河内屋 富澤町	松 宗榮町	扇 屋下長者町	中津屋 新柳町	中嶋屋 吳服町	

望鯨樓 南外堀町 藤柳館 西柳町 小松屋 泥江町 大榭屋 新柳町 東 館 新柳町

(備考) 前記普通の旅亭は次抵上等宿泊料八十錢、中等六十錢、下等五十錢内外とし、晝食料は二十錢以上三十錢以下を例とし且つ宿泊は五六十錢(中、下等)の者最も多きを占むるものゝ如し

料理店の部

河 文 小田原町	宮 房支店 七ツ寺	川 宗大須	東洋樓 富澤町	川 末菅原町	岡 亭 南伊勢町
御納屋 西魚町	ねふく 米屋町	借樂亭 富澤町	日曜軒 新柳町	大 喜鏡砲町	田原館 園井町
小扇樓 富澤町	みどり 新柳町	澤 祐大曾根	加茂川 日ノ出町	新築の葉 南吳服町	朝日館 前津小林
宮 房車の町	近 直西魚町	貝 九澤井町	逢月館 橋詰町	吾妻館 新柳町	山 金櫻町
沫 雪 南長島町	河 喜長嶋町	大 清 上長者町	鯛めし 榮町	山 朝 東外堀町	喜樂亭 山口町
河 彌 小田原町	萬 梅七ツ寺	井桁政 小田原町	大魚樓 富澤町	喜代本 門前町	
いづみ 新柳町	八千久 公園	東京庵 富澤町	千 歳 伊勢山町	春の家 住吉町	
百春樓 西魚町	明治館 七ツ寺	可愛軒 前津	松 月古渡町	萬 銀赤塚町	
香雪軒 前津	河 芳六句町	東藤司支店 榮町	萬 桑久屋町	新加茂 永樂町	
花 月 富澤町	泉 竹大須	新萬梅 富澤町	いさみ 八百屋町	鯛めし 榮町	
得月樓 納屋町	木榮樓 住吉町	堀 與大曾根	餅 文正木町	桐 島住吉町	

○劇場寄席

○御園座 是南園町にあり名古屋劇場株式會社(資本金九萬六千圓拂込八萬四千圓)の所有にして建築宏壯美麗にして市中劇場の巨擘として前茶屋五軒を附屬せしむ(入場者定員二千四百四十四人)。

○末廣座 是末廣町若宮八幡社の南隣にあり此劇場は其起源最も古く元祿享保の頃既に此處に芝居を興行したることあり橋町常芝居小屋(今は廢絶して時計會社となる)を除いては斯業に由緒深き場所なり(定員千四百十三人)。

○新守座 是本重町(嶋田町と桶屋町との間にあり)にあり維新後の創設にして前茶屋五軒を有す(定員千七百八十六人)。

○千歳座 是南桑名町(新柳町下る)にあり(定員千五百五十六人)。

○音羽座 是南伏見町(入江町下る)にあり(定員千四百三十二人)。

○寶生座 是大須觀音堂の南西にあり(定員千四百三十一人)。

○西榮座 是幅下白塚町にあり(定員千六百一十一人)。

○朝日座 是杉の町(聖杉の町角)にあり近時の建築なり(定員千廿一人)。

○笑福座 是橋詰町にあり(定員千七十一人)。

○京柳座 是歴代官町にあり定員千二百廿九人、以上の九座は皆な大小の演劇を行ふものなり。

○寄席 是富澤町富本席、大須門前桔梗座、同上福壽亭、七ツ寺門前蛭子座、大須境内金城座、七ツ寺大須間新道眞福座、板木町廓座、同町板座、同町パノラマ館、東柳町長谷川座、前津小林東座、泥江町眞砂座、榮町新榮座、宮出町正福座、橋詰町開慶座、下園町盛豊座、中塩町辨天座、牧野賑榮亭等に於て此外にも尙ほ多少之あるべし。

○集會及び遊宴所

(遊廓、各連中)

○東陽館 是前津小林にありて近年の築造とし建築の宏壯は殆ど全國無比の評あり樓上數百疊の大廣間一席にて優に五百人の宴席たらしむるを得べく樓下の各室を併せなば一時に一千人の來客に酒飯を供するの準備あり本業は席を貸すにあれども料理をも兼ね命するを得べく本館に茶室の設けあり又電話を架設しありて市内樞要の家々と自由に談話するを得べく温泉場ありて一浴を試むべし別に數千坪の園内には假山泉水ありて散策に適し池中にボートを浮べ運動の用に供すべく又數十の小亭細榭を各所に散在せしめて來客の遊宴又は休憩席に供し館婢は皆一様に赤前垂を掛けて一見識別し易からしめ客の需めに應じて周旋するの便宜あり。

○前津富士見原 是市の南東にありて大谷派本願寺別院の東廣見より北へ數町の間を總稱す現今は此

方面に別荘又は料理店頗る多く眺望絶佳、前には七本松、麴塵ヶ池あり遠くは三河の猿投山及び大草山を始め尾三濃信の山々を望み快晴の日には遙に駿河の芙蓉峰を見るが故に富士見原の稱あり、彼の有名な横井也有翁の住まれたるは即ち此富士見原の稍々北に偏したる邊にありと知るべく、總じて此前津と稱する一帶の地は土地高燥にして樹木繁茂し四季の眺めは市内第一と評せられ有名なる龍門庵其他の好林泉多し。

○麴塵ヶ池 は前津小林の東方にありて前津を距ること數町、其池大ならざるも春候には遊人雅客の杖を曳くもの極めて多く是より七本松牡丹亭、寸樂(貸席兼料理)及び金徳稻荷の邊は極めて賑かにて夏日の納涼中秋の觀月なども亦甚だ妙なり。

○上笹嶋 は笹嶋鐵道停車場の北に當り近時は家屋工場等の建築甚だ多きも尙ほ田圃の間には藤の棚等あり晚春より初夏の候には遊人少からず。

○城北練兵場附近 は深井と稱する城壕ありて金鯉城の壯觀は細かに望見せられ夏秋の候此地に散策して俗稱御用水(庄内川より深井に來る用水路)の小堤坊等に赴かば螢符の遊びを得べく觀月亦最も妙なり。

○名古屋新地廓 は大須眞福寺の西北裏にありて北より此遊廓に通ずるは南園町、南伏見町及び南桑

名町とす、往時は此邊大抵組屋敷と稱へて足輕などの住處多く極めて偏鄙なりしが維新後今の遊廓地より聊か東北に當る場所(元新地)にて席貸業を允許せられ其後の場所に移さる、現在の席貸業者は百八十戸にして一ヶ年の實際収入は百萬圓に近かるべしとの説あり、最近表面上の届出は一ヶ月五萬五千五百六十餘圓なれども是全く揚代等に過ぎずと知るべし。

○藝妓各連中 名古屋市に於て藝妓なるもの、連中は十年前迄僅に二三に過ぎざりしに近年は非常に其數を増加したり、其連中と其所在地を掲げば大畧左の如し。

- 盛榮連(上長者町附近) 廓 連(新地 廓内) 睦 連(七ッ寺附近) 朝日連(富澤町附近)
- 東雲連(富澤町附近) 吾妻連(相生町附近) 八幡連(大曾根附近) 柳 連(米屋町附近)
- 淺遊連(幅下六句附近) 榮 連(幅下 方面) 東陽連(東陽館前)

○道程及び人力車賃

○名古屋元標 は榮町通(鐵砲町角)にあり東西に榮町筋の道路を通じ南北には亦本町通りありて市内最盛の二大通路十字形を爲す中心点とす此名古屋元標を起点として先づ市内各有名の箇所との間に於ける道程及び人力車賃を記すれば左の如し。

第三師團司令部	十三町	六	錢	愛	知	縣	廳	七町半	五	錢
---------	-----	---	---	---	---	---	---	-----	---	---

名古屋控訴院	九町五	錢	鍋屋町警察分署	十七町八	錢
名古屋地方裁判所	十八町半	錢	門前町警察分署	十町五	錢
笹嶋停車場	十七町	錢	江川町警察分署	十一町半	錢
愛知停車場	十九町	錢	陸軍地方幼年學校	二十一町	十二錢
千種停車場	二十七町	十五錢	徳川侯爵邸表門	三十一町	十八錢
大須眞福寺仁王門	十一町	五錢	愛知病院	十一町	七錢
愛知博物館	九町	五錢	好生館	二十四町	十錢
大谷派本願寺別院	二十町	八錢	川原療院	十三町	八錢
愛知縣名古屋測候所	八町	五錢	五百羅漢	三十二町	十八錢
愛知縣第一師範學校	二十八町	十八錢	東陽館	十四町	八錢
愛知縣第一中學校	十一町半	七錢	遊廓	十三町	七錢
名古屋稅務管理局	二十四町	十錢	五條橋	十六町	七錢
名古屋市役所	三町半	三錢	洲崎橋	十六町	十錢
名古屋警察署	七町	五錢			

右の外市外地に對する里程(及び人力車賃)は左の如し (但起点は名古屋元標)

熱田神宮	一里八町	二十錢	愛知縣監獄署	一里	十五錢
熱田海岸	一里十八町	二十二錢	大會根出口	一里	十八錢
枇杷島橋	一里十六町	十八錢	出來町出口	一里	二十錢
中村	一里	二十錢	駿河町出口	三十町	十五錢
八事山	一里廿五町	二十五錢	禰宜町出口	三十町	十五錢
長母寺	一里半	二十二錢	新川	二十町	十錢
守山營	二里	二十五錢	甚目寺	二里	二十五錢
龍泉寺	三里	三十五錢	笠寺	二里半	三十五錢
小牧	四里	五十錢	清須	二里半	三十五錢
犬山	六里	八十錢	荒古	二里	廿八錢
平針	三里	四十錢			

但右市内外の賃錢額は普通仕立車の賃錢(一人曳書間)とし雨天夜間又は二人曳等に割増あるは勿論とす
又途中客待車夫と相對に引合所附拾ひ乗りをするものは前記の賃錢よりも遙に低廉なるものありと知る

(備考) 愛知縣告示人力車賃錢規定の摘要は左の如し

市街地十町 三錢五厘以内 同上二十町 五錢五厘以内 同上三十六町 七錢五厘以内
 市街地外縣道一里 六錢以内 同上里道一里 七錢以内
 一日雇 五十錢以内 半日雇 三十錢以内 客待一時間 三錢 二人乗は一人乗の五倍以内
 二人挽は一人挽の二倍半以内 夜間十時前二割増 夜間十時後三割増 泥路晝間二割増
 泥路夜間十時前三割増 同上十時後五割増
 又、**笹嶋停車場**より市内各所に對する人力車賃錢表の公示せられたるものは左の如きものなり。

- 金五錢 納屋橋附近 江川筋 水車石橋 花車町 傳馬橋以南
- 金六錢 新柳町附近 桑名町角迄 洲崎橋 中橋 傳馬町筋伊倉町角迄
- 金八錢 市役所附近 末廣町 新地那 傳馬町筋本町角 御園御門 小堀橋 六句町
- 金九錢 縣廳附近 神樂町武平町迄 本町御門 押切町新道角 大須門前
- 金十錢 師團附近 萬松寺前 日置蛭子町 池田町
- 金十二錢 名古屋地方鐵道所附近 東本願寺別院 新橋 東田町 枇杷島町迄 上宿泥町

金十四錢 立海橋以南附近 奥田町 建中寺前 赤塚町 清水町
 金十六錢 新古出来町附近 大曾根坂下 東西杉村 熱田西御門
 (賃錢割増等は前記の本縣告示と同様に付き略す)
 又名古屋元標より郡部著名地への里程は左の如し(但隣縣との境界に達するもの、外は大畧の里程と知るべし)

三河國渥美郡二川靜岡縣との境界迄	廿一里廿八町一間			
尾張國葉栗郡北方岐阜縣との境界迄	七里十町四十一間			
尾張國海西郡前々須三重縣との境界迄	六里廿八町四十六間			
(尾張部)				
勝川 三里	小牧 四里	犬山 六里半	樂田 五里半	内津 六里半
玉野 六里半	瀬戸 六里	小折 六里	岩倉 三里半	一宮 五里
半 黒田 七里	大田島 七里	起 七里半	萩原 七里	稻澤 六里
下祖父江 七里	津島 五里	佐屋 六里	禰富 七里	蟹江 三里
一色 二里	鳴海 三里	大高 三里	大府 五里半	緒川 六里半
崎 八里半	半田 九里半	武豊 十一里	河和 十四里	横須賀 六里

大野 九里 常滑 十里 野間 十四里 内海 十五里 師崎 十七里
 (三河國) 知立 六里半 舉母 七里 荻谷 六里半 大浜 十里 新川 九里半
 西尾 十一里半 安城 八里 平坂 十二里 一色 十三里 岡崎
 十里 足助 十二里 蒲郡 十五里 下地 十七里 豊橋 十八里 新城
 廿八里 富岡 廿三里 鳳來寺 廿六里半 海老 廿八里 田口 三十二里
 上津具(國境) 三十六里 本郷 三十四里 稻橋 十九里半 牟呂 十九
 里 伊良湖 三十一里

(備考前記里程は縣道通過の計算とす里道を行く時は尙ほ是よりも近きことあるべし)

(脱漏補足) 度量衡製作人(名古屋市)

度量衡器 古渡町 水野 松藤 量器 榎木町 八神 幸助 量器 堀詰町 森本治左衛門
 衡器 傳馬町 加藤金次郎 衡器 門前町 神戸利左衛門 衡器 鐵砲町 岡谷 惣助
 (脱漏補足) 度量衡器販賣人(名古屋市)

度量衡器 傳馬町 金森清兵衛 量器 門前町 加藤清次郎

(正誤) 第四十二頁乃至第四十三頁度量衡販賣人の中「度量衡器管地町神戸利左衛門」を除く、押切町「石川半左衛門」は石川平左衛門、京町八神幸助の「度量衡器」は度量衡、堀詰町「吉本治右衛門」は森本治右衛門、古渡町の「梅尾直太郎」は梅本直太郎の誤植

○尾張郡村部総評

尾張國は三河國と共に愛知縣の管轄する所にして維新前には幕府三親藩の一なる尾州徳川家の領せし所なり、其區域は東は三河に隣し、北は美濃に接し、西南は伊勢と境す、南一帯は海灣に臨み知多の半島遠く突出して伊勢志摩三河に對し、名古屋市の外、愛知(名古屋も此郡内なれども市部なれば特に之を分別す)東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知多の九郡を有し面積百三万里人口百餘萬(名古屋市を算入す)にして一方里の住民平均殆ど壹萬人に及び八烟の一國面積に比して稠密なると遙に攝津(大阪、堺の兩市を有せる)武藏(東京市を有せる)に優るの上國と稱せらる、國號の起原は諸説區々にして或は郷名の國號(東春日井郡小針の稱呼より起る)となりしものと云ひ、或は知多半嶋の遠く海上に突出せるが恰も一箇の動物の尾を張り出せる姿に似たるを以て尾張の名稱は起れりとも云ひ此二説由來最も勢力あり、地形東南は丘陵起伏し東北は稍々山嶽に連り、北及び西は總て平野にして西南海岸に近き部分は大抵中古以來の開墾低地に屬せり、河川は尾濃勢の國境を區劃せる木曾川を始め庄内川(原流は美濃土岐郡に出づ)、矢田川、日光川、佐屋川(木曾川改修の爲め廢川となる)、善太川、鍋田川五條川、天白川、境川(尾張と三河との境界)其他小川流多く、用水路は宮川木津の兩用水を最も有名なりとし、用水溜池の大なるものは入鹿池を首として其數亦甚だ多し、以上の如く國內面積との比較上山

嶽、兵陵、河川、海岸、平野等地形の種目頗る雑多なるが故に人情風俗各一ならず隨て物産も亦地方に依りて大に其趣を異にするは自然の状態なり、今之を大別すれば東北部には米穀、繭、亞炭、陶磁器等を重なるものとし北方并に北西部には生糸、綿糸、繭、織物、藍、菜蔬、米穀の産出多く、西部一帯の地は米穀、織物、綿糸、菜蔬、川魚、七寶燒、繭等を主要品とし、南及び東南部は米穀、酒、醬油、生糸、繭、織物、海産物等の産額甚だ多く何れの地方も生産力の發達は大抵歩調を一にして維新前に比すれば數倍の盛況を示し特に最近十年間に尾張一國民力の増加は他に比して大に優れるものあるを認む、要するに名古屋市は商工を以て成立し東及び東北部は農工及び鑛業に依り、北方及び北西部は農工商、西部は農工商漁、南部は農漁、東南部は農工商漁を以て地方生産力の基本たらしめんとするもの、如く尙は之を細言すれば種々雑多の差別を生ずるも茲には先づ其大畧を掲ぐるのみ、又交通上一大要具たる道路は東西に國道を通じ其他國道、縣道、里道等或る一部分を除きては大概平坦にして車馬の往來甚だ自由なるも鐵道の敷設以來形勢一變里道にして動もすれば國縣道よりも重要となれるものあり、殊に郡村にありては鐵道との聯絡道路にして未だ充分の改修を爲さざるものなきにあらざり、雖も、各郡既に此点に就き齊しく意を注ぎて之に着手せんとするの計畫ありと云へば遠からずして一般の満足を迎ふるの日あるべし、因みに

尾張の氣候に就て概略を記せんに本州は南北の氣候に異同あるは勿論なれども概ね中和にして全年平均の温度は攝氏十四五度の間に存し、夏季は最高温度三十度を超ゆるの日數約五十回其最高極は八月に於て三十六度に及ぶことあり、又冬季は最低氷点を下るの日數約六十回にして其最低極は二月に於て氷点下十度に達す、全年の降雨日數は凡百二十日、降雪日數凡十五日とし、大雨は夏秋の間に起り一日にして三百耗、一時間にして約百耗の豪雨を降らし年計千七百耗乃至千八百耗の雨量あり、雪は西部に於て稀れに二尺五寸を積むことありて三河山間の寒郷よりも其量遙に多く、風は五月乃至九月は概ね南偏なるも十月より翌年四月迄は北西風卓越し殊に風力は冬期の末一二ヶ月間最も強く且つ秋期の暴風に當りては一時間に六十哩の最大速力を測ることあり、結霜期は十一月末に來り翌年四月中旬に去るを平年の例とせり。

○愛知郡

本郡は南は海に面し東南角に於て知多郡に接し東は三河の碧海、西加茂の兩郡に連り北は東西春日井の二郡に隣し西は庄内川を隔て、海東郡に接す、面積十九方里六にして人口十三萬八千餘あり、名古屋市は稍々郡の西方に偏在するも尙ほ此市を中間として東愛知、西愛知の稱あり、要するに本郡は名古屋の

東西に於て地形人情等の著しく其趣を異にするものあるを以て斯る區別を見るに至りしならん、殊に本郡は名古屋を包含して大市街地の海門を熱田に有するが上に神社、佛閣、名勝、舊跡甚だ多く且つ物産頗る豊富なるが故に世人の注目を惹くもの極めて少からず、又近時愛知全縣の事業として熱田築港の大工事を起したれば數年の後は大船巨船の出入碇船と共に一大海門の設備を完ふするを得べく、今より既に東西衆目の焼点となれる程なれば名古屋市に次ぎ最も記すべきこと多き土地と知るべし。

因みに本郡に於て五千以上の人口を有する市邑は熱田町(人口二萬千餘)、鳴海町(人口六千八百餘)、那古野村(人口五千五百餘)、下之一色村(人口五千六百餘)の四町村にして其他は人口五千以下の四十一町村ありと知るべし。

○諸官衙 愛知郡役所、熱田警察署、名古屋區裁判所出張所、熱田築港事務所、御料局支廳白鳥出張所、熱田稅務署、郵便電信局は熱田町にあり、名古屋區裁判所出張所は平針廣路兩村に、愛知縣監獄署は千種村(名古屋市の條參照)にあり、郡内の郵便局は熱田町の外、鳴海、平針、岩作、下一色等の各地にありて名古屋市接續地には名古屋局より配達するもあり、又鐵道停車場は熱田、千種(名古屋の東部に接す)の官設兩停車場にして驛長以下の職員を有す、又熱田神宮の神官事務所は同神宮の條に譲りて茲には省略す。

○諸學校 本郡に於ける學校は高等小學七校(此生徒男千二百二十人、女二百七十二人)、尋常小學六十一校(此生徒男六千四百〇一人、女三千五百六十三人)を有し、熱田町には別に實業補修學校一個所を設く、此學校は國庫金の補助あり讀書、修身、算術、圖畫、意匠、摸型、製作、化學、物理學、陶器製造法、實習の諸科なり。

○神社 本郡には熱田神宮を始め其他特に有名なる神社少からず今簡畧に之を記すべし。

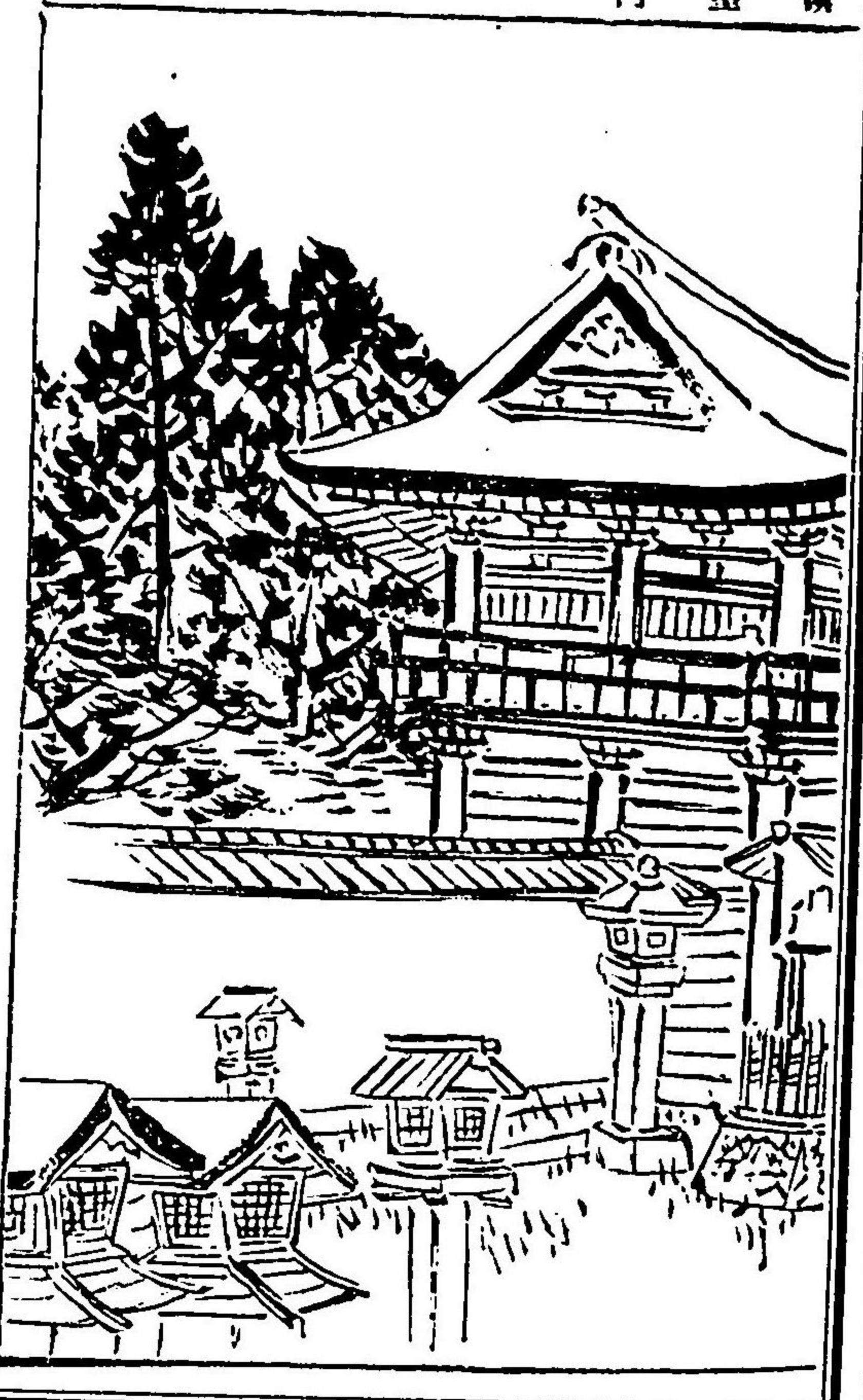
○熱田神宮 祭神は中殿に日本武尊、西殿に天照皇太神、素盞鳥尊、東殿に宮簀媛尊、建稻種命を鎮座し奉り別に土用殿と申すに三種の神器の一なる草薙の寶劍(天の叢雲の劍と稱せしもの)を奉祀す舊記に據れば景行天皇四十一年(今を去ること千七百八十年前)日本武尊伊勢國に薨し給ひける時尊の妃宮簀媛命其御兄建稻種命と議りて此地に神宮を造營し尊の御靈を安んじ奉らせ御遺物として尊の差置かせ給ひたる草薙の寶劍を納め給ひしより皇國の鎮護として神德著しく輝かせ給ひ歷代 皇室の御尊崇最も深く維新後改めて大宮司、權宮司、禰宜以下の神官を置かれ 畏き邊の御思召に依り特に宮殿其他の御改造増築あり同時に境内の區域南に廣まり舊千秋大宮司邸の邊は神苑となりて別宮八劍宮に接するに至り神樂殿は本殿の南方少しく東に偏する處にあり、參詣の貴殿此處にて神樂を奉納し鉦鈴の音常に絶ゆることなく、祭事は古來の格式を守り毫も之を破らす其中最も嚴肅なるは年始供御調進の式、踏歌の神事

(舊正月十一日)、御射の神事(舊正月十五日)、舞樂(舊三月十五日)、祈年祭(舊二月初巳の日)、花の
 撓(舊四月八日一名五穀祭と云ふ)、神輿行幸(舊五月五日、鎮泉門の閣上へ行幸王城の方に向ひて之を
 守護し給ふの意義)、夏越の祓(舊六月三十日)、神輿行幸(舊八月八日、俗に放鳥會と云ひ天慶の昔平將門
 誅伐の時の遺風)、新嘗祭(十一月初寅卯辰の日)等なるが維新後は大祭日を定めて定式の祭事を行ひ尙ほ
 其定式以外の祭事は舊曆相
 當の日時に之を行ふ事とな
 りぬ、又當社に四張の神門
 と稱するものあり南に當る
 を海藏門と云ひ、東を春敲
 門、西を鎮泉門(俗に西の
 御門と稱し慶長の頃加藤清
 正の寄進修造せしものなり
 と云ふ)、北を清雪門と云ひ
 しが此一門は中世廢絶して

宮 神 田 熱



現今八劍宮の東北なる古門
 に僅に其稱呼を存するのみ
 又昔時は八張の鳥居とて下
 馬鳥居(海藏門の南、制札所
 の北)中鳥居(海藏門外の西
 神幸路)、東鳥居(春敲門の
 東)、西鳥居(鎮泉門の西、白
 鳥)、濱鳥居(南の海邊)、築
 出の鳥居(築出町)、二の鳥
 居(北の方旗屋町)、一の鳥
 居(北の方尾頭町)あり高三丈五尺、柱圍一丈ありしが維新後廢絶せしもあり又存在せるもあり尾頭の
 第一神門舊地、旗屋の第二神門舊地の標木は即ち往時大鳥居の遺趾を示せるものなり、又境内末社多く
 有名の實らずの梅は海藏門内に、蓬萊(蓬ヶ嶋と云ふ)とて泰の徐福の古事を傳ふる舊地も亦同門内にあ
 り、雲見山は本殿の北森林中の小高き邊なりとぞ。



因みに當宮神官事務所は鎮皇門外に、神官詰所は御境内舊本殿の東にあり當宮古來神寶多く文庫亦稀代の品を以て満たさる。

御境内の總面積は三萬七千四百五十五坪三合一勺、現今の社殿は明治廿六年の御建築にして特に古式に據りて改造せられしものなり。

○八劍宮(熱田七社) 熱田神宮の南に在り延喜式に八劍神社と見ゆ元正天皇の和銅元年(今を去ること千八百八十三年前)の造營に係り一種の寶劍を奉祀せるより八劍宮と稱し熱田神宮の別宮とす當社の神威赫々たるは殊更に喋々を要せず殊に熱田七社の隨一にて祭事等畧ぼ本宮に同じく現今の神殿は明治廿六年熱田神宮と同時の造營なり、次に熱田七社とは神宮の攝社にして何れも延喜式に載せられたるものなり其祭神社名は左の如し。

○大福田神社 祭神正哉吾勝命 熱田町八劍宮(道路を隔て)の東に鎮座 朱雀天皇の天慶三年平將門誅に伏せし時鎮座ありしこと舊記に見ゆ。

○日割御子神社 祭神日本武尊第五の王子武甕王 熱田町八劍宮(道路を隔て)の東、大福田社の南隣に鎮座 鎮座の年月詳かならず延喜式に日割御子神社とあり。

○上知我麻神社 祭神小止與命(尾張氏の遠祖) 熱田町市場筋傳馬町の西へ行當りの地に鎮座

鎮座の年月詳かならず延喜式に上知我麻神社とあり俗に源太夫社又は知惠の文珠とも云ふ。

○下知我麻神社 祭神小止與命の妃眞敷刀婢命と建稻種命の妃玉媛命の二座 熱田鎮皇門(西の御門)北の築地外に鎮座 鎮座の年月詳かならず延喜式に下知我麻神社とあり俗に紀太夫社と云ふ。

○高倉結御子神社 祭神は日本武尊の王子なりと云ひ又仲哀天皇をも奉祀すと云ふ 熱田町字旗屋の東、田野の間に鎮座す廣き境域なり 鎮座の年月詳かならず世人此社を高倉の宮と云ひ境内の樹林を高倉の森と云ふ、舊六月朔日此境内の井水を汲み取りて小兒に飲ましむれば夏病みせずとて當日參詣する者多し。

○火上姉子神社 是れも熱田七社の一なれども本社は知多郡大高町にありて此處には遙拜所あるのみ委しくは知多郡の條に記すべし。(以上八劍宮を併せて七社)

○南新宮天王社 熱田町八劍宮の東北清雪門の向側にあり祭神は素盞鳥尊なり新宮坂は南の道筋にして其名は神社より起る鎮座の年月詳かならずされども新宮の稱より考ふるに熱田の七社なごよりは遙に新らしかるべし、毎年舊六月五日の祭禮には高十二間餘の大山車の上に五間餘の大松を立て車輪の直徑四尺五寸、厚さ一尺一寸のものを以て曳き廻る莊觀他に比類なき程なり。

○鈴御前社 熱田町(正覺寺の東)にあり祭神は天鈿女命にて古來六月末日名越の菰(熱田大宮の御祭

事)は此社の川岸にて執行せられ舊記に茅の輪を設け五串に五色の幣をさし各汀の芦の葉に白木綿つけて解除するとは此處のことなり。

○成海神社

鳴海町(熱田より一里半餘)の中央にあり延喜式に成海の神社本國帳に正二位成海天神と記せるは此社なり、祭神は日本武尊にして天武天皇朱鳥元年六月の鎮座と云ひ由緒正しき神社なり。

○川原神社

廣路村大字川名(名古屋より約一里)に鎮座す延喜式に愛智郡川原神社とあり俗に川原の神明とも稱し伊勢國度會郡川原神社と同神なるべし、境内の小池に弁才天の祠あり縁樹之を圍り八事街道に沿へる茶店藤架の下春候は花を賞すべく夏時は憩ひて暑を避くべし。

○石作神社

岩作村(名古屋の東方約四里)にあり延喜式に山田郡(往時は山田郡と稱す)石作神社本國帳に従三位石作天神とあり、祭神は石作連の祖神建摩利尼命なりと云ふ。

○山口神社

山口村(名古屋の東方約五里餘)にあり八幡と稱す延喜式に山田郡小口神社とあるは山口神社の誤にして本國帳には山口天神と出でたり。

○針名神社

平針村(名古屋の東方約三里)にあり延喜式に針名神社とあるは是れなり。

○高牟神社

千種村大字古井(名古屋より三十町餘)にあり成務天皇の御宇に鎮座、延喜式に高牟神社とあるは此社にして祭神は高皇產靈尊なり。

○物部神社

千種村と名古屋市街地との境界に接し筒井町建中寺の南東(車道の東)にあり俗に石神堂と云ふ祭神は宇麻志麻知命なり、何時の頃よりか此社荒廢に歸せしを元祿年間尾州藩侯吏員に命じて修復せしめられたり當時の建碑今尙は存す。

因みに愛智郡に物部の郷ありしも今は其場所定かならず恐らくは此邊を云ふなるべし。

又本郡内に於て延喜式に載せられたる神社大小凡そ十七座御田天神、伊副天神、青衾名神も此中にあり蓋し名古屋の東方又は東南に斯る舊社多くして西愛知に少きは其土地の概して新開に屬する故ならんか。

○七社明神

岩塚村にあり本社は日本武尊、攝社は熱田の七社を祭る日本武尊熱田より江州伊吹山の荒神を退治せんとて出發し給ひける途中立ち寄せ給ひし地にして御腰掛の岩今尙は本社と云ふ。

○豊國神社

織豊村大字中村(名古屋より一里)にあり明治維新後の創建に係る豊公の邸趾は社後の竹藪中なりしと云へといかにや、近時大に社域を擴張せんとする者われども未だ着手に至らず。

○佛閣

郡内には寺院佛閣の有なるもの亦少からず左に之を摘記せん。

○八事山興正寺

廣路村字石阪(名古屋より一里半餘)にあり眞言律宗にして遍照院と號す、元祿元年

藩侯二代目瑞龍院殿特に命を下し紀州高野山を模範として創立せしめられたるが故に俗に尾張高野の稱あり、此山は東西二山に分れ中央の低部に佛殿及び五重塔あり東山には元祿以來貴賤の石碑數千基を建て高處には大日堂を設けて銅製の大日如來を安置す、其他山内に幾多の建築物あり維新前は女人の登山を禁じたりしが今は何人も登ることを得べし、又西山には觀音堂あり七十五段の石階を控へて境内清淨なり、殊に大日堂の邊は眺望絶佳にして廣々たる名古屋附近の田園を双眸に收めて金城と相對し南西の方熱田灣を隔て、勢山を掌上に弄するを得べく春秋二期には市人群を爲して來遊す、實に名古屋市の一大公園とも云ふべき勝地なり。

○天道山高照寺 彌富村(八事山與正寺より南へ約六町)にあり、中古は臨濟宗京都妙心寺末にして尼僧之を守りしが維新後男僧の住職に改まりぬ、此境内に天道社と稱する社あり延喜式に丹羽郡稻木神社と記され同郡寄木村にありしを享保より寛保の間に山號寺號を命じ今の地に移され舊名に依りて寄木の天道と稱す、春陽の候には遊人群集し絃歌樹間に湧くことあり毎年舊十月十四、十五の兩日例祭を行ひ參詣者頗る多し。

○香積院 廣路村字川名にあり味岡山と號し曹洞宗なり、曾て碩徳の住せしことあるを以て其名高し川名より妙見山に至る途中奇異なる山門の立てるは即ち此寺なり、境内閑寂にして盡間人語を聞くこと

稀に清風一味の涼を提供す。

○笠寺 笠寺村にあり(熱田の東方約一里)東海國道に接し鳴海驛は其東方十餘町の地に當る、此寺は縁起最も古く天林山笠覆寺と稱す、聖武天皇の御宇此地に小松寺と號する一寺の建立ありしを起原とし一時荒廢に屬して十一面觀音の佛跡のみ残りしを其後太政大臣藤原基經公の三男兼平朝臣再建せられ茲に笠寺の稱起れり(縁起長ければ畧す)、中古以來名古屋及び此地方に於て四觀音の一と稱へ例年初觀音には賽客雲の如く集りて殊に有名なり。

○祐福寺 春木村字邊田にあり(名古屋より東方約四里半)淨土宗の名刹にして村上天皇の御宇達智上人の開創せしものなり、後奈良天皇の御宇勅に依り天下安全の祈禱を此寺に於て修せし事あり、其他永享四年(三百七十九年前)足利義教公富士遊覽の途次此寺に立寄りて和歌を詠せられし舊跡として本郡東部に於ける著名の大寺なり。

○法持寺 熱田町にて白鳥山の稱あり、今は曹洞宗なれども弘法大師が熱田の宮に參籠して行法を修し其暇に地藏菩薩の像を刻みて當寺の本尊とせしこと舊記にあり、曹洞宗の日本に開創せられたる以前よりの古刹なりしが中古此寺頽敗せしを寶徳元年に明谷義光和尚の再興せしものなりと云ふ、白鳥陵は即ち此寺後にあり地面高燥にして石垣高く嚴重に構へられ風景比類稀なる寺院なり。

○正覺寺 熱田町にあり永享六年邊田祐福寺の僧融傳の開創にして熱田神宮の神職粟田城太夫と云ふ者奇瑤に感じて土地を寄附せしと稱せらるゝ名利なり、寺寶極めて多かりしが中古回祿の災に罹り十中八九を亡失したりと云ふ。

○圓通寺 熱田町新宮城の東にあり曹洞宗遠州普濟寺末にして境内に羽休三尺坊の祠あり賽人多し此寺の向側に清正公の祠あり是亦參詣者少からず。

○大藥師 熱田町にあり往時熱田神宮海藏門外に木津山神宮寺と稱する寺ありて仁明天皇の御宇に創建せられ傳教弘法大師を開基とせしが其後久しく頽廢に歸せしを豊臣秀頼再興あり、爾來再び荒涼の裡に沈み元祿九年幕府の允許を得て再び建立せられ不動院、愛染院、醫王院等の宿坊ありて頗る莊觀となり本尊藥師如來の座像は古名匠の作にして高二丈一尺八寸俗に大藥師と稱せしが、維新後神佛兩部を廢せられ神宮寺は取除かるゝと同時に此有名なる大藥師以下の佛像も各所に移轉し今は再び熱田町字東熱田に復歸するに至れり。

○太閤山常泉寺 織豊村大字中村(豊國神社より約二町東)にあり、境内太閤堂(明治廿四年の震災に破壊し今は仮堂なり)には豊太閤の肖像木像及び種々の寶物を藏せしが累年の災害に大半消失せり又境内に太閤産湯の井及び手植の狗骨樹あり。

○清正公の祠 同村常泉寺の南數十歩正悅山妙行寺の境内にあり肥後能本より傳來の木像を安置す賽人絶ゆることなく現今西愛知に於ける靈場の一に數へらる。

○淨海山觀音寺 荒子にあり天平年間の創立天台宗にして永祿八年再興せられたる名利なり、本尊觀世音は僧恭澄の作にして尾張四觀音の一なれば初觀音などの當日參詣者甚だ多し。
右の外愛知郡内にて有名なる寺院概略左の如しと知るべし。

- 誓願寺(熱田町) 聖徳寺(熱田町) 本遠寺(熱田町) 瑞泉寺(鳴海町)
- 如意寺(鳴海町) 龍興寺(御器所村) 本泉寺(山口村) 安昌寺(矢作村)

○名勝蹟 本郡は有名なる神社佛閣に富めると同時に名勝古蹟亦少からず、左れを桑田碧海に變じ碧海亦桑田に變ずるもの多く、昔日の名勝必ずしも今日の名勝と云ひ難さも古蹟は依然として古蹟なり之に據つて地理の變遷を窺ひ歴史人情風俗の移轉を考究せば古來其土地に附屬せる詩歌以外に或る趣味と智識とを發見する事を得ん。

○布曝女町 熱田町市場の東八劍宮の南東なる堅町なり、曾福女ども書く傳説に曰く日本武尊此處に到り給へる時小川の邊に美しき一女子布曝して在しけるを見給ひ其名を問ひ給へば宮簀媛と申す由答へ給ふ云々と則ち此處にて其命の女工なし給へるが地名に殘りたるなり。

○松風里 夫木抄、藻蘆草、松葉集等に出でたれど其地定かならず、熱田正覺寺の邊なりとの説多し或は鳴海附近なりとも云ふ。

○火高地古道 熱田裁斷橋の東築出町の邊をいふ日本武尊氷上の宮寶媛命の許へ通はせ給ひし古道の跡なりとて昔は町家二三軒ばかりの部分で常に明地となしありしとぞ。

○呼積濱 熱田の附近なり昔は此邊より山崎笠寺の邊まで入海なりしが漸々に堤防築かれ新田開かれ今之如く陸地とはなれり古詠多し。

なく千鳥かたみに友を呼びつぎの濱づたひして聲かはすらん

爲村

○浮島ヶ原 熱田裁斷橋の東一町許に一堆の塚山あり元社ありて天鈿女命を祭りし由なるが今は廢絶せり、古來洪水高潮等の爲め此邊の人家田園流失破壊する事屢次なりしも此地のみ浮き上りて其災に觸れず故に浮島ヶ原と呼びならはせりとぞ。

浮島やいかに五月の雨のくれ

由多加

○東御殿趾 熱田の築地海岸通の東北に當る場所にありて御茶屋御殿とも稱し元海彈院の寺地なりしを延寶六年同院を幡綾に移し其跡に造營せられたる殿宇にて外觀の嚴重なる城廓の如くなりしも維新後取拂ひとなりたり。

○兼覺里 藻蘆草に尾張或は美濃とわれど舊東御殿邸の内が其舊地なりと傳へられ維新前迄ねざめの櫓と稱する名こゝに残り居りし。

風の音にかさろかされて吾妹子かねさめの里に衣うつなり

伊勢太輔

○熱田濱 伊勢物語に、昔男ありけり都にありわびてあづまへ行さけるに伊勢尾張のわはひの海づらをゆく浪いと白く立つを見て いとゞしく過ぎゆくかたの戀しさにうらやましくもかへる浪かなとよめりける、とあるは此處なり。

○間遠渡 熱田より桑名へ渡る七里の船渡なり、天武天皇大友の皇子の亂を避けて東國に下り給ひ伊勢より尾張へ渡らせ給ひし時御船早く着岸せざりしをわび給ひて間遠なりと仰せられしよりかく名付けしと云ふ、今は汽船などの便あれば其憾みもなく海上の風光を賞し得べし。

○年魚市濱 古歌に知多の浦又氷上などを合せよめるを見れば熱田より東の方知多郡境の海邊迄をいふなるべし。

万葉わゆちかた潮ひにけらし知多の浦に朝こく舟も沖による見ゆ (讀み人知らず)

○扇の橋 熱田の表大瀬古にあり此所平將門の首を埋みし跡といひ傳ふ、夫の「將門は米かみよりぞ射られけるといへる古事によれるにや、一名米かみ橋ともいへり。

○景清祠 同所東の方にあり平家の勇士悪七兵衛景清熱田大宮司の諱なりし故主家没落の後身をやつして熱田に潜居せしと云ふ、八劍宮の東北の方にも景清屋敷と呼ひならはせし舊地あり。

○織田信孝出生地 織田軍記に、三七殿信孝熱田神人岡本が家にて出産云々の事を記せり、今確に其地を知るに由なしと雖も熱田にて誕生ありしは争ふべからざる事實なり。

○源頼朝誕生地 熱田旗屋町誓願寺の境内に頼朝公の靈社あり傍の小池は産湯の池と稱す、久安三年四月八日源頼朝誕生是左馬頭義朝之三男母熱田大宮司藤原季範之女也と記録に見ゆたり。

○白鳥 同所誓願寺の邊より西は堀川の岸までをいふ其地頗る廣し、日本武尊薨去の後白鳥となり給ひし古事のやがて地名に残りしならん舊事紀に、日本武尊平東夷未遠薨尾張國矣と見ゆ白鳥の陵此邊に在り。

○機綾里 今の熱田大字旗屋町なり、旗屋は機綾、機綾なを書きて古き地名とし和銅五年伊勢尾張參河等二十一國に令して綾錦を織らしめられしこと舊記に見ゆたり、されば尾張と機業との關係に就ては其起原最も古きを知るべし。

○源義經元服地 是も旗屋町の邊にあり、承安二年志耶奈王京都鞍馬寺を忍び出て奥州に下らんとする途次此地より元服し熱田大明神に參拜して九郎義經と名乗りし由義經記に出でたり。

○懸峰山 断夫ども昔く旗屋町の西の方にある丘山なり或は白鳥の陵是れならんかと云へど証説なし又古歌に蘇山とよめるは此地なりと云へどそれも慥ならず。

○夜寒里 旗屋町の東高藏森の南の方なり中古は里なく田野のみにて其舊名を存せしが今は此邊却て人家を見るに至れり。

袖かはす人もなき身をいかにせん夜寒の里にあらし吹くなり 顯 仲

○玉の井里 熱田高藏森の南の方にあり又葉栗郡にもありて何れか是なるか慥かならず。

夕立の一むら過ぐる草の葉にかく白露の玉の井の里 中 務

○中村 今は織豊村の中に入りて中村は字となりぬ、名古屋を西へ距ること一里餘の小村にして風致に乏しき平野の間にあり豊公此所に生る。

銀杏村名今已空。築阿彌邸付荒蕪。平疇四面無奇特。誰信英雄出此中。 易 堂

○加藤清正宅址 織豊村宇中村太田山常泉寺の西の方に舊地あり、續撰清正記に、尾州中村は清正出生の在所たる故江戸上下の時は百姓ども新しき桶に餅を入れて人々の前に置き老若共に海道端に罷出で並び居れば老人にはさてく達者にてよき事と宣ひ若輩なる百姓にはこれは誰が子彼れは誰が孫ぞとろれくゝに詞をかけ給ひてぢぢばぢぢ如きの者にも懇ろに仰せられ銀子一枚づゝ毎度佳例として下し給ひ

ければ百姓ども感涙を流して歸りけると見ゆたり。

○東山 名古屋市に公園なきを憾む者あり風致に乏しきを歎く者ありと、誠には是れあらん、試みに去つて城東一里半の所に歩を移せ其不平は立地に滅却せん、東山の勝景は單簡に悉す事能はず茲には只東山と云ふものゝ名古屋附近にある事を紹介し置くべし先づ川名山中香積院、般若堂等の閑静を探り妙見山より音聞山、中根山等を畫中に收めつゝ八事に至り興正寺の境域を通りぬけて八勝館に休息し、館内より更に興正寺の堂塔を樹間に見かへり又更に眼を轉じて南の方熱田湯及び伊勢の遠山を眺望せば殆ど恍惚として自失するものあらん、東山は一帶の小丘なり其特色は奇抜にあらずして寧ろ平凡に且つ種々の變化を有せるに在り、之を雄壯に缺けたりと言ふは不可なり寧ろ艶麗に過ぎたりと評せん、されば老幼も登るべく婦女も遊ぶべく春花秋葉夏綠冬雪の風光何れも絶佳ならざるはなし。

○音聞山 東山の中にあり昔は鳴海湯近く此山の麓まで入込み濤聲常に松籟に雜りしより山の名は起れりとぞ古來歌詠多し。

○中根山 中根村の西北にあり古歌に難山とよめるは此所なりとの説あれどいかにや。

○猫洞池 末森村の東北にあり寛文年中田地の灌漑に供するが爲め掘りしものなり、此所景色よし。猫洞探奇一路分。山花各處映春寒。徘徊更歩深間望。碧水全涵綿繡文。

伯 就

○猪子石 猪子石村にあり牝石は村東の山頂に横はりて長四尺五寸横三尺高一尺五寸、牝石は藤森道金連川(香流川とも書く)の邊にありて長五尺横一尺五寸高一尺にして其形最も奇なり村名之に依つて起る。

○牧大池 高針村にあり往昔旱魃にて近村用水に窮せし時勝野某村長に謀り此池を穿たしめ村民今尙は恩澤を思ひ新殺熟すれば必ず其墓前に供すと云ふ池は廣大にして月下の秋色殊に賞するに堪へたり。

○月見坂 田代村にあり名古屋の元標を去ること一里餘、岩崎街道の中にて有名の地なれど今は道路を改修して殆ど景色を殺滅せられたる趣あり。

見るものと覺えて人の月見かな

野 水

○岩崎池 岩崎村竹野山の西南六坊山の麓にあり高六丈餘飛流懸崖を撃つて直下す實に壯觀なり。

○岩崎城址 同村にあり天文七年丹羽氏清の築く所にして氏次に至るまで在城せしが天正十二年三月氏次小牧なる徳川家康の陣營に赴き當城を弟氏重及び姉婿加藤忠景等に守らせしに四月九日池田勝入、森武藏守大軍を率ゐて攻め來りしかば氏重之と戦ひ主従悉く戦死を遂げたり、氏重當時僅に十六歳なりしと云ふ其武勇は水く此城址と共に傳稱せらるべし。

○物見岩 山口村の東にあり武田家の成卒此山上に登りて物見せしより名付くどぞ尾張名所圖繪に曰

く物見岩の絶頂は四望明かにして當國及び三濃の山々は波濤の如く瀬戸の陶煙空にたなびけるも見ぬ渡り又名古屋の金城を初め昔は犬山、桑名、刈屋、岡崎、舉母の城など所々に雪を點せるが如く見ゆしと云ひ知多、熱田の海面まで手に取るばかりにして其風景最もよく實に名區といふべし。

○海上ヶ洞 物見岩の山腹にして岩石數多峙立し栗樹林中徑最も險阻なる所人家点々かのづから世外の風致あり。

○汐見坂山 北熊村の東の山なり、西南の眺望殊に開濶にして遠く海潮を見ることを得るが故に此名あり。

○八幡山 御器所村にあり此山に富士白山兩權現の祠あり近年社地の近傍富貴園に多くの牡丹を培養するが故に花候節を曳く者多し。

○師長公蹟居地 瑞穂村大字井戸田にあり公の此地に流瀆せられ給ひし事は平家物語、源平盛衰記を初め諸書に見ゆたれば茲には畧す。

文化の十四年神無月井戸田の師長公の舊跡を尋ねて
君すみし跡を波のかに尋ぬれば松に妙なる音る残れる 伏見宮(御詠)

松風里外聽漁歌。秋色新添寒水波。君儻非逢寥落日。爭知東海月明多。 爲 春

○星崎古城 星崎村にあり、天正十六年城主山口重政、信雄公より一万二千石を賜はり伊勢國に移りし後廢城となる星崎は古への庄號にして歌詠に入るもの多し。

星崎の關を見よとや啼く千鳥

芭 蕉

○櫻田 呼積村字千竈櫻(山崎より野並に行く道路あり)の田圃をいふ萬葉に「櫻田へ鶴なさわたるわゆち瀧掃ひにけらし鶴なさわたる」などよめるは此處なりと云ふ、又催馬樂に櫻入るの舟ちゝめと唄ひしも此所なるべしとの説あり。

○野並里 嶋野村のうち大字野並に並松と呼ぶ地あり是れ古道の名殘にて干潮につたひし所なりと云ふ現今梅樹多し。

○古鳴海 野並の南に接し鳴海町の北(半里餘)に當る古村にして古への海道なり、和名類聚抄其他の古文書に成海と見ゆ明月記に鳴身とも見ゆたり古詠の多きと恐らく此地程多きはなかるべし今くだしければ之を省く。

○善照寺砦 鳴海町瑞泉寺の北にあり永祿二年三月今川義元京都へ攻上らんとせし時織田信長公佐久間左京亮を當砦に入れ置かれしと云ふ今猶は古松六七株を存せり。

○細根山 鳴海山の内にして一名小山園と稱す、鳴海町の豪農下郷氏の別荘なり、其先寂照菴知足の

經營に屬す山中の十四景四時のながめに隨て二十八景となり四十二景となり變化殆ど際涯なし、燕中和尙の小山園記之を寫すこと頗る詳かなりと云ふ。

○二村古驛 沓掛村の邊にして和名抄に尾張國山田郡兩村無其とあるは此地なり、往古の官道は伊勢國板橋の驛より尾張國馬津驛に渡り新湍兩村の驛を経て三河國鳥桶驛に至れり沓掛の號は多くは古驛の跡なりと云ふ、二村山は沓掛村にあり土人之を嶺山と呼ぶ昔は此山下を通りて三河國八橋の方へ出でしなり山頂の風光實に尾東第一と稱すべし。

露しぐれ二むら山のもみぢかな

宗 砥

○鎌倉古道 今の國道より半里ばかり北相原(鳴海町の東十餘町)より二村山を越ゆ境川を渡りて三河の八橋に至る道なり二村山の南麓に老松數株ありしは即ち其遺跡なりしとぞ。

○境川舊渡 今の國道より半里ばかり北十三塚の東にあり是れ古への渡瀬にして尾三の境界なり。

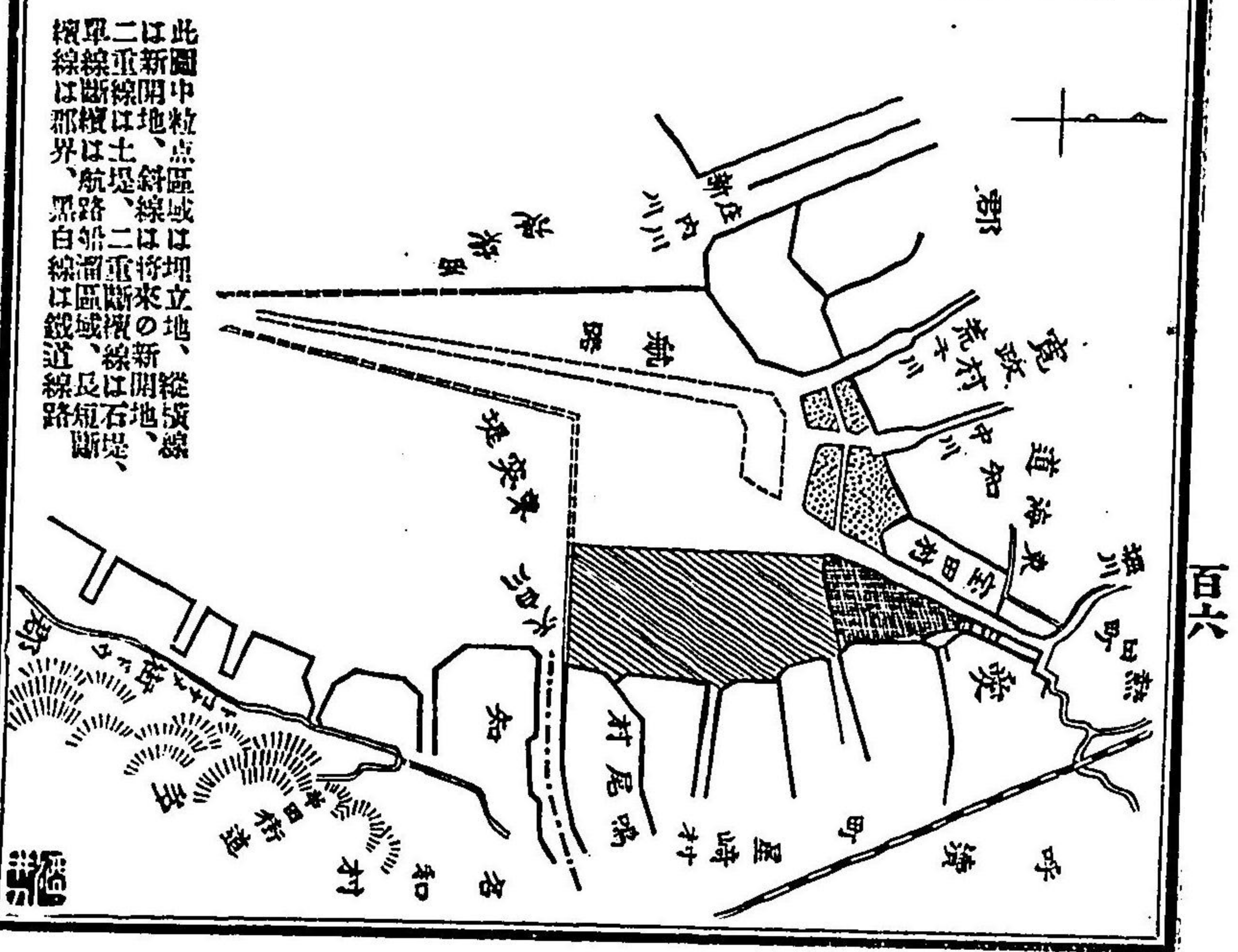
○古戰場 本郡は往古より武を以て聞ゆる場所とす隨て郡内に戰爭等の事蹟少からず、舊史之を傳ふるものあれど其地名等の分明なるもの少なく只中古以來は明からに之を辨知すべきものあれども大に注目を惹くもの稀なり、然れども長湫の古戰場に至ては實に有名なるものにて愛知縣下三大戰場の一に數へられ全國中にも亦多く其比を見ざるものなれば特に左に之を記す。

長湫古戰場は愛知郡の東部にありて名古屋の出來町口より富士ヶ根(家康公の旗立山)迄凡二里十二町三間二尺、大曾根口より同上へ二里十六町二十六間四尺ありと云ひ、其來歴は既に歴史に詳かなる如く豊臣秀吉公織田信雄郷と兵を搦ふるや徳川家康公織田家を援けて小牧に出陣し豊太閤と對陣あり(豊公最初は犬山に後には樂田に本陣を進む)、天正十二年四月豊臣方は池田勝入父子森武藏守等の諸將をして竊に樂田を發し間道より尾張の東部を経て三河の岡崎を衝かしめんとし、池田等の諸將同月八日愛知郡に入り同九日岩作長嶽を経て岩崎に進み早朝岩崎城を攻めて城將丹羽氏重以下二百餘人を屠り將に三河路に突入せんとする際、前夜徳川家康公自ら小牧の營を發し急行して此池田等の諸將に追及し後側面より突撃し遂に池田父子森武藏守等を撃殺して大勝利を得たるの場所とす、此戰場は北の方印場村の東(東春日井に屬す)白山に始まり(是より長嶽接戦の主要地迄約三十町)南は本郡の岩崎村に渉る(長嶽より一里四町白山より凡そ二里)の間にあり此戦に豊臣方は池田父子森長可、三好秀次、堀秀政等の諸將一萬六千人を率ひ、徳川方は家康公自ら將として織田勢を併し總勢一萬餘人、互に鏑を削り僅々數時間に勝敗を決したる場所なれば當時激戦の狀は實に想像するに餘りあり、前記富士ヶ根の外、色金山、佛ヶ根小丸根、烏狹間等は此戰場に於ける著名の場所とし、池田勝人、池田紀伊守、森武藏守等其他戦死者の墳墓も亦此邊にありて近年壯大なる石碑を建てられたるものあり、又岩崎城の古趾は同村六坊山の麓に

りて丹羽氏重及び其部下二百三十九人悉く打
死したるの遺趾とし、氏重の墳墓は同村妙仙
寺にあり（此時氏重を助けて戦死したる丹羽
氏重の姉婿加藤太郎左衛門忠景の墳墓は長湫
にあり）維新後一時は此古戦場を顧みる者稀
れなりしも近來は世間一般の注意を惹くの一
大古戦場として實地探見者少からず。

○熱田築港 熱田港は從來保田沖と稱へて
現今の築地海岸より約一里の海面にあり南は
知多郡の半嶋障壁となりて大波濤の襲來を見
ざるも、西南は一も防波の設備なく、加ふる
に庄内川の流砂は常に此海面に沈滞して漸次
水深を減せしめ漸く二三百噸の船舶を容る、
も其礎堅甚安全ならず、爲めに西洋形の巨船

熱田築港圖



は皆三重縣四日市港に止まり尾張地方に陸上けすべき諸貨物は更に解舟に托して名古屋熱田等に廻漕す
るを例とせしが、明治二十九年時任前知事本縣在任の日特に此欠點を除かん爲め大に工事を起して熱田
に築港し當地方及び東海東山諸國の海門を開き、尙ほ進ては前途北陸地方との運輸聯絡の上にも大便利
を得せしめんとし屢々其設計を講じ遂に其成案を得たるに依り同知事は之を愛知縣會に提出して其賛同
を得、同年十月愈々其事業に着手し爾來其設計には多少の變更ありたれども三十一年十月遂に工事を起
し現今其工事は繼續年限中に屬す、此間、時任、江木の両知事は他に轉任し三度其人を代へ現任沖知事の
時代となりぬ、其成功豫定期は來る明治三十七年三月にして此築港に要する総豫算費額は百八十九萬七
千三百七十八圓とす、今築港の設計に就て成工後の結果を數ふれば概略左の如きものと知る。

- 航路水深二十尺 船溜水深二十五尺 港口百六十一間 西突堤(石堤)千二百九十七間、
- 五 同上(土堤)千百十二間、五 東(石堤)二千〇二十六間、七 同上(北の方石堤)九百
- 五十一間、七 同上(北東の方土堤)六百〇二間、五 一號埋立地(宅地となる分)十三萬六千
- 七百十六坪 二號埋立地(同上)九萬千四百四十坪 三號埋立地(同上)四萬五千八百七十六坪
- 四號埋立地(同上)四萬千九百八十五坪 新開地(田面となる分)二十四萬八千三百二十九坪
- 將來(新開地)たるべき部分八十八萬四千五百八十坪 船溜場十二萬坪

右の如く現今は既に埋立地等諸般の工事中とし本年より浚渫機船として鋤籠式二隻、唧筒式一隻及び其他の小蒸汽船數隻ありて各其運轉に着手し工事益々進捗し居れるもの、如く目下縣下に於ける一大事業たるは勿論實に全國有數の大工事と知るべし。

○運河及び新運河設計　本郡の熱田は由來名古屋市の海門たるが故に慶長十五年名古屋築城の舉あるや當時徳川氏は必ず此市府の繁盛に連れて貨物の運搬頻繁なるべきを察し、新たに運河を開鑿するの設計を立て城廓と同じく諸大名に命じて此工事の役に就かしむ(福嶋左衛門太夫正則の如き其一なり)、此工事は南熱田の海岸に起り北は名古屋城の西部幅下方面に達す延長約一里半當時築城に續くの大工事とし、今日熱田より名古屋に通するの堀川は即ち此舊運河とす、爾來本郡には諸新田開墾等自然的の地形を利用して小運河を造りたる者は之あり海岸接近の村落に其數個所を認むるも、茲十年以來に工事の竣工したるは熱田精進川(俗に姥堂橋と稱する橋梁の川筋)より熱田鐵道停車場(神宮東北)に達する間に開鑿せられたる小運河とす、是れは鐵道局國費及び熱田町費の支辨に依りて成功したるものとし海陸貨物の聯絡を計るにあり。又熱田築港と相聯屬して現今世評高きは新運河設計の希望とす而して其運河に二種あり、一は寛政村の方面中川の川筋(築港埋立地附近に河口を有す)を掘り開き漸次之を北方笈瀬川に達せしめ名古屋の西部即ち征嶋停車場附近に對し水運の便を開かんとするにあり、此考案は時任前知事

が曾て築港事業計畫の當時將來の目的希望を示されたることありしも未だ築港は完成せずして開鑿の時期到來せしにあらす、併し水陸運輸上聯絡線の必要は早晚免れざるることなれば現今の舊運河即ち堀川のみに依頼すべからざるは分明なれども運河開設は其事業の困難なる寧ろ熱田築港に優れる程なれば未だ之れが計畫に着手する者なし、然れども他日は早晚此開鑿問題の湧出し來る時代あるべく極めて有望の事とす、又他の一種は熱田港と知多郡武豊港を始め衣ヶ浦諸港との聯絡水路を開くにあり、現在までの姿に依れば熱田より衣ヶ浦及び東三河の諸港に航せんとする船舶は師崎岬及び其他二三の岬角を迂回せざるべからず、冬期西北風の激きに至れば小船解舟の類は容易に來往の目的を達せずして爲めに愛知縣尾三兩國の經濟上に損害少からず、熱田築港の後益々此利便を欲するに依り本港防波堤内より知多郡の北部を横斷する一運河を開鑿し熱田港と衣ヶ浦諸港との間に小船の航行を自由ならしめんとするにあり、愛知縣會も此事業の將來に必要なを認めて測量費目を議決し縣廳も亦既に是に基き測量を遂げたりと云ふ、又一説に此運河開鑿に就て最も好都合なるは熱田築港後東方防波堤内に八十餘萬坪の開墾地を得べき場所を有するにあり(築港圖中に明示す)若し此運河を鑿りたる捨土を用ひて右の開墾地埋立に充てなば其結果の良好なる云ふを俟たずして運河開鑿費用の大部分は此開墾地面を以て償却し得べき望みあり、早晚此運河は實際に工事に着せらるゝの日あるべしと評せらる恐らくは此言亦事實となるの

期あるべし(因みに此運河線の詳細は知多郡の條に譲り茲には熱田港に關係の事項だけを示す)、又熱田を基点として名古屋の東部前津小林方面より千種村方面に運河を通せんと計畫せしものあり、十年前より之を唱道し其線路に當るべき土地の高低等を測量したることあり、此事業亦容易にあらず一時測量(民業)の外にて其計畫は止みたれど名古屋の西部に舊運河の外尙ほ新運河の開鑿を計畫せらるゝの口わらば、東部にも亦此運河の必要云ふを俟たずして早晚此問題も亦湧起し來るべき形勢ありと知るべし。

○銀行諸會社

本郡に於ける銀行諸會社亦甚だ少からず其重なる者を擧れば大略左の如し。

社名	地名	資本金	拂込	業種
株式會社熱田銀行	熱田町	二十萬圓	十五萬圓	銀行業
株式會社愛知農商銀行	熱田町	十五萬圓	十二萬二千五百圓	銀行業
尼張紡績株式會社	熱田町	百二十萬圓	六十萬圓	綿糸紡績製造業
日本車輛製造株式會社	熱田町	六十萬圓	三十六萬圓	車輛製造業
株式會社鐵道車輛製造所	熱田町	五十萬圓	三十五萬圓	同上
中央煉瓦株式會社	呼田町	八萬圓	四萬圓	煉瓦製造業
愛知セメント株式會社	熱田町	五十萬圓	四十萬二千二百圓	セメント製造業
四愛酒造株式會社	機田村	二萬圓	五千圓	酒造業
愛知製油株式會社	八幡村	四萬八千圓	二萬三千六百十圓	製油業
燐寸原料株式會社	熱田町	三萬圓	一萬五千圓	燐寸原料業

前夜煙草株式會社	豐明村	一萬圓	一萬圓	葉煙草業
下之一色水産會社	下之一色村	一萬圓	一萬圓	水産物販賣
合資會社愛知石炭會社	熱田町	二萬圓	二萬圓	石炭販賣
尼産液物合資會社	千種村	一萬圓	四萬五千圓	液物製造
須崎製鹽合名會社	植田村	一萬圓	一萬圓	鹽製造
帝國製業合資會社	島野村	一萬圓	一萬圓	同上

○諸製造場 本郡に於ける製造工場も亦甚だ少からざれど既に會社の部に於て之を記したる者あれば今右記載以外の工場を掲れば大略左の如し。

吉田ハンカチ工場(岩塚村) 近藤綿織物所(千種村) 犬飼造船所(本造船製業、寶田村) 木材挽立工場(寶田村)
 阿知波造船工場(熱田町) 岡谷波機織製作用所(全町) 山田製程真田製鐵所(全町) 淺井製程真田製鐵所(全町)
 (備考尙ほ前記の外本郡内に諸製造所の小組織なる者甚だ多きも之を省略す)

○市場 愛知郡内に市場として見るべきものは其數少きも特に魚市場に至りては其盛況無比と稱せらるゝものあり之を左に記せん。

熱田魚市場は元龜天正以前より開始せられたるものにて織田信長公の清須在城の頃既に熱田の魚市場より魚類を清須に供給せり、其後名古屋に築城以來此魚市場は益々繁榮し寛永に至り魚問屋株なるもの定まりて六軒となる、爾來維新前迄此舊態に依りて問屋なるもの、特權頗る嚴格に行はれしが維新後は舊制廢せられたれど市場の形勢は別に變化なくして其習慣を存し、賣買高は日に月に其額を進め

又乳牛飼養者は名古屋市に接近すると本郡内も亦小都會地少からず生乳販賣の利便あるより他郡に比すれば其數多く最近統計に依れば一ヶ年牛乳の産額三百九十三石餘にして價格一萬四千四百五十二圓と云ふ、之に續て家鶏飼養者亦多く一ヶ年の産卵數は七十三萬七千餘顆に及べり。

因みに本郡の地質に就て概言すれば西南一帯は庄内川に接近し所謂第四期新層地(壤土)に屬し河成沖積層地たる勿論とす、其他名古屋附近より戸部山崎邊高地は第四期の古層に屬し、東部丘陵諸村は概ね第三期層にして東北猿投山に接する方面には花崗岩、北東西加茂郡に近き小部分の一方面には第三期古層に屬するものありと知るべし。

○工業品

綿糸は有名の尾張紡績會社ありて三萬〇三百〇四錠を有し一ヶ年の製造綿糸は九十四萬七千九百七十九貫目に及び、之に續くは麥稈草田にして製造戸數千八百戸、製品百三十四萬二千三百五十四圓、此價格三十六萬四千八百二十四圓に達し縣下斯業の第一位に居れり又、清酒製造額は醸造家十二戸大略毎年四五千石を産出し、醬油も醸造戸數四戸大略毎年三千八百石より四千石に及ぶの産出あり、織物は絹織物(價格六千圓)、絹綿織物(價格二萬二千餘圓)等あれども未だ盛大に至らず、此外鐵道車輛造船、汽機、汽關、セメント、煉瓦、團扇、菓子(布曝女、築羽根、大福餅、藤團子、以上古來の名物)燐寸(産額十八萬四千餘圓)、挽木、燐寸原料、製油、墨表等の産出頗る盛なり。

○水産物

本郡に於ける漁業は熱田方面及び下之一色方面に於て盛に行はる其漁獲物は種類甚多く其中重なるものは蝦、牡蠣、蛤、鰈、黒鯛、鰯、鱈、鰒及び海藻類とし外に尙ほ川魚の漁獲亦少からず是は多く西愛知にあり、又干魚鹽魚の製造も本郡には多少之あれども土地鮮魚を賣るに便なるが爲めに其數多からず、因みに右等の漁獲物は大抵尾張灣にして漁具は曳網、繰網(打瀬網の類)、巻網、刺網、建網、雜網にして漁船の數は大小一千隻に及び毎年之を新造するもの五十隻に内外し(大抵長さ三間以下)朽廢船を控除するも年々約ね二十餘隻の増加ありと知るべし。

○鑛業品

本郡に於ける鑛業は其種類多からざるも俗に謂はゆる岩木と稱するものと磨砂の採掘あり今先づ岩木に就て概略を記せんに本郡の東北に當る諸村には大抵之を産せざる所なしとも云ふ程にして其品質は石炭に似て軟弱に木炭に比して堅剛に其鑛脈の連亘するは石炭に似たり、昔より此岩木は薪炭に代用せらるゝものとして採掘せしも聊か臭氣あると從來の竈にては燃焼十分ならず隨て僅に産出地方住民の需用に應ずるに止まりしが、維新後は西洋竈の大に發達し來りて是等燃料は木炭に比して頗る効用多きと石炭に比しては亦價格低廉なるより頗る世間の需用を進め、名古屋市の如きは飲食店湯屋其他一般に之を需用する者が増加し郡村亦之れと同一の姿なるに依り産額隨て増加し、現に本郡の試掘の鑛區坪數丈にても六百六十三萬九千餘坪の廣區域に達し尙ほ漸次之れを増加せんとするの形勢あり、併し

只今にては未だ完全なる方法に依りて採掘を爲すものなく亦規律ある組合の設備なきが爲め其産額の詳細を知ること難しと雖ども、近來本郡東北諸村が此事業の爲めに巨多の収入を生せしは明白なる事實なり、又第二の磨砂に就て概略を記せんに産地は本郡の東方平針及び諸和春木の両村とし、平針最も産額多く此一村丈にて一ヶ年の採掘高無慮十四萬六千餘俵(價格一萬四千四百圓)に及び諸和春木の両村は其額尙ほ少量なれども三千乃至六千の俵數を得ると云ふ、此砂は品質最も良好にして名古屋市を始め他地方に輸送せらるゝもの甚だ多く近年搗米に磨砂を混するものゝ如き即ち此採掘品を需用するものにして其砂質の微細柔軟にして且つ色澤の美麗なる殆ど穀類の製粉かと疑はるゝものあり、是亦東愛知に於ける一種の産物なり。

○運輸と交通 大坂商船會社の支店熱田町にあり舊日本共立汽船會社なりしを近頃同會社に合併したるに依り直ちに熱田海岸の舊會社を支店とせり、合併前に蒸氣船十六隻を有して營業し多く伊勢志摩紀伊より阪神間に航行せしを以て見れば今日も尙ほ大抵同様の船數を以て從來の航路を維持すべく、尙ほ此外郡内には日本形(大形)八十餘隻、同上(小形)千八百七十餘隻(此内に漁船あり)を有し漁船約二千隻を除きては大抵多少運輸の事に従ふものと知らる(此外免稅船百三十隻)、又本郡交通上に就ては南部地方は東海國道に接し極めて平坦なるが上に熱田停車場を起点として鳴海方面よりは隣郡高鐵道停車場

へ僅に十町の道程あるに過ぎず、更に東して豊明村方面より知多郡大府鐵道停車場へ漸く一里半に充たず、殊に本郡の西部には箕瀬村に關西鐵道停車場并に本郡と名古屋との境界に於ける名古屋鐵道停車場を有し之れに聯絡して四方に交通するは自在なり、又本郡の東北部にも亦熱田名古屋との聯絡道路少ながら平針街道の東は岡崎舉母足助に通する三街道に分岐するあり、岩崎街道、猪子石街道別に其北にありて東北諸村に通じ、又本郡の西部には熱田(并に名古屋)より下の一色を経て海西郡の前ヶ須に通じ伊勢に達する國道あり、又名古屋熱田の境界なる新橋より津島佐屋に通するもの(佐屋街道)頗る重要視せられ之に次て名古屋の笹嶋(彌宜町先と云ふ)方面より本郡の鳥森に於て佐屋街道に合する柳街道(俗に百曲と云ふ)の如き亦重要道路の一にして何れも交通上の便宜に大關係を有するものとす、因みに現今本郡内に所有する日本形大船八十餘隻、小船一千餘隻、乘馬車三十餘輛、荷馬車三百三十餘輛、人力車六百七十餘輛、荷車八千〇八十餘輛牛車二輛は即ち此交通運輸の機關に充てらるゝものなり。

○軍用旅舎 本郡に於ける軍用旅舎として去る頃(本年六月)其筋より指定せられたるもの左の如し。

熱田町神戶 健屋	同 町海岸 伊勢久	同 町海岸 岡田屋	同 町海岸 大森	同 町神戶 藤屋
同 町神戶 橋屋	同 町傳馬 山城屋	同 町傳馬 田島屋	同 町傳馬 柳屋	同 町傳馬 伊勢屋
鳴海町川本	海町中立	平針村 錠浦屋		

○東春日井郡

本郡は尾張東北の一隅に於て東は三河國西加茂郡に接し、北は美濃國土岐可兒の兩郡に隣りし、西は丹羽郡及び西春日井郡に連り、南は愛知郡に接す、往時は春日部、春日部の稱あり、又山田郡を割いて本郡に合し應永以後に春日井の文字を用ゆ、面積十八方里、三四にして人口八萬四千四百餘人を有す、地勢は東北は多く山嶽部に屬し西南は平野の地たり、一般の産業は農を以て第一とし工之に次ぐ、郡内に名勝亦甚少からず、殊に本年中央鐵道名古屋多治見間の線路開通し始めて本郡に流笛曉々の聲を聞くに至り隨て諸般の事業に大進化を促すの時期を迎へたれば本郡は自今一層好望の位地に立てるものと評せらるゝに至れり。

因みに本郡に於て五千以上の人口を有する市邑は瀬戸町(人口八千四百餘)とし其他の四十二町村は五千以下の人口を有する者なれども特に勝川、小牧の二町及び内津、水野、品野、赤津等の諸村は世間に其名顯るゝものなり。

○諸官衙 東春日井郡役所、勝川警察署、勝川稅務署は勝川町に、大藏省名古屋專賣支局出張所は小牧町に、名古屋區裁判所出張所は勝川、瀬戸、小牧の諸町にあり、又瀬戸小牧の兩町に警察分署を置き、又勝川、小牧、瀬戸の三箇所に郵便電信局を内津、大森、坂下の三箇所に郵便局を設かる。

○歩兵聯隊兵營 第三師團歩兵第五旅團に屬する歩兵第三十三聯隊の兵營は二城村大字守山にあり、此邊舊時は至て僻村なりしが今は頗る其趣を變せり。

○諸學校 本郡に於ける學校は高等小學四校、尋常高等併置小學一校、(高等小學生徒男八百五十五人女二百四十四人)、尋常小學四十六校(生徒男三千七百四十九人、女千七百六十七人)を有し別に瀬戸町に瀬戸陶器學校を設けあり明治廿八年の創立にして讀書、修身、算術、圖畫、意匠、模型、化學、物理學、陶器製造法、實習の諸科とし現今生徒七十五人あり。

○神社 本郡は往古山田郡(瀬戸及び水野方面)を割て春日井愛知の二郡に合せられしに依り春日部山田二郡に於ける延喜式内の官社頗る多し、今其大略(式外にても特に注意すべき神社を附記す)を記せん

○内内神社 内津村にあり、延喜式に春日部郡内々神社とあるは是なり、祭神は建稻種命にて寛平の熱田縁起に依れば日本武尊尾張に還り向はせられし時篠城(庄名後に篠木と書く内津も此庄の内にあり)に到り食を進むるの間に稻種公の從者馳せ來りて公の海に入りて失せ給ひしとを告げ申せしに日本武尊之を聞せ給ひて悲泣の餘り現哉々々と仰せられしが此地の名の起りなりとあり、中古妙見社なを稱へたることありしも是は別物にて維新以來神佛の區別あり嚴然として尾張の北東部に立たせ給ふ大社なり。

(因みに當社に奥の院と云ふが社後の山上にあり當地開闢の地と云ひ岩窟深さ二間計り其中に一小祠あり)

り同しく建稻種命を祭れり。

○尾張戸神社 水野(上水野)村にあり、祭神は天香語山命、天火明命、建稻種命にて共に尾張氏の祖神を祭り延喜式に山田郡尾張戸神社とあるは此社にて當國明神と稱へたることあり二百余年前此山より古き鐵の桶に當國明神と記したるものを掘出し尾張戸の神の本貫地は此邊なることを知り得たりと云ふ

○伊多波刀神社 田樂村にあり、八幡社の稱あり延喜式に伊多波刀神社(後に坂鳩と書きたることあり)本國帳集説に古板面鳩を書きて神靈に献す依て其號とすとあり境内甚だ廣し。

○澁川神社 印場村にあり、延喜式に澁川神社とあるは此社にて往古は澁川と云ふ地名は十餘町の北にありて其處に鎮座ありしを中古今の地に移せりと云ふ、又此社は昔大嘗會の齋場に祀りしものと聞ゆ村名も夫れに基けりとぞ。

○大目神社 赤津村にあり延喜式に大目神社とあり中古其神號も失せて其地を大守り又は御守塚など稱へしが天保十一年に當社を開扉して始めて式内大目神社たる確証を得たりと云へり。

○深川神社 瀬戸町にあり、延喜式に山田郡深川神社とあるは此社にして此邊は往古山田郡に屬せしなり、祭神は五男三女神とて天忍穗耳尊、天穗日命、天津彦根命、熊野椽樟日命、田心媛命、瑞津媛命市杵嶋媛命の八柱なり。

○田縣神社 久保一色村にあり、延喜式に丹羽郡田縣神社とあるは此社にて往古は此久保一色は丹羽郡に屬せしと見ゆ、此祭神は田地の豊饒を守り給ふ女神と稱す瀨波縣君の祖大荒田命の御女玉媛命を祭れるにやとの説あり。

○外山神社 外山村大字北外山にあり、式内にして往昔は六社あり六所明神と稱せしが、今は三社にして國常立尊、國狹穗尊、豊斟尊の三神を祭れり末社には春日社、八幡社あり。

○高牟神社 高間村大字瀬古にあり、式内にして本國帳に従三位高牟天神とあるは此社にて古き棟札等を有する舊社なり。

○川嶋神社 二城村大字川村にあり、式内にして本國帳に従三位川嶋天神とあるは此社とす、中古までは直會殿の趾も知れ居りたりとぞ。

○宗良親王の祠 雖五村大字大留にありて同村氏神内宮神明社の攝社なり、此由來は乎止與命の末裔にて當國の人尾張員元の時代に南朝に仕へ數度の軍功あり應安年中宗良親王に供奉し此地に留め參らせしに依り王留村とも云ひし因みに依り同親王を祠り奉りしものならんと云へり。

○兒權現社 大野村大字大山にあり、此地方は山嶽部にて本宮山の東に當り同社も亦峻嶮なる山嶺にあり、昔は一大寺院あり(源海上人開創)宿坊夥多ありて莊嚴を極めしが叡山の僧徒來りて此宿坊を燒き

一時廢絶せしも高倉帝の御宇一社を造營して兒權現の稱あり。

○佛閣 本郡内に寺院佛閣の有名なる者亦少からず詳細に之を記せんには多くの紙數を費さざるを得ず依て概略を左に掲ぐべし。

○大森寺 大森村にあり、(淨土宗京都智恩院直末)寛永十一年二月舊尾州侯二代目瑞龍院殿の生母吉田氏(歡喜院殿と稱す)、江戸にて逝去せられし後侯は追遠の爲め小石川傳通院内に一字の精舎を建立せしめられしが、寛文元年に至り住僧大龍和尚に命じて尾張に移し大森村に堂舎を營ましめ寺領若干を與へ今の寺號に改められし名刹なり。

○龍泉寺 松洞山と稱し志談村大字吉根にあり、縁起に依れば延曆年中傳教大師熱田宮に參籠の折龍女の奇瑞に依り此地に來りて法華一實の妙旨を龍女に授けたるに龍女は限りなく悦び今より早魘の時あらば甘雨を下して衆生を救はんと云ひ其飛入たる池を多々羅ヶ池と云ふ、其後弘法大師も亦此處に來られ種々の奇瑞に依り右の龍神を祭り觀音の金像を供養したりとありて傳教弘法兩大師の開基天台宗の寺院とし、尾張四觀音の一にして賽人甚だ多く殊に四月五日、七月六日及び寒の入り等には參詣者晝夜群集して非常に賑合へり、此寺は天正十二年長湫合戦の時豊臣秀吉公一夜茲に宿陣せられし場所にして其遺趾尙は存し同年四月十日豊公兵を樂田に引上げんとするや其部將は此寺を燒き拂ひたれど其後更に建

立せられ維新後再び大に頽敗に歸せんとせしが住職信徒の盡力にて近年は又々舊形に復するの機運を迎へたり、因みに此寺より北方斷崖の下庄内川を瞰下し近くは本郡の西南に於ける平野を眺め遙に尾濠の翠巒を望むなぞ尾張有數の名勝を兼ねたる寺院なり。

○密藏院 雄五村(字野田)にありて隣王山樂師寺の稱あり(天台宗延曆寺直末)、開山は慈妙上人にて嘉曆三年に當寺を建立し七堂伽藍を營みしこと寺傳及び其他の古書に存す、此後遠近より上人の徳風を慕ひ日に來りて其法旨を受るもの多く尾張、美濃、三河、信濃、遠近、駿河、飛騨、播磨、肥後、出雲等の十一ヶ國に末寺たる者多く皆當寺の指揮を受け來りしも、中昔の乱世に音信通せず遠國の末寺は其關係断絶せり然れど尾濠兩國の中には尙ほ其末寺たるもの一百餘ヶ寺に及ぶ、又徳川時代の當院の住職は名古屋東照宮の別當職を兼ねるが、常例にて専ら城内尊壽院に住じ、此密藏院には代僧を置き尾張國內僧職中にて威權並ひなき位置を占め居りたるものなり。

○完光寺 水野村(字沓掛)にあり、應夢山と號し建武三年勅諭覺源禪師の開基なり其後星霜を経て二百九十餘年、元和八年五月舊尾張藩主初代義直卿此地に遊獵の折、當寺の最も靈地たるに適するを認められ境内の山林及び土地若干を寄附あり、殊に卿は此幽邃閑潔の境を愛せられ屢々遊覽の事あり、慶安三年義直卿薨去あるや遺命に依りて靈柩を此山内に納め廟壇を建て、其二代目光友卿(瑞龍院殿)の

時代に佛殿方丈等の修補あり寺領を寄せられ寺内の莊殿は他に比類なき程なりし、維新後は寺領を止められたれど今尚は莊殿を保ち義直卿の廟壇等依然として變せず、因みに此寺内に義直卿に殉死したる寺尾土佐守以下數基の石碑あり。

○正眼寺 和多里村(大字三ツ淵)にあり青松山と號し曹洞宗能登總持寺の直末にて維新前は同宗派近國の總録所たり、昔は中嶋郡下津にありて後小松院の御時金剛山傳法寺の廢跡を再興し堂塔伽藍を營みしものなるが、右下津村は時々水潦の害ありしに依り元録二年今の三ツ淵に移轉せり、同寺は慶長以來碩徳相踰て出で薩摩守忠吉卿、亞相義直卿以下歴代の藩侯常に尊信深く同宗に於ては近國に比類なき名刹なり。

○雲興寺 赤津村にあり大龍山と號す曹洞宗にして開山は天鷹祖祐和尚(永平寺七世の住職)應永七年の創建とす、祖祐和尚は永平寺に就職せざる前下津(後に三ツ淵)正眼寺の住職たりし時退隱の志ありて山水幽靜の地を撰み、赤津村字白坂の東に高松山毘沙門堂の古刹ありし地を見立て草庵を營み毘沙門山高松寺と稱へしが、後ち野火の爲め燒失したるに依り瀬戸赤津地方信徒の望みに依り今の地に移りたるものにて徳川時代の初には此寺の勢力正眼寺と拮抗し、慶安の頃には正眼寺との間に非常の紛議を生じ後ち公裁に依りて右雲興寺を正眼寺末と定められしも、尾州に於て同宗派内には依然として一個の勢力

を保ちたる寺院なり。

右の外本郡にて有名なる寺院は大略左の如し。

福殿寺 大草村

大光寺 和爾其村(上條) 大永寺 二條村

石山寺 高間村(瀬古)

洞光院 新居村

圓福寺 不二村(白山) 妙見寺 内津村

高藏寺 玉川村

感應寺 水野村(上水野)

祥靈寺 上品野村 萬徳寺 赤津村

寶泉寺 瀬戸町

玉林寺 小牧町

龍音寺 境村(間々) 小松寺 味岡村

大泉寺 大野村(野口)

○名勝舊跡 本郡は庄内川其中央を流れ東北部は總て山嶽部に屬し山水の秀麗なる其名甚高く隨て他方に開ゆるものあり、又歴史上(并に工業來歴)に就ても特に記すべきもの少からず其要略を左に掲ぐべし。

○玉野川 此川は水源を美濃國土岐郡に發し土岐川の稱あり、同國可兒郡池田村の南東に於て山間に入り濃尾の國境を過ぎて玉野川の稱呼あり(下流は庄内川となる篠木柏井兩庄の間を通せしに因る)、又玉野の方面に於て南東の方より水野川(品野水野の兩村を経て)の本川に合流するあり、大抵東濃土岐郡の水と尾張東北部諸村の水は悉く此川に合す、偕て玉野川は無數の怪石溪水の間に出没し巨巖亦山を擁して地骨を現はすかと疑はれ、老松枝を倒にして危ふくも絶壁に懸り、激湍飛瀑白雪を飛して碧潭畫淨に

清流の浅きに遭ふては裳をかげぐて櫻を洗ふに足るものありて其山水の秀麗なる實に尾張第一の稱あり、殊に此川に於て高岩、天の川、象鼻岩、尼ヶ淵、水冠石、狹戸、土踏まず、羽衣岩、滑岩、屏風岩、明神岩、女夫岩、捨子石、三岩、小屏風岩、座禪岩、狸ヶ岩、飛岩、覗石、化粧水、銚子口、石ヶ洞、間ノ瀬、猿飛、會石、龍ヶ淵、棧敷石、蛇ヶ洞、尼ヶ淵、新虎溪、天狗岩等は最も其名あるものにて此外にも尙ほ百守瀧の如きあり、又其下流には鹿乗ヶ淵、大鼓岩、長持岩、烏帽子岩、狸ヶ瓶、福神岩、龜岩を始め幾多の奇岩怪石頗る多く、又水野川(玉野川)に合流するゆゑ茲に附記すの



東春日井郡玉野村



方には東門ヶ瀧、眼鼻石、石繩(上水野にあり)等あり何れも名勝の中に數へらる、此邊古人の詩歌甚多きも尾張名所圖繪等に委しく掲げあれば茲には記さず、又近時は中央鐵道が高藏寺(玉川村の大字)より玉野川の沿岸に敷設せられて隧道の數は美濃の池田までに十四ヶ所も出來し、或は川、或は山或は隧道と流車の進むに隨て風景頗る其趣を變ずる奇態變幻の光景は車上座して眺め得べく、亦歩行にて此勝景を觀んとせば高藏寺停車場にて下車し何れに行くも僅に一里餘りの間に是等絶妙の奇勝を探り終日の消遊を爲し得らるべし。

○國境の勝地 品野、赤津等の諸村は三



附近鐵道之光景

、美濃の兩國に接し地勢高峻人跡頗る稀なるの土地あれども、此諸村中には極めて有名なる勝地少からず、其名稱地名を掲げば左の如し。

三國嶺 上品野村と美濃國土岐郡鶴里村、三河國西加茂郡高岡村との境界(頂上三個の石あり國境の印とす)にあり海拔二千三百十三尺と稱せらる。

雲見ヶ峠 同村三國嶺の南(約二十町)にありて西加茂郡に境す(海拔二千四百〇八尺)四方の眺望類ひ稀れなり。

龍ヶ淵 赤津村山口川上流(愛知郡山口村を経て矢田川に合す)にあり、兩岸の巖石奇態、水勢激しく逆浪玉を飛ばすの觀を呈す、此所の巖石に文化十年伊藤三橋の詩を彫付たる者あり、左に
(大文字) 龍淵躍龍。龍今何邊。萬古蒼々。但有龍淵。
(小文字) 三橋先生愛龍淵勝景。嘗謂廣居源備曰。不得題詩龍淵余常憾之。無幾先生物故。至今二十餘年。廣居尾頭追先生之志。就岩以八分書題詩。友人蕙樓逸老恩田仲任書其事云。文化十年龍

次癸酉首夏八日。

屏風瀧 同村山口川の支流にて龍淵より北の方を東に入りたる溪流を溯り行けば兩岸の絶壁恰も屏風を建てたるが如く奇岩怪石の間を奔流する水は其上方屏風瀧より來るものなり。

○小牧山 本郡の西境(西春日井郡市之久田に接す)小牧町地内にあり、天正十二年三月豊臣秀吉公將に大軍を率て尾張を攻略せんとするや徳川家康公織田信雄卿を援けて之に對し此小牧山を本營の地と定め同月十六日家康信雄兩將は當山を占領せられたるに依り此役は遂に豊公目的を達する能はざりし要するに當時西軍(豊臣方)犬山城の要地を取り之を策源地として大に爲す所あらんとせしに依り東軍(徳川方)亦之に對する好陣地を求めて尾張北方平野の間に突起する小牧山を得其本營の地と定めたる者にて當時此小牧山なかりせば尾張は到底信雄卿の有にあらざりしのみか徳川公の根據地たる三河遠江亦甚た危かりしと明らかに、此好陣地は全く徳川織田兩家の運命を定めたる根本的地たるに依り、徳川政府の時代となりて後は大に之を重じ平生普通人民には容易に山嶺に登るを許さず、又此山は古來松楡竹など生茂りて最も陣地に適し四時翠の色を變ぜず、別に高峻なるにあらざれど(海拔二百八十尺、五)其絶頂よりは國中は云ふも更らなり遠くは濃信江勢等の諸嶽を望み、殊に小松寺の丘陵(豊臣秀吉の屢々樂田より進みて一時の本營とせし場所)とは其距離僅に三十四町に過ぎず、當時東西の二大英傑が備々一里以内の距離に於て數旬に渉る對陣を爲せし雄偉壯觀の形狀を追想せしむるに足り、尙ほ山上より歴史上所載東西諸部將の陣地及び附近交戦地等歷々之を指點すべく、舊記秀吉が家康に先んせられて此好陣地を占領せざりしを深く悔ひたりとあるは真に然るべく思はるゝの舊蹟なり。

○春日井原 春日井原は昔は味鏡村の北の方(今の東春日井村邊)一圓に茅などの生茂る曠野にて南は勝川に達し勝川原なぞ稱へたる場所もあり、本郡の西南一隅の地は大抵三百年前までは曠野の地多かりしこと知られ、殊に長湫合戦などにも此地は大關係ありし有名な土地なり。

○小野道風出生地 柏井村大字上條にあり日本三筆蹟の隨一と稱せらる、從四位上内藏頭小野道風朝臣は麒麟抄に尾張國上條にて生れ給へりといわり即ち此地のこと、云へり。

○陶祖の遺跡 瀬戸町にあり、本邦に於て陶器なるもの、製造は古來之ありたるに相違なきも其製作は一種の土器にして甚だ幼稚に後堀川帝の御宇貞應年中(今を去ること六百八十年前)に至ても尙ほ(鹿末なる鍋釜壺皿等の器具を作るに過ぎず)釉藥の如きは全く之を用ふるの法を知らざりしが其頃加藤四郎左衛門春慶なる者山城國深草の里に住して刻苦其製法を試みんとするも遂に得る能はず、是に於て恰かも道元禪師入唐するに際し師に隨ひて入唐し六年の長日月を彼土に費し漸く其法を得て安貞二年戊子歸朝し其後各地に遊歴して陶器を燒試むるも其意に應せず、遂に當郡瀬戸に於て始めて適當の良土質を見出し此製作を開きたることは既に人口に膾炙するが故に悉しくは茲に記せず、左の陶祖の碑文(慶應二年禪長庵の山上春慶の墓前に建立)に譲る(此碑實は陶土を以て造り釉藥を用ひざる有名のものなり)

陶祖春慶翁之碑

陶祖姓藤原名景正。稱加藤四郎左衛門。別號春慶。又曰俊慶。追稱曰陶祖。其王父曰橘知真。大和諸輪莊道蔭村人也。知真生元安。元安生陶祖。元安有罪謫備前松等尾。母平氏山城深草人道風之女也。陶祖幼時喜埴埴造土器。恒恨其巧不如殊邦。有往學之志。既長仕大納言久我通親。叙五位諸大夫。遂從通親之第二子僧道元入宋。時適彼嘉定十六年也。留學者凡六年而歸。卸帆於肥後川尻。乃以所齎歸土造小壺三。具於船上。呈副帥北條時賴與道元。後海内傳以爲奇珍。陶祖歸時年廿六。因省父於謫所。遂留陶焉。尋侍於深草。無幾何母沒。乃試陶於京畿及傍近諸州。又試之於本州知多愛知二郡。皆不可遂。來本州山田郡瀬戸村。觀祖母懷之地而奇之。曰地勢向陽山高水清。其土質亦與所齎者無異。遂開業於斯。終身不復他徙云。或曰陶祖祖母得佳土於瀬戸雨池洞。懷之以歸。謂之祖母懷。一曰祖母懷陶祖所以祈瀬戸村神社深川神夢得也。瀬戸村古隸山田郡。今并之春日井郡。蓋上世宜陶地也。按日本後紀延喜式和名鈔朝野群載等書。當時 朝廷徵瓷器於本州。必於斯郡。降及陶祖。亦聞知既往之事跡。故易爲功云。陶祖宅址曰中島。在瀬戸村深川神社東邊田圃中。樹杉一株以爲誌。又其北有稱禪長庵之地。傳陶祖晚年委家事於其男。陶祖於庵。妻於宅地。各自卜築以爲終焉之地。陶祖沒年諸書無所考。墓曰五位塚。在村左古窰。稱馬城地。今其手造把掘者不被遺於本土。但村社能鑣獅子一雙。傳以爲其手造也。亦亡其偏。村民姓藤者皆其裔也。共立其祠曰陶彦社。又名窰神。例祭以三八月十九日。三月歲獅。八月走馬。子藤五郎孫免四郎以下世先業。傳曰九功之德皇可歌。謂之九歌。陶祖有一於此。蓋歌以勸之俾勿壞賊。歌曰

公昔浮海入混茫。天倪何遽認津梁。海若馮夷交護送。蛟龍電電况敢妨。留學暫時技出藍。一朝掛謝言歸航。蓬壺瀛洲取次遇。帆腹果然百尺檣。魚眼射波路萬里。鯨背立國壽靈長。

歸來桑梓共無恙。孝子遠遊自有方。就養照懷彼與此。天涯之適聚幾糧。所在試盡土質性。
檢岨艱難亦備嘗。後到山田古陶郡。山高水清池向陽。樂土世居子孫業。好道夢得祖母藏。
遂令天下後世人。喚陶必以瀬戸郷。九功之德就可歌。利用遺澤偏扶桑。

慶應二年丙寅二月尾張阿部伯孝撰

右の序に尙は當所に於ける染付焼(磁器)製作の起源を記さんに、享和年中(今より百年前)までは此地に於て南京様の染付焼を製作すること能はざりしに、此頃名古屋の藩士津金文左衛門胤臣の工夫にて焼試みたるに未だ十分の成功を得ず是に於て瀬戸の陶工加藤民吉頻りに其工夫を凝し屢々之を試験して遂に其目的を達し時の官府よりも大に此民吉を賞せしが。爾來諸國に向て大に此器物販賣の途を開き今は外國貿易品の一として尾張物産中最も賞美せらるるものとなり、因みに當所には加藤春慶(陶祖)の遺跡として中嶋(宅址)、禰長兼(字名)、比匠屋敷(春慶妻の居住跡)、祖母懐(藤四郎土取跡)、古窟跡(藤四郎窟)、春慶の墓(古五輪)等現存す。

○篠木拍井の兩庄 本郡篠木(古は篠城とも書く)拍井の兩庄は古來歴史上にも其名顯れ殊に長湫合戦の頃は最も世人の注目を惹きたる庄名とす、今之を掲ぐれば篠木の庄は犬山、明知、西尾、和泉、一色内津、下原、久木、大草、下市場、庄名、廻間、神明、白山、關田、出川、名栗、神領、上大留、下大留、足振、高藏寺、玉野、外ノ原、堀ノ内、松本、野口、林村、大泉寺、神屋、上野等三十餘(舊村)の

諸村とし、柏井庄は上條、下條、中切、松河戸等此方面(舊村)五ヶ村なりと云へり、(因みに此兩庄に基き庄内川と名附たる年代詳かならざれど現今の川筋は往昔とは餘程南方へ變移したるものと知らるる)右の外本郡には尙は有名なる土地あり。

岩崎山 岩崎村

二重堀砦跡 味岡村

主恵郷 陶村

小幡城跡 小幡村

○砂防工事

本郡には庄内川を始めとして矢田川、内津川、水野川、上半田町等の諸川多く、殊に維新以來各地山林の濫伐甚だしく隨て水潦の際は土砂を流出せしめ川床を埋め堤防を害し爲めに損害を一般に及ぼすこと敢て數ふべからざるに至りたれば、數年前より大に砂防工事の必要を感じ漸次此方針を取りて之に着手し、尙ほ其地適當の苗樹を植付る等稍々改良の端緒を開きたるの觀あり、現今郡内の諸村に設備(尙ほ今日は一部分づゝなれど)したる面積は左の如きものなり。

志談村大字下志段味

九反歩

陶村大字上末

七反五畝歩

大草村

壹町四反三畝歩

神坂村大字神屋

三反六畝歩

神坂村大字坂下

壹町五畝歩

神坂村大字廻間

六反歩

内津村大字明知

九反八畝歩

内津村大字西尾

壹町一反九畝歩

不二村大字白山

壹反四畝歩

不二村大字庄名

壹反壹畝歩

下原村大字下原 貳 反 步 上志段味村 三 反 步
 瀬戸町 貳町壹反步 味岡村大字本庄 八反八畝步
 玉川村大字外之原 七反二畝步 下品野村大字下品野 貳反七畝步
 八百村大字今村 九町七反步

合計十二ヶ村(十七大字) 反別合計貳拾壹町六反八畝步

○黒川開鑿の事蹟 本郡内に於ける黒川と稱する運河(排水目的を兼ね)を開鑿したるは維新後明治九年より十年に涉り滿一ヶ年の間にあり、庄内川南岸(高間村大字瀬古)に元枳を設け木津用水路を此川中に導きて元枳に入らしめ矢田川に巨繩を作りて川下を潜流せしむる方法とし、木津庄内水路の幹流を通船に利用し南西は名古屋市の堀川に達せしめ、尙ほ庄内井組の各村に對しては此新川筋に放水繩を設けて用悪水を分疏し關係各地の収獲米に甚からざる利益を興へたるものなり。

○銀行諸會社 本郡内に設立したる銀行諸會社の數甚だ多からず、土地狀況の然らしむるものと明治廿七八年以來此地方は比較上起業熱に感せざる傾向ありしが故なるべし、今現在の者を左に掲ぐ。

名	種	資本	金	拂込	金	地名	業	種
株式會社小牧銀行	二十萬圓	九萬五千圓	小牧町	銀行	業	株式會社瀬戸銀行	十萬圓	七萬圓
小牧銀行支店			勝川町	同	上	金城銀行支店		
			勝川町	同	上			

受船株式會社 六千圓 三千圓 味岡村 運漕業 肥米合資會社 一萬六千五百圓 八百村 肥料米穀
 受磁合資會社 一萬圓 瀬戸町 陶磁器 一天合資會社 一萬圓 一萬圓 小牧町 煙草業

○諸製造場 本郡内に設立したる諸製造工場は大略左の如し。

倉地製糸場(生糸) 内津村 堀田製糸場(生糸) 内津村 鈴木製糸場(生糸) 境村 奇陶軒(磁器、川本)瀬戸町	完磁器工場(磁器、加光)瀬戸町 完磁器工場(磁器、加竹)瀬戸町 東磁器工場(磁器、加李)瀬戸町 永誌軒(磁器、加定)瀬戸町	丸 十(磁器、加重)瀬戸町 寶玉 岡(磁器、加仙)瀬戸町 陶玉 岡(磁器、加五)瀬戸町 白雲堂(磁器、加岡)瀬戸町	加藤磁器工場(磁器、春光)瀬戸町 松 濱 岡(磁器、加村)瀬戸町 原泉堂(磁器、高島)瀬戸町 井上磁器工場(井上)瀬戸町	池勝工場(磁器、加勝)瀬戸町 池牛工場(磁器、加半)瀬戸町 還情 岡(磁器、加紋)瀬戸町 加藤磁器工場(加節)瀬戸町	石 華 岡(磁器、加岡)瀬戸町 山 岡 岡(磁器、加岡)瀬戸町 水 角 岡(磁器、水野)瀬戸町 加藤磁器工場(加、節助)瀬戸町	高島磁器工場(高島係)瀬戸町 加藤磁器工場(加藤)瀬戸町 水野磁器工場(水造)瀬戸町 加藤磁器工場(加藤外)瀬戸町	加藤磁器工場(加)瀬戸町 精陶 岡(磁器、高懸)瀬戸町 千 幸 岡(磁器、加四)瀬戸町 玉川煉瓦製造工場(小笠原)玉川村	柴田酒製造所(蒸溜力電流力水力)下品野村
--	---	---	--	--	---	---	--	----------------------

○度量衡販賣 本郡の住民は多く名古屋市に於て需用を辨するが故に漸く度量衡販賣所は小牧町(岸田伊八郎)の一戸あるのみ。

○物産 本郡の主要なる物産は大抵農産物にあれど、夫の有名なる工業品陶磁器(瀬戸赤津方面)の産出あり、又鑛業品も前途有望の地位に立てり、之を左に掲ぐ。

○農産物 米は本郡の産最も良好の評あり(名古屋にて小牧米の良評は世人の熟知する所)、蓋し中央部并に北及び東北部等第四期層(埴質壤土)及び第三期古層に屬する方面は多く品質良好なるものを收穫

するが故なるべし、作付反別は水田陸稻を併せて大畧六千九町歩餘此收穫は大畧九萬七千餘石（年柄に依り不同）と聞ゆ、麥は大麥裸麥小麥を併せて作付反別（田畑）大畧五千六百八十町餘此收穫三種の合計凡ろ五萬石に及ぶ（是も亦良質の評あり）、其他大豆、小豆、粟、稗、黍、蕎麥、甘藷、馬鈴薯、實綿（品質頗る優等）、葉藍、葉煙草（産額の多量は尾張第一位）、菜種（品質良好）及び各種菜蔬等の普通農産物の外、茶（茶畑九町餘）、養蠶（桑畑四百六十五町歩餘）などにして殊に養蠶は近來頗る改良の實を擧げたる模様あり、最近の調査に依れば本郡同業の成績は左の如し。

種類	飼養戸數	掃立枚數	繭收穫	玉繭同上	出級繭同上	屑繭同上	計
春蠶	五、一五〇	二、八八六	三、〇一七	三〇三	四	二七九	三、六五〇
夏蠶	三、三三九	一、一八二	七五〇	四〇	一	三五	九七五
秋蠶	一、二五四	七三三	七四	六	二五	三〇	八四七
三期收穫合計五千四百八十三戸		飼養戸數合計八千五百五十三戸（但三期を通じて飼養する者を合算す）					

右の外蠶種の産出七千四百五十餘枚に達す、又砂糖の製造戸數百二十餘戸あり製産三千四百四十餘貫（黒砂糖大部分を占む）に達し、次に家鶏及び産卵は頗る多數にて家鶏三萬七千五百餘羽（時に不同あり）産

卵數は大略二百四十六萬三千五百餘顆に及べり。

因みに本郡の地質を附記せんに西部小牧以西及び庄内川沿岸地方は壤土第四紀新層（小牧以西は木曾、其他は庄内川の河成沖積層）にして、中央部小牧より鳥井松に至り陶村より味碗に至るは第四紀古層壤質土とし、印場方面は第四紀古層壤土内津の南西及び外ノ原、瀬戸、赤津、水野附近、品野方面は第三紀古層に屬し、内津山、玉野、香掛等は秩父古層（下部御荷鉢層）に屬するものと知るべし。

○工業品 郡内に於て工業品の第一位を占むるは陶磁器とす、製造戸數は凡ろ五百二十餘戸の多さに達し、各種産數六百六十二、職工無慮二千八百七十餘人にして此製産價格は七十八萬餘圓に及べり、之に次ぐは生糸にして其産額は一ヶ年生糸一千六百六十餘貫目以下雜種四百十餘貫目とす其他清酒釀造は五千九百餘石（價格十七萬餘圓）、醬油釀造は六百七十餘石（價格一萬圓）にて、織物は絹織物一萬四千餘圓、綿織物絹織物二萬二千餘圓の産額なり。

○水産物 郡内に庄内川、矢田川其他溪流少からざるも漁獲物甚少く殆ど記すべき程のものを見ず。

○鑛業品 各村別に鑛業品の見るべきものなきも愛知郡産と同種の岩木（亞炭）に至ては其鑛脈頗る豊富なりとの評あり、現に試掘の區域は五十九萬餘坪に達し居り將來尙は六百餘萬坪の鑛區を得べき見込みありと云ふ。

○運輸と交通

本郡には河川の運輸に適するもの殆ど絶無にて只た木津用水の一線は多少運輸上の効用を有すと雖も現今に於ては未だ全郡の利益を擧るに至らず、又鐵道は大抵郡の中央を横斷したるの實あれども停車場は漸く勝川、高藏寺に設けられたるに過ぎず、聯絡里道の不完全なると東部及び西部の工産物農産品の運送には容易に其用を爲さざるの感あり、(曾て犬山線、瀬戸線鐵道の計畫あるは之れが爲めなり)、然れども鐵道開通以前と今日とは頗る其形勢を一變せんとするのみならず、名古屋多治見間及び名古屋飯田(信州)間の運輸上には非常の變化を來さんとし、其貨物の大部分が此郡内を馬車にて通過したるもの今は鐵道に托して運送せらるべき時代とはなれり、又鐵道以外の交通に就き重要な道路を記せんに西に小牧街道あり、分岐して一は犬山に達し(此線美濃の鶴沼に通し西は加納岐阜に、北は關、上有知、八幡に行くべし)一は善師野より美濃の今渡に出て中仙道に合す、又中央には内津街道(美濃の多治見に通し大井附近にて中仙道に合す下街道と稱す)あり、南東には瀬戸街道あり、此街道は其東北方に於て數線に分岐す(他郡に關係すれども起点地なれば茲に詳説す)其道筋左の如し。

(一)瀬戸町より下品野、上品野を経て美濃の土岐郡鶴里村(字柿野)に入り夫より付木、大川、水上(以下惠那郡)、猿爪、奈良見の諸村を通して明知に達し、夫より東して矢作川の上流に出て三國山附近の險路を越へて信濃の根羽に至り信濃下伊那郡飯田に行くもの即ち中馬街道とす。

(二)瀬戸町より赤津、高岡村(西加茂郡)大字折平、木瀬(粟母より來る縣道に會す)、豊原村大字北條平清原村、福原村大字東市野々を経て美濃の惠那郡に入り太田村(明知より二十町手前)にて中馬街道に合す。

(三)瀬戸町より西加茂郡豊原村の北條平に達する迄は(第二)に同じく、是より同郡本城村大字大阪にて第二線と分岐し、同村西細田を経て惠那郡に入り三濃村の手前字野中下中切にて足助より來る縣道に會し同村川渡にて再び分岐し、一は明知川に沿ひ明知に出で岩村に通じ、一は明知に入らずして東方矢作川の上流右岸地(左岸は東加茂郡介木、生駒の諸村)を通して三濃信の境なる三國山の手前にて中馬街道に合し根羽に達す、(以上は何れも本縣及び岐阜縣の縣道なり)。

右小牧街道、内津街道(神坂村以南)、瀬戸街道(瀬戸以西)は大抵道路平坦なれども、其他は多く山嶽地に屬す、然れども過年來屢々道路改修の舉ありて荷馬車荷車を通するに至り、交通昔日に比して大に便利となれり、因みに本郡内の各種車輛は乘馬車四輛、荷馬車七百七十餘輛、人力車二百十餘輛、荷車三千九百五十餘輛にして何れも運輸交通の機關に充られつゝあり。

○軍用旅舎 當郡内に於ける軍用旅舎は左の如し。

勝川町	米屋	勝川町	和泉屋	神坂村(阪下)	萬屋	内津村(内津)	中村屋
瀬戸町	米屋	瀬戸町	旭屋	小牧町(小牧)	海老屋	小牧町(小牧)	吉田屋

○西春日井郡

本郡は東及び東北は東春日井郡に接し、北は丹羽郡に、西北は中嶋郡に、西南は海東郡に隣りし、南一帯は愛知郡に連る、維新前迄は東西の両春日井郡を一部として單に春日井郡と稱せり(住昔の稱呼は東春日井郡の部に記せり)、面積は甚だ小にして僅に五方里、五三に過ぎざるも人口は比較的によく五萬九千一百八十餘人にして一方里の住民一萬〇七百餘に當れり、地形は一般に平坦にして産業は大抵農を以て主眼とし商工之に次ぐ、郡内に清須城の古趾を始め舊蹟少からず、東海鐵道は清須に停車場を設けられ其場所郡の西方に偏在するも大跡の地積狭きが故に此停車場設置以來郡内の發達を誘起したるは疑ひもなく、殊に南東は名古屋市に接近し同市の發々たる發達に伴ひ一般に生産力を増加せしは亦明白の事實なり。

因みに本郡内に五千以上の人口を有するは西枇杷嶋町(人口五千百餘人)の一箇所なれども枇杷嶋町、新川町、金城村、清水町、六郷村(新川町を除く)の外、名古屋市に接す)及び清洲町、尾張村の如きは特に著名とし外に三十二ヶ村を有せり。

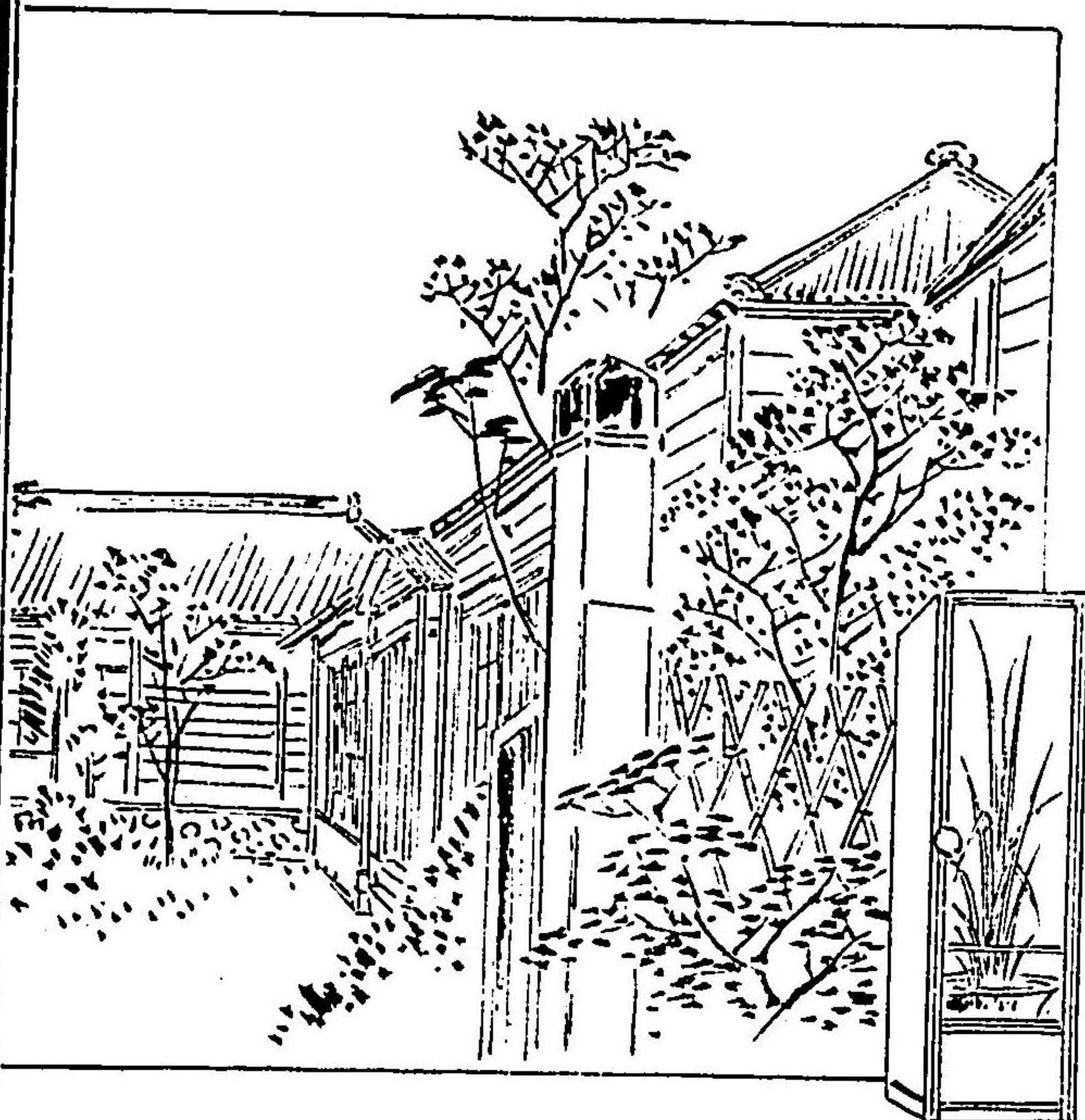
○諸官衙 西春日井郡役所、枇杷嶋警察署、枇杷嶋稅務署、名古屋區裁判所出張所、枇杷嶋郵便電信

局は西枇杷嶋町にあり、又清洲町に郵便局を置かる(名古屋市の接續地及び其附近は大抵名古屋局より集配す)

○愛知縣農事試驗場 寺野村(大字寺野)にあり縣立にして目下技師二名、技手五名、書記二名を職員とし(毎年の經費は大畧一萬圓餘)、本場附屬の土地は田壹町貳反三畝八歩、畑壹町八反十九歩、宅地壹反八畝廿六歩、殊に建物の内事務所(八十三坪)、昆蟲室(十七坪)は本年の増築に係り昆蟲室の如きは未だ他の地方に其比類を見ざるものなり、又現在の試験作物は水稻、陸稻、印度藍、大根等とす、因みに茲に本場の濫賜を記すること左の如し。

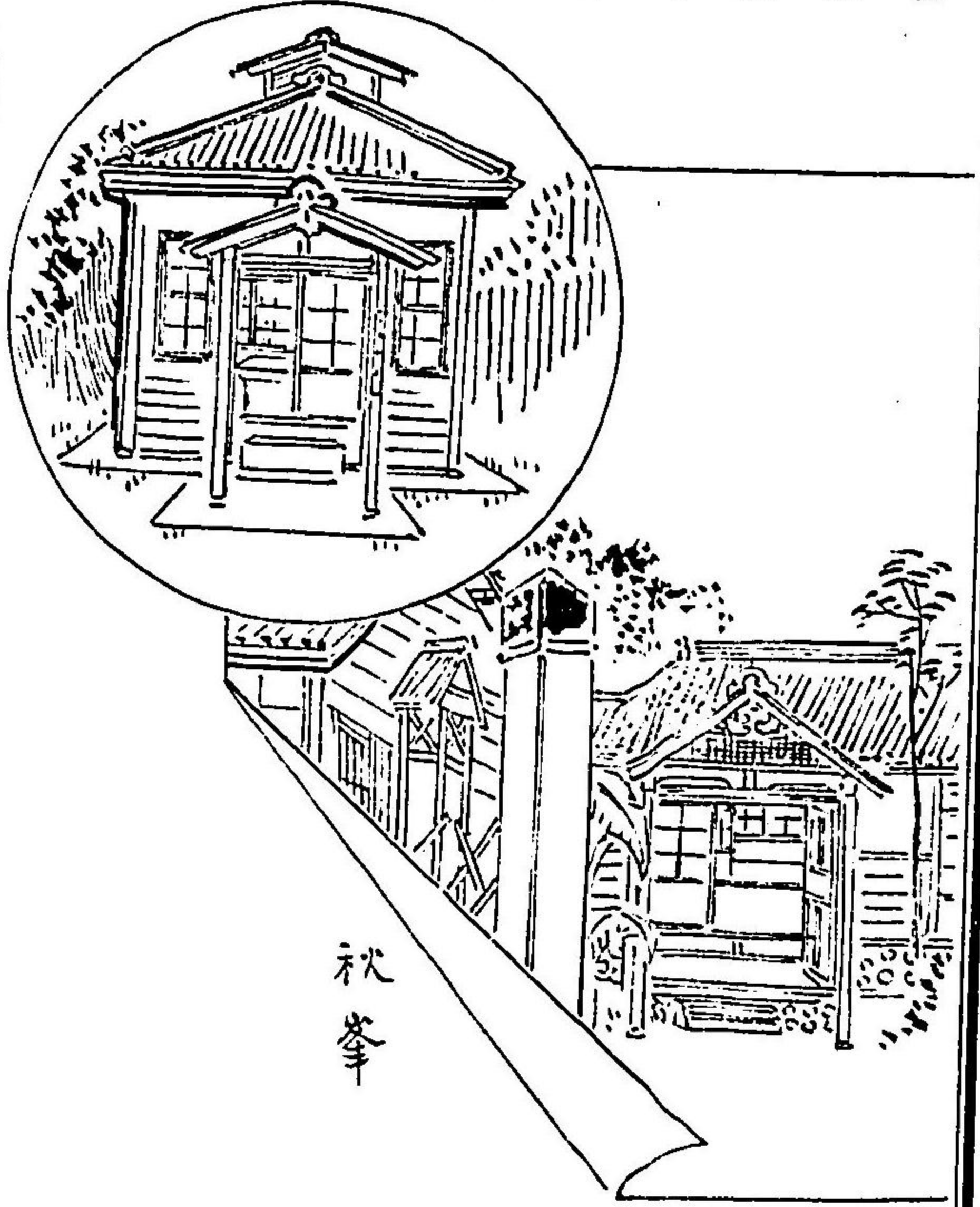
明治七年十一月勸業樓頭より勸業寮栽培の英米兩國の果樹一手限り試作にては時日を要し且つ充分の試験を遂る能はざるに依り各地方へ兩三株宛分賦し試培せしめんとて本縣へも其照會あり、時の縣令は之に基き(種苗)桃華果梨、無花果杏李(二百株の種子)、葡萄(百本)、ヌグリ(五本)、燕麥(二百株の種子)、豌豆(同上)、莖菜(同上)、蕃茄(三百株の種子)、大茄(二百株の種子)及び東京青山の官園(開拓使)より林檎、葡萄等を取寄せらる、偕て此取寄以前より本縣にては庶務課勸業係之れが經理の任に當り、當時の植物家たる戸田壽昌に此栽培の事を托することとなり廣井倉庫の明き地(二反五畝歩)を劃し前記の種苗を培養せしめ耕作人は大抵慈役夫を使用す、是明治八年のことなり、同年本縣

は更に勸業寮に請ふて米國種大小麥を取寄せ試培す、其後右倉庫の試作地は地味乾燥、空氣不流通にして甚適當ならざるに依り同年十一月公文を以て一千五百坪乃至三千坪の試作地買上げの告示を發し西二葉町天野廣景所有地一町五反二畝十一歩を買上げ愛知縣栽培所と稱し(現今の農事試驗場の地)、同九年三月戸田壽昌は同栽培所世話方を命ぜらる、明治十年二月桑園を東外堀町一丁目一番地(三千三百九十八坪)に設け十一年十一月更に同所に三千五百十八坪六合五夕の土地を擴張し専ら奥州信州江州等より良桑苗を購入して栽培す其方法は重みに上州の方法に倣ひ縣下に桑園の模範を示さんとする



愛知縣農事

るにあり、同十五年四月又千五百十三坪八合一勺四才の土地を増加し同十七年九月には名古屋始審裁判所へ此内三百六十八坪の土地を譲渡せり、是より先き本縣養蠶場は既に廢止(明治十四年)せられ此桑園は同じく廢止に歸せしも名古屋市の有志者祖父江重兵衛之を借り下げ(明治十五年七月)養蠶の傳習を爲す、十六年六月に至り祖父江は之を本縣に返納せしに依り、爾來縣下養蠶保護の目的を以て専ら良桑苗を栽培分賦するの手筈を取り經費を地方費より支辨する事となる、又名古屋市白壁町の支場は明治十年四月栽培所支園を此處に設け(七百五十四坪)勸業寮より分賦したる印度產皇蘆茶を栽培せり、是即ち現今の茶園にして農事試驗場白壁町支場とし、又會て植



秋茶

試驗場

物支園を南久屋町(四百六十六坪)に設けたることあり専ら内外各種樹果及び用材等の苗木を栽培し衆庶の縦覧に供せしことありしも明治十五年に此土地は全部大蔵省租税局へ譲渡さる、又名古屋栽培所の改稱せられたる來歴は最初は名古屋裁判所と接近し居りて其名稱甚だ紛らしきに就き植物園と改めしも更に明治廿六年四月に愛知縣農事試験場と改稱せられたるなり。

○諸學校 本郡に於ける諸學校は高等小學三校(男生徒八百五十六人、女生徒二百八十人)、尋常小學三十四校(男生徒二千六百〇五人、女生徒千九百二十二)を有し都合三十七校を置けり。

○神社 郡内に鎮座せられたる各神社亦甚多く一々之を掲る能はざるも其重なる各社を舉れば大畧左の如しと知るべし。

○多奈波太神社 金城村(大字因幡)にあり、延喜式に山田郡多奈波太神社とあるは此社にて俗に七夕の森と稱へ居れり。

○綿神社 金城村(大字西志賀)にあり、式内の神社にて本國帳に從三位綿天神とあり、此邊昔は入海にて其岸にあり恐らくは海神を祭りたる神社ならんと云ひ、又此社の別社に兒宮と云ふあり陰曆三月十四日は參詣人群集す。

○伊奴神社 庄内村大字稻生にあり、中古には三熊野十二所權現と稱せしも全く延喜式に伊奴神社(山

田郡の部)尾張神名帳に從三位伊奴天神とあるは此社にて祭神は大歳神の妻伊奴媛なるべしと云へり。

○羊神社 萩野村大字辻村にあり、延喜式に山田郡羊神社とあるは此社にて中世神明社と稱し來れり此村を辻と呼びしはひつじの首字がいつの頃にか省かれたるものならんと云ふ。

○味鏡村 味鏡村にあり、式内にて祭神は大日靈尊、日本武尊、建角見命、天兒屋根命、武甕槌命、譽田天皇の六柱なり。

○大井神社 如意村(大字如意)にあり、式内の神社にて六軀の神躰(男躰三、女躰三)あり社説に依れば筒男の神、海童神三所とも云ふ此社の西に若宮と云ふありて是にも男女二軀の神形あり神功皇后、應神天皇の二柱と云ひ頗る由緒ありと思はるゝ神社なり。

○大乃伎神社 大野木村にあり、六所明神と稱し式内にして本郡内有名の古社とす末社數多あり昔は菩提樹の長大なるありて當社鎮座の久遠なるを証するなを舊記に見ゆ。

○訓原神社 訓原村(大字井瀬木)にあり、式内にて本國神名帳に從三位訓原天神とあるは此社にて祭神は尾治佐速連の子栗原連なるべしと云ふ、明治二十二年各郡にて小村合併の折此村は當神社の名を取り訓原村と名附たり。

○物部神社 豊場村にあり、式内の神社にて境内廣く末社多し殊に昔は此社境内に神木として松の大樹

ありしと云ひ天正十二年豊太閤が長湫の役手後れとなり龍泉寺より此處に立寄り軍士を指揮せられたる地なりと云ふ者あり。

○多氣神社 多氣村にあり、式内にて、尾張神名帳に從三位多氣天神とあるは此社とし後世熊野社と稱せしことあり祭神は伊弉册尊なり昔は此村を大氣と書さしが後此神社の名に基き多氣村と書くに至れりと云ふ。

○尾張神社 尾張村(大字小針)にあり、延喜式に山田郡尾張神社、尾張神名帳に從三位尾張天神とあるは此社にて尾張氏の祖神天香語山命と大己貴命を祭る此地は尾張國號の起れりと云ふ舊地にして此社も昔は殊に大社なりしこと古記に存し政所の舊地なども残れり。

○中島宮 同所御園にあり、御園神明と稱す天照皇大神、天手力雄命、栲幡千千姬命を配祀せり垂仁天皇の御宇皇女倭姫命天照皇大神を負はせ給ひて諸國を巡行し給ひける時三ヶ月の間尾張國中島の宮に居給ひとし云ふは此地なり。

○星大明神社 上小田井村にあり、祭神は大己貴命、天香々脊男神、相殿に牽牛織女を祭る勸請の年月詳かならず毎年七月七日に七夕祭の執行あり。

○牛頭天王社 清須町五條橋の西北なる川岸にあり、當社勸請の年月詳かならず元清須の四天王とて

祭りし社なるよし言ひ傳ふ、例年六月十四日の祭禮は實に奇觀なり。

○山王權現社 同所本町の東の方にあり、寶龜二年當國に惡疫流行せし時此地に素戔嗚尊及び大己貴命を祀りて其災を拂ひ、又大同二年橘逸勢朝臣此地に神皇產靈尊、國狹穗尊、天御中主尊、正哉吾勝尊を祭りしよし社傳に言へり。

○上島神明社 同所神明町の西裏にあり、社傳に垂仁天皇十三年鎮座とありて天照皇太神、國常立尊の二座を祀れり元古城廓内の地にありしを永和元年斯波義重當城築造の時今の所に移したるなりとぞ。

○佛閣 又郡内にある有名の寺院佛閣は左の如し。
○總見院 清須町北市場にあり臨濟宗京都妙心寺末なり、此地は名古屋總見寺の舊地にて頽廢久しかりしを正保年中岡山和尚潘祖義直卿に請ふて其地を賜りし隱居所とす、當時堂宇の造營ありて總見院の號を附せられしなり。

○堀江觀音堂 西堀江村にあり當國三十三觀音の一所にして淨土宗名古屋阿彌陀寺に屬し其名甚高し本尊十一面觀音は大和國長谷寺本尊と同本同作なりと云ふ。

○願王寺 中小田井村にあり、(天台宗)淳和天皇の天長六年疫癘流行の時澄純法師此地に來り病者の爲に法を修して悉く之を平癒せしめ依て當寺を建立す本尊藥師如來は慈覺大師の作なりと傳ふ。

○東雲寺 同村にあり、(隆濟宗)明應元年當所の城主織田丹波守常寛の開基にて開山は大猷慈濟禪師なり。

○圓福寺 庄内村大字(新福寺)にあり、高田宗伊勢の一身田專修寺末なり、當寺は慈覺大師の草創にて天台宗なりしを嘉禎元年四月親鸞上人東國より歸洛の時當寺に逗留教誨せられしかば住僧慶順坊歸依して弟子となりしより今の宗に改む。

○平田寺 九之坪村(大字九之坪)にあり、曹洞宗赤津雲興寺末なり當寺は平田村の領主平田和泉守香火の道場にして元天台宗なりしが慶長九年快岩和尚再興し其師居妻和尚を中興の開祖とし今の宗に改む
○常安寺 豊坊村にあり、曹洞宗熱田圓通寺末なり大永年中當地の領主溝口富之助之を再興し田地を寄附せり本尊釋迦、阿難、迦葉の三靈像は京都嵯峨の釋迦と同木同作なりとて有名なり。

○新福寺 稻生山と號し庄内村大字眞福寺にあり、(天台宗)本尊藥師及び日光月光は共に行基菩薩の作なりと傳ふ、境内に古五輪塔あり其中に應仁元年などの文字あり此寺古は一山十二坊を有する大伽藍なりしと云ふ。

○西方寺 西枇杷嶋町大字下小田井にあり、(眞宗)昔は天台宗なりしに中興開基覺澄の時親鸞上人に歸依し三河より此寺に迎へて子弟の約を結ひたるより今の宗旨となり上人の眞字九字名號運如上人筆の

光明品などを藏し有名の寺院なり。

○天永寺 味鏡村にあり(眞言宗)、文明十二年の縁起に鳥羽天皇の御宇草創とあり一時は勅願所として七堂十二區の僧坊を有する大寺なりしが五百年以來兵亂の爲めに頽敗せしを天正年中再建し其後稍々寺觀を回復せしと云ふ。

○長母寺 六郷村大字矢田木ヶ崎にあり、靈鷲山と號す隆濟宗京都東福寺の直末たり、此寺は高倉帝の治承三年(七百二十二年)山田次郎重忠なる者其母の菩提の爲めに建立したるものにて觀勝法師を以て開山とす、昔は天台の道場にて大伽藍なりしも年を経て頽敗せしに弘長三年(六百三十八年前)無住大圓國師當山に來住せし時より今の宗派となる、又國師は此寺に來住せられて四十年間の久しき常に衆生の濟度に怠りなく國師入定の後も堂舎僧坊益々繁榮し足利織田の兩家よりは寺領の寄附などもありしが豊大閔の時代に寺領を沒收せられ坊舎も亦兵火に罹りて大に頽敗に及びしを名古屋政秀寺の開山澤彦和尚此處に來りて再興せり、其後又々中古一時頽破せしが僧是鑑と云ふ者之を歎き大に修復を加へ稍々舊貫に復せりと云ふ、又當山は明和以前には矢田川其門前を流れしに明和四年(百三十四年前)瀬戸赤津方面の大洪水にて矢田川非常に暴漲し長母寺山内の稍々間所を衝て一條の川床に化せしめ遂に矢田川の水は此寺の北を流るゝに至り門前は全く平沙の地と變じ今は畑地となる因みに當寺には無住國師の影堂を

始め寺寶甚だ多く有名なる唐躑躅(此山内の一區域には春季何れの樹木にも檜の芽を生ずとの説あり)、等其人口に喰矣するもの少からず。

○松元院 九之坪村にあり月峰山と號す曹洞宗なり、永録の頃住僧進歌を好みたる人にて紹己が富士見道記にも此寺に滯留せしことを記し「蜀魂聲かう渡す門田かな」と詠せしは此寺にてのことなり。

○清音寺 枇杷島町にあり曹洞宗松峯山と號す、縁起に依れば本尊藥師如來は太政大臣師長公の守本尊にして蚊祭藥師と稱へ弘法大師の自作なり、公は横江氏の女が公を愛慕して入水したるを聞き悲歎の餘り菩提の爲めに此寺を營み清音寺と名附られしとあり、天台宗の大伽藍なりしが、享録の火災と其後兩度の水火災に遭ひ大に頽破せしを正眼寺八世の宣曼曼周和尚當寺を中興し今の曹洞宗に改む、此寺に師長公の位牌、師長公畫像一幅(建久の頃の古畫なりしを田中訥言摸寫せしもの)及び白菊の琵琶の圖一幅(是も古畫なりしを若井正齋摸寫せしもの)等を藏し有名の寺院なり。

○名勝舊蹟 郡内には名勝甚乏しきも舊蹟と云ふべきものは頗る多し左に之を記す。

○清須 郡の西南端にあり名古屋市を距ること凡る二里半、往時は今の熱田町よりも稍々大なる規模を有し(天正の頃は人口二萬五千内外なりしとの説あり)斯波、織田、豊臣(秀次)、福嶋の四家交々此處に居り清須府(尾張の首府)と稱して市街頗る繁昌せしが、慶長年間徳川家康公其子忠吉卿(薩摩守)を此

地に封じ續て又義直卿を封するに至り其十五年に府城を名古屋に移されしに依り漸次此地は衰微に趨きたれど、尙ほ近畿中國西國筋より中仙道美濃路を経て東海道熱田に達する宿驛の一として相應に賑合ひしが、維新後頗る衰凋を來して殆ど回復の望みなきかと評せらるゝ程なりしも、明治二十三年鐵道停車場を此地に置かれたるにぞ稍々形勢を改めて今は挽回の氣運を迎へんとせり、又清須の古城趾は此町の東南鐵道線路を隔て、五條川に沿へる處にあり應永年間斯波義重の築く所なり、今日僅に一堆の小丘と數株の老松とを存するのみにて斷碑語らず往事茫々たり(當町に昔の市街地の稱呼今に存在する者甚多きも略して記さず)。

鷺鴨や常に雨降る城の松

士 朝

○五條橋 清洲町五條川に架したる街道の板橋なり、昔は城廓の大手門にありし故御城橋といひしを廢城の後今の文字に改めたりとも云ふ、又五條川は稚川(上流の稱呼)の事なり此川に魚鱉多し。

○御園 清洲町樹木屋敷の北にあり、昔伊勢太神宮の御神領の地にして神風抄に尾張國清須御園草部御厨柿御園など出で元御園も御厨のありし地なり。

○朝日殿宅趾 清須より程遠からぬ朝日村(朝田村の大字)にあり今は民居となる、太閤の正室高臺寺政所の母公の出生地なり母公は朝日殿と稱す朝日は尾張國春日井郡の地名にて清須の東にあり云々と或

る古書に見ゆたり。

○琵琶塚 西枇杷島町大字小場塚にあり、治承三年師長公を懇慕し身を水中に投じて空しく消ゆ果てたる横江氏の女の墓所なり、星霜幾年塚荒れて其形を失し寂寥たる森林人をしてうろくに哀れを催さしむるの故跡なり(因みに此附近に琵琶池とて横江氏の女入水の遺跡あり)。

○平手政秀宅址 金城村大字西志賀にあり今は城の土居と云ふ、信長公を諫めて腹掻切りたる平手政秀の忠肝義膽は世人のよく知る所なれば委しくは記さず。

○枇杷島(井に大橋) 庄内川(大橋小橋の間)の川中に南北數町の小島あり(郡役所等所在地にして近年征清記念碑の建立あり)、是或は枇杷嶋名稱の起原地たるべきかと云ふ者あれど今は此邊一帶(川の東西共)に枇杷嶋の稱あり、又一説に此川も往昔とは其位置を變せしこと疑ひなく舊時の名に依りて枇杷嶋と稱せらるゝも今の川中の一嶋が此名稱(嶋と云ふ意義に就て)の起原地にはあらざるべく、恐らくは往昔此附近に之に類する箇所ありしならんとも云ふ、又現今の枇杷嶋橋は元和八年尾張の藩祖義直卿の特命に依りて始めて茲に巨大なる橋梁を架す、大橋長さ七十二間、小橋長さ二十七間悉く檜材を用ひ國中第一の大橋にして維新前までは荷車の通行を禁止し橋上を渡るは人馬に限られありし。

○土器野 西枇杷嶋町の西新川町の内にあり、土器野新田と云ふ往古は土器を作りて調進せし場所なりと云ひ傳へ田圃の中より時々古き土器を掘出すことありしと云ふ、因みに徳川時代となりて寛文五年に舊藩の仕置場(刑場)を名古屋(奥橋町築國寺邊)より此地に移し二百餘年間此土器野の刑場にて重刑に處せられたる者其數幾百千人なるを知らず。

○新川開鑿の事蹟 尾張各地に治水上の事蹟甚だ多く本郡にも亦著名なるものあり即ち新川の開鑿是なり、今簡短に其要略を記せんに庄内川矢田川(庄内村大字稻生にて合流)は共に尾張國中の大河にして一旦洪水の暴漲するや往時沿岸各地の危険損害は敢て云ふを俟たず、殊に明和四年七月非常の強雨あり春日井愛知兩郡の東境に接する猿投山方面の山谷は一時に大洪水を漲らし崩壊數十ヶ所に及び此末流なる矢田川は爲めに全川の堤防を亡失せしめ(長母寺の前後川筋變遷の項參看)たる程にて、同時に庄内川筋も亦暴漲し沿岸地方家屋の流失人畜の損害は敢て數ふべからず、其後洪水の出砂の爲めに二川の河床を埋めたること夥しく水災屢々到り安永八年八月(明和四年より十三年目、今を去ること百二十二年前)水潦復到り、沿岸の災害再び非常なりしより時の藩侯(源明侯)直ちに自ら勅を命じて此地方を巡視し、續て此川筋治水の必要を認め、側用人人見彌右衛門、勘定奉行水野千之右衛門に命じて其設計を講せしめらる、茲に於て奉行水野千之右衛門は晝夜考案を廻らし屢々實地に就て測量を遂げ本郡大野木(北岸は比良村)に於て堤防(右岸)長さ四十間を其半腹迄切り下げ之に洗堰(大なる石籠を數百重ねて此以下の

外なるべしと云ふ。

因みに本郡の東部(東春日井郡に接する方面)には聊か埴質壤土(第四紀古層)及び砂質壤土(同上)あれど西部(殆ど全郡)は皆壤土(第四紀新層)にして南東方向は庄内川、北西方向は木曾川の河成沖積層たること勿論なり。

○工業品 本郡に於ける工業品は生糸第一位を占め居れり、蓋し三井製糸所の如き大工場あるが爲めなるべく其製出額は一ヶ年二千八百三十貫目に達し外に熨斗糸以下凡ろ三百貫目に及ぶ、其他は製粉、燐寸、茶種及び實綿油、酒、醬油、織物(絹綿交織、綿織物)、蠟表、駄菓子等を重なる製品とするもの如し。

(編者曰く本郡には水産物及び鑛業品として別に記すべきのなく依て此二項を省く)

○運輸と交通 郡内の道路は總て平坦なるが上に大抵橋梁の完全なるもの多く、只稍中央部なる庄内村及萩野村方面と其對岸なる上小田井、大野木の諸村間に於ける庄内川の橋梁不完全なるが爲め多少不便を感ずることあるも、其東西に至便の道路橋梁を有するが故に其不便一小部分に過ぎず、又道路は郡の西境に美濃國に達する大道を有し岐阜方面及び起町方面等に通じ、又西方に八神街道(明治廿年十一月新道竣工長さ八千六百七十六間)ありて祖父江に達す、又東は清水町より犬山小牧方面に、六郷村よ

り内津方面瀬戸方面に通ずる數條の街道を有し、中部には岩倉街道あり、庄内川長堤は常に通路に充用せられ運輸交通は大抵自由とす、殊に清洲に鐵道停車場を設けられあるが故に遠地との間に於ける交通并に運輸も亦頗る便宜あり、因みに本郡に於ける各種車輛は乗馬車一輛、荷馬車四十餘輛、人力車二百九十輛、荷車三千二百二十餘輛にして何れも運輸と交通の用に供せらるゝものなり。

○軍用旅舎 郡内にて軍用旅舎と指定せられたるは僅に清洲町(美濃屋)壹戸とす、要するに名古屋市に接近し別に旅舎の多數を要せざるべし、郡内地域狭く之に充つべき旅舎乏しきに因るなるべし。

○丹 羽 郡

本郡は尾張の北部に位し東は東春日井郡に連り南西は西春日井郡、西は中嶋葉栗の兩郡に接し北は美濃國各務、加茂、可兒の三郡に隣りし國境に木曾の巨川を有す、面積九方里七四にして人口八萬四千餘を算す、地勢は東北は東春日井郡及び美濃の可兒郡に於ける山嶽部に連り本宮山尾張富士などの山嶽を有するも西南一帶の地は大抵平坦の地たり、殊に本郡は古來多く治水上の事蹟を有し近世の施設亦記すべきもの少からず、産業は南西にありては大抵農を以て主要と爲すも北方木曾川沿岸地方にありては稍々其趣を變し工業亦頗る盛なり、郡内には未だ鐵道の通ずるものなかも木曾川水運の利便を北方に有する

ものありて將來の發達は尙ほ今日よりも一層著しきものあらん。

因みに本郡に於て人口五千以上を有する市邑は犬山町の一箇所なれども、布袋、岩倉、古知野の諸町及び樂田、羽黒、善師野、小口の諸村の如きは特に有名の町村とし其他に尙ほ三十箇村を有せり。

○諸官衙 丹羽郡役所、布袋警察署、小折稅務署、一宮區裁判所布袋出張所は布袋町にあり、又警察分署、區裁判所(一宮)出張所を犬山町に設け、布袋野、犬山の二箇所に郵便電信局を、樂田、岩倉の二箇所に郵便局を置けり。

○諸學校 郡内の諸學校は都合四十六校にして高等小學六校(男生徒千二百五十一人、女生徒二百七十九人)、尋常小學四十校(男生徒三千八百八十七人、女生徒二千三百八十三人)を有す。

○神社 本郡にも亦神社の最も其名高きもの少からず其大略を左に記せん。

○大縣神社 二の宮村にあり縣社にして俗に二の宮大明神と稱す延喜式に大縣神社と見ゆ本國帳に正一位大縣大神と記せり、垂仁天皇廿七年鎮座、天武天皇朱鳥元年再建、清和天皇貞觀元年修理あり、其後永正元年回録に權り鳥有となりしを同十五年織田久長再建し稍々舊觀に復しぬ、新宮と稱して諸人の崇敬厚き神社なり。

○本宮山(二の宮) 大縣神社の東北に當りて眞神山、眞靈山、二宮山といふ(海拔九百六十五尺)二の

宮の本宮を奉祀せるが故に此名あり、當山は本州第一の高峰にして其形富士の如し俗に之を呼んで大富士と稱す二宮村の地内なり。

○尾張富士(淺間社) 富士村にあり本宮山に對して俗に小富士ともいへり(海拔九百十尺)登臨すれば遠く駿河の富士を眺望し近く入鹿の大池を瞰下し尾三濃信の連山一眸に映じて風光絶佳なり、口碑に曰く上古近江の土を駿河に運びて湖と富士山とを造り給ひける時擔夫の神此地にて一簣を覆し給ひしが則ち此山となりしものにて彼駿河の富士と同質の土石なりと傳ふ、山上に富士淺間社あり木花開耶姫命を祭る、毎年舊六月朔日の大祭には、五月晦日の夜より山上山下に大箒を焚き、參詣の群集山もどよむばかりなりとぞ。

○栗栖地神社 善師村大字栗栖にあり本國帳に春日部郡正四位下栗栖天神とあるは此社なり同村、栗栖山は最も幽深閑雅の境なり。

○虫鹿神社 岩田村の内前原新田にあり延喜式に虫鹿神社本國帳に従三位虫鹿天神と出でたり。

○比良賀天神社 羽黒村にあり本國帳に従三位比良賀天神とあるは是れなり平賀は祭事に用ふる磁器の名なり往昔陶工等が祖神を祭りて崇敬せし社なるべし。

○鳴海杵神社 羽黒村のうち鳴海といふ所にあり延喜式に鳴海杵神社本國帳に従三位鳴海杵天神と記

せり社地廣く木立神さびたり。

○諸饗神社 同村にあり諏訪天神と稱す、延喜式に丹羽郡諸饗神社本國帳に從三位諸饗天神と記せり、祭神は保食神健南方命なり。

○井出神社 井上村にあり式内にして本國帳に從三位井出天神と出でたり、社の東北に古井あるを以て井出の名は起れり。

○神明大一宮 岩倉村にあり大一大見大明神と稱す祭神は豊受皇大神、國常立尊、伊弉諾尊、伊弉册尊なり神風抄に外宮新瀨御厨云々新瀨神領云々とあれば豊受宮を祭りしは然るべき事なり。

○阿豆良神社 多加森村吾鬘にあり式内にて國帳に從一位吾鬘名神と見ゆ祭神天甕津日女命なり。

○爾波神社 赤羽村にあり式内にして本國帳に從三位爾波天神と記せり今は當村のみの生土神のやうなれど其實は當郡の惣氏神なり、元大江川の東にありしを寛文六年今の地に移りしより以前の社地を古宮と云ふ祭神は神八井耳命なり。

○盤道神社 豊富村にあり式内にして本國帳に從三位盤道天神と見ゆ村名も此社より起りしなり。

○阿具麻神社 青木村にあり式内にして本國帳に從三位阿具天神とあり頗る古社なり。

○立野神社 高雄村大字上野にあり式内にして本國帳に從三位立野天神と見ゆ。

○稻置神社 秋津村にあり式内にして本國帳に從三位稻置天神と記せり、和名抄に丹羽郡稻木とある如く古き當郡の地名にして尾張稻木別の祖神大中津日子命を祭る。

○削栗神社 浮野村にあり式内にして本國帳に從三位削栗天神と見ゆ今は八幡と稱せり。

○伊賀々原神社 榮村木賀にあり式内にして本國帳に從三位伊賀々原天神と記せり祭神は熱田皇大神宮にて末社に高藏社、源太夫社等あり。

○若宮八幡社 秋津村にあり當社は元清須にありしを慶長年間當村へ徙せしよし社傳にいへり近邊の大社なり此社内の砂を取りて安産の守りとするに必ず靈驗ありと云ふ例祭は舊八月廿九日なり。

○小口神社 秋津村にあり今は天神社と稱す式内にして本國帳に從三位小口天神と見ゆ和名抄に丹羽郡小口とある舊郷なり少彦名命を祀る。

○前利神社 豊國村にあり式内にして本國帳に從三位前利天神と見ゆ祭神は神八井耳命なり。

○山那神社 同村にあり式内にして本國帳に從三位山那天神と記すは此社なり。

○針綱神社 犬山町の内字中名栗にあり白山社と稱す式内にして本國帳に從一位針綱名神と見ゆ、往昔は北の方城山にありしを天文六年東の方の平山に移し慶長十一年再び今の町に遷座す當社は此地の生土神にして頗る大社なり例祭舊八月廿七、廿八の兩日には車樂及び鏡獅子ねり物等ありて遠近の老若群

集して其賑合非常なり。

○佛閣 郡内にて有名なるもの數多あれども其大略を記すれば左の如し。

○繼鹿尾山蓮臺寺 眞言宗名古屋大須眞福寺末にして善師野村大字繼鹿尾にあり、白雉年中道昭和尙の開基に係る、其後養老年中天竺の普无畏三藏當山に詣で、自刻の阿彌陀の像を安置し當國鬼門の鎮護とせし靈場なり古松老杉の間より西南の方を望めば眼界蒼茫として轉た人を迷はしむ。

○白雲寺 岩山村大字前原にあり天台宗にして行基菩薩の開創なり、慶長十一年再建し中興白雲比丘の名を以て寺號とせしを寛永十年今の地に移去天道社の宮寺となりぬ。

○永泉寺 臨濟宗京都妙心寺末にして羽黒村にあり天文元年の建立に係り泰秀和尚を開山とす、和尙は信長公と交り厚かりし故公も折り／＼當寺へ來給ひ其臣平手政秀の菩提の爲に一寺を建立せん事を謀りて政秀寺を創建し給ひ泰秀の弟子澤彦を開山とし給へり、其後天正年中諸堂悉く兵火に罹りしを政秀寺五世徹源和尚先師の古蹟なればとて之を再建し此寺に移りて中興となりしよし寺傳にいへり。

○久昌寺 布袋町大字小折にあり曹洞宗名古屋萬松寺末なり至徳元年實峰和尚開創し慈雲山龍徳寺と名付けしが乱世に衰微し文明年中生駒家廣之を再建せり中興を雄山和尚とす。

○常觀寺 久昌寺末にして布袋町大字小折にあり開基の年月詳かならず永祿元年大庵和尚中興す本尊

地藏菩薩は仁明天皇の御時に鑄たる銅像なり俗に釜地藏と稱して當國六地藏の一所なれば參詣の人常に絶ゆることなく境内櫻樹多きが故に花の頃は殊に群集せし由舊記に見ゆ。

○徳林寺 小口村大字余野にあり臨濟宗京都妙心寺末なり文明の頃福富國平に射留められて行方知れずなりし小池與八部の妻女(本宮山鞍ヶ淵山姥の古事)の菩提の爲に建立して壽岳和尚を開山とす因りて俗に山姥寺と稱せしとぞ。

○常滿寺 犬山町にあり淨土宗なり、正應四年東安和尚の建立する所にして、本尊阿彌陀の立像は定朝の作なりと云ふ。

○徳授寺 犬山町字外町にあり臨濟宗京都妙心寺末文明八年當城主織田敏定柏庭和尚を請招して建立し桃隠和尚を開山とす柏庭派の本寺なり。

○妙感寺 犬山城の東なる繼鹿尾道にあり日蓮宗京都本國寺末もと曹洞宗にて天岳寺と稱し大本町にありしが頽廢し寛永十一年日用上人造營して今の宗とす。

○瑞泉寺 犬山町内田にあり臨濟宗京都妙心寺末にして青龍山と號す、應永年間妙心寺日峰和尚の建立にして其師匠宗因禪師を開山とす、日峰當國に來遊し繼鹿尾山に至りて或る山寺に寓宿し大藏經を披閱すること多年なりしかば、山下に住める里民等其道徳に歸依し一寺を營建して和尚を住せしむ、元此

山には水乏しかりしが師の道徳によりて甘泉湧出す故に瑞泉寺と號せしとの縁起あり山中景趣に富み左の瑞泉十境の目あり。

大白峰 萬松關 西江水 十八灘 石頂城 宿龍池 昆明池 靈龜廟 雲夢澤 扣玄室

○名勝舊蹟 郡内に於て名勝舊蹟甚た多きも悉く之を記すの餘地を有せず左に大略を掲ぐ。

○小弓郷 羽黒村附近の諸村古への小弓郷なり知名抄に丹羽郡小弓と見ゆ當國より朝廷へ弓を奉りし地なり、延喜兵部式諸國器仗のうち尾張國弓四十張征箭五十具と見ゆ。

○嘉智部里 樂田村の内にて小牧町と善師野村の間にあり昔は皇后内親王などの御名代として諸國にて庄園を賜ひ何々部と稱しけるが此地は嵯峨天皇の皇后橘嘉智子に賜ひしゆゑ里の名となりしなり。

○樂田城址 樂田村にあり織田久永築きて居住す其後津田信清當城を攻取りて持城とせしが永祿年中信長公信清を逐ひ坂井政尚に守らしめらる小牧陣の時秀吉公此地を陣營とせられしなり。

○茶臼山 樂田村のうち青塚にある冢山なり天正十二年の合戦に秀吉公こゝに登りて見物し給ひし舊跡にて有名なり。

○碑銘塚 小折村にあり形に依りて富士塚と名付く天正十二年の合戦に家康公信雄公と共に此上に登りて敵軍の多少及び其防備等を見給ひし所なり、天和年中當所の地頭生駒氏祖先の爲に此丘上に石碑を

建つ銘文は江戸の林學士なり。

○搗栗御厨 浮野村大字勝栗にあり神風抄に尾張國內宮上搗栗御栗(漆島一丁)内宮下搗御厨(漆島一丁)と見わたれど今は廢して跡形もなし漆は當郡の名産にて漆島の此地に多くありし故なり。

○高屋御厨 今は阿高屋村となる神風抄に高屋御厨採代系三十句赤曳系菓子等と見わたれり、昔は糸綿諸樂等を外宮に献りし御厨せり。

○前刀舊里 今は豊國村大字齋藤と云ふ前利連氏益及び其一族等が住せし本貫の地名なり連は尾張氏の類にて神八井耳命の後なり。

○大豆途渡 山名村より美濃の前渡村に至る木曾の川船渡しなり前渡は大豆途の轉じたるにて吾妻鏡承久軍物語等に見わたる尾張川九瀬の渡りのうちなり。

○上沼下沼 今の高雄村大字上野村邊をいふ和名抄に丹羽郡上沼下沼と記せり文和三年四月廿三日熱田御神領目録にも丹羽郡上沼御園と見わたれり。

○犬山 郡の北境木曾川の南岸にあり今は犬山町と稱す(舊稱稻置)名古屋市を距ること凡七里にして古來最も其名あり幕政の頃尾州家の傳相成瀬氏藩封の城市とす此地に産する犬山焼と稱する陶器、忍冬酒及び蒟蒻等世に聞ゆ、往時當國は足利氏の時斯波武衛の家領なりしが此犬山は妙法院法親王家莊園

に屬せしなり、李花集に

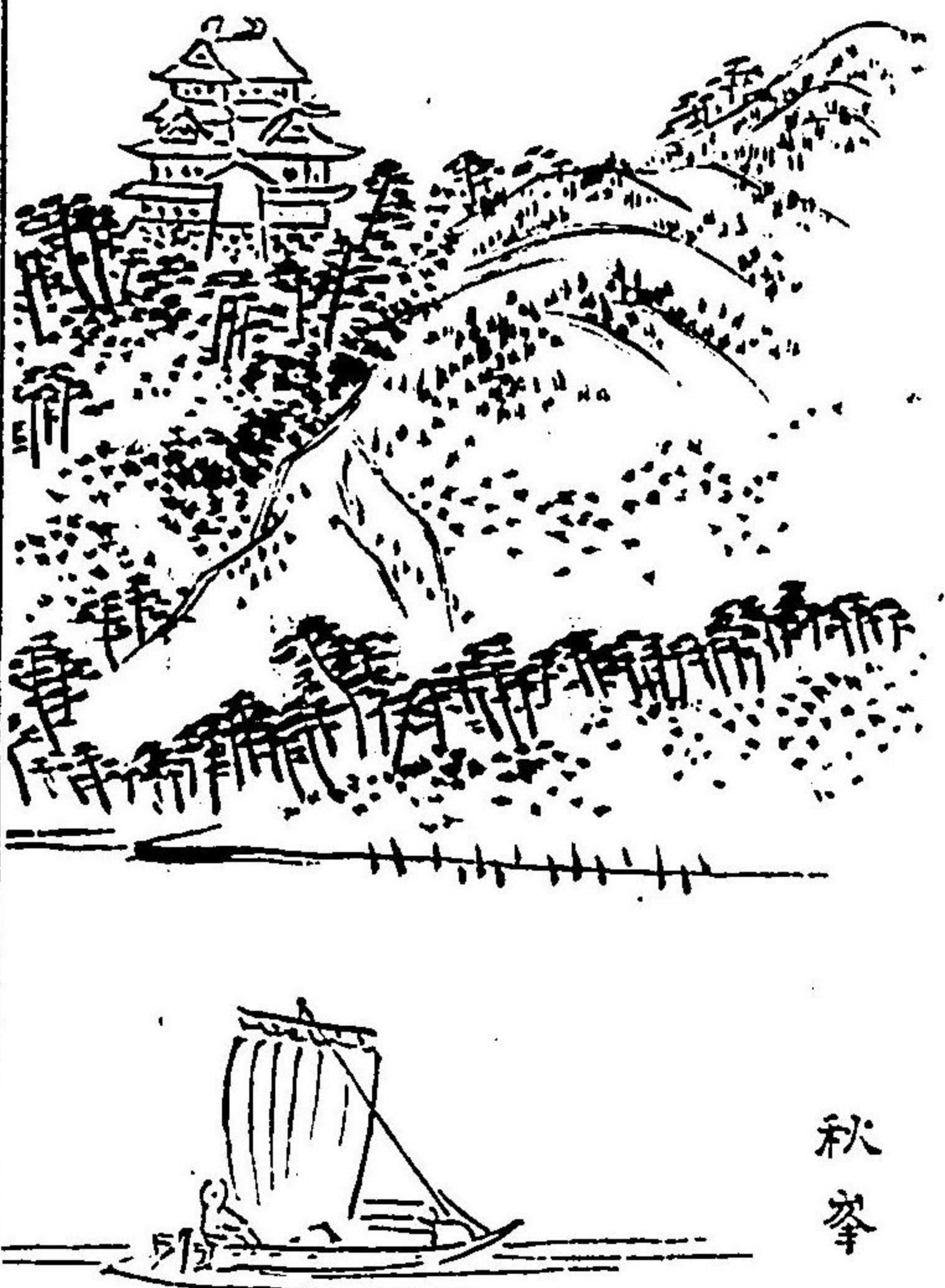
忍びて美濃國までまかり上り侍りしかども都へも憚り多くまた跡へもかなはぬ事なん侍りて犬山といひし所より鳴海の浦近く出て侍りしに云々とありて宗良親王も此地に來給ひし事あるなり。

○犬山城趾 犬山市街の北に方り木曾川に臨める丘上にあり林頭今尙は巍然たる天守閣を望むを得べし永享年間織田廣近の居城なりしが慶長五年家康公其子忠吉卿を清須に封せらるゝに及び平岩親吉を以て傳相とし此城を興へられしが親吉嗣なくして死し、成瀬正成以下代々尾州家の傳相として之に居りしなり。

涼しさを見せてや 丈脚

動く城の松

○鶴岡屋町 犬山城の西方木曾川に沿へる町なり鶴匠住みて木曾川の鮎を捕りしなり、延喜



木曾川より

式主計察調輸錢の中に尾張國奏鹽年魚を載せたり國産の古きこと知るべし。

○花散澤 犬山町丸山の（糺鹿尾道附近）の西南の邊をいふ古き名所にはあらねど緒神家の歌詠に入れり。

○内田渡 犬山町内田（瑞泉寺の北方）より木曾川を渡り美濃國各務郡諸村へ行く船渡しにして絶景の地なり承久記に見わたる尾張川九瀬の渡りの一にて宇留馬の渡り是れなり。



犬山城を望む

○木曾川の大堤防 木曾川は世人の熟知する如く其水源は信濃、飛騨、美濃の三國にして日本有数の大川なれば其洪水の暴漲するに當りては實に恐るべき結果を現すこと古來其例に乏しからず、殊に天正以前にありては此堤防なるもの極めて不完全にて或る場合には殆ど無堤防の評を下さるゝことあり、本

郡大山までは此川大抵山間谿谷の間を流るゝか故に格別の大害を醸すことなきも、其以西は地勢總て平野に屬し(往古は此方面は木曾川の出砂に依り地層を構成せしもの多し)、一朝大水の襲來するや其沿岸の被害は取て名狀すべからず、爲めに三百年前にありては此方面は總して毎年の豊收を期する能はず、殊に往時は木曾川には三十六流ありたりと稱へ其川筋の多くは蜿蜒屈曲甚しく到底普通の工事を以て之を改修すること能はず、加ふるに元龜天正時代までは戰國の時節ゆゑ大に是等の工事に資財を投する者なく殆ど放任の姿なりしが、此木曾川に大堤防を築くの件は天正十二年豊臣徳川の二英傑が小牧に對陣せし後其和平を議するに當り、豊臣秀吉公は織田信雄に約するに此堤防修築の事を以てせしに起り、其後豊公は多少此約を履行せられし跡あれど全きを得ず、爾來慶長の末までは再び風雲穩かならずして此堤防を顧みる者なく、慶長十九年に聊か普請の事ありたれど亦一部分のみ、元和元年豊臣家滅亡して愈々徳川の幕府となり殊に尾張は其親藩の一たる義直卿の封地たるより茲に此大堤防修築の機運を迎へ、寛永年中義直卿は自ら此方面を巡見し豊公の遺圖を基礎とし又家康公の遺志を繼承して一は水利、一は國防の爲めに大山の西、木津(今は高雄村の大字)より海西郡伊勢海灣の河口まで大約十四里に達する大堤防(俗に御園堤と云ふ)を築くの目的を定め、近畿地方にて水利に委しき者を招き(淀川等の水利に係する者ありて當時治水家は多く近畿地方に住す)屢々其設計を講究せしめ愈々茲に大修築を爲すに決

し其土工を起してより數年の後大抵寛永の中頃(凡う二百九十年前)までに其工を竣す、此時に於て木曾川の小分流を併せ河身を改めて豫しめ激流を殺く等の施設甚だ多くして亦巧妙に、特に水勢の最も強烈なる部面に對しては築堤の最も堅固にして巨大なること殆ど一個の丘陵かど怪まるゝものあり、其竣成までに幾千の費用を要したるかは今日に於て細かに之を知るの材料なきも目下の貨幣に換算せば殆ど一千万圓に及ぶべき施設なりしこと分明にして、尾張の御園堤は實に當時本州に於ける萬里長城の觀ありしものなり、偕て此成功に依りて尾張の北部及び西部は全く水害を免れ二百數十年間殆ど破堤の事なく曾て木曾川の河成沖積層たる壤土は時を得て五穀菜蔬の培養に非常なる良成績を奏し、隨て人烟益々増加し來り到底農産物のみに依りて生産の途を立る能はざるものあり、自然の結果更に工業の發達をも促し來り此方面をして富裕の實を得せしむるに至れり、因みに近世にては明治維新の後、本縣にて大に此堤防修築の舉あり、明治十九年より二十一年に至る滿二ヶ年間に、本郡高雄村大字木津より中嶋郡十町野に至り、佐屋川分派口より東堤中嶋郡下祖父江中牧及び海西郡二子、海東郡西保に至る堤防(御園堤)延長二萬二千六百七十四間に修築工事を施し(直高十二尺乃至十四尺、馬踏二十四尺)、此土工費十萬六千七百廿五圓餘を支辨す、其後明治二十四年十月の大震災に此堤防大に破損せしも國庫支辨(費用の大部分)にて全く舊に復し今日に至れり是古來同堤防に於ける大略の事歴なり。

○木津用水 前項記載の木曾川大堤防完成するや此堤防に大閘門を設け木曾川の水を此閘門に導きて尾張各郡の用水路に供するの舉あり、本郡高雄村大字木津に於ける閘門及び用水路も亦其一にして最初は一閘門を置き後に亦一閘門を開らく、即ち西にあるは古木津用水にして東にあるを新木津用水とす、閘門の大きき西にあるもの繩長さ四十二間、内法高さ六尺幅十四尺八寸(慶安元年に始めて伏込)、東にあるもの繩長三十六間、内法高さ六尺幅十二尺(繩管は煉瓦積み戸前木製)、とし古木津新木津の両水路は本郡小口村にて東西に分派し。古木津幹流は東春日井郡小牧町の西小牧山の東麓を経て、西春日井郡小木村六師村方面に達し、新木津幹流は小口村より東春日井郡田樂村方面を経て勝川町に達し、更に水分橋(庄内川)に至りて名古屋に連絡す、(愛知郡の灌漑用水も亦此水流を混す)此兩用水は實に丹羽、東春日井の諸郡百五十餘大字に灌漑せらるゝものにして其効用の大なる云ふを俟たず、加ふるに近世黒川筋の開鑿ありて名古屋市との間に水運の聯絡を通するを得、又此用水路には水車を設けて製粉精米の事業を開く者戸數三十戸に及び水流利用の道は益々開發せらるゝもの、如し、因みに此用水路及び閘門共に明治十五年以來屢々修築改造の事あり舊時に比して大に其規模を大にし隨て一般の灌漑に掛からざる利益を與ふると云ふ。

○入鹿の大池 木曾川の大堤防竣工と罷ば同時即ち寛永十年二月工事に着手せられたるものなり、今

來其歴を記さんに木曾川堤防の竣工するや先づ閘門を開ひて用水を通したるは宮田用水なれども、丹羽郡地方は地形高く此灌漑の利を得ざるに依り、尾張の藩祖義直卿は此方面を視察せられたる際、今井山(北)、奥入鹿山(東)、大山、内津(東南)、本宮山(西南)、尾張富士(西)の間に入鹿村(當時草高五百三十石)と云ふありて其頃今井川、小木川、奥入鹿川、其他の細流此村に幅濶するを見て大に溜地適當地なるを察知し、此入鹿村を移轉せしむるの英斷を下し其銚子口(河内堤の場所)を突留むるの目的を定め水利家を河内國に求めて此工事を監せしめ、且つ當時木曾川大堤防修築後とて大に民力を使役したる後なればとて、國中は勿論苟しくも大惡罪を犯したるものにあらざる限りは男女を分たす諸國より來りて就役する者に特典を與へて保護すべしとの事を世間に示諭せしめられたるより、此頃未だ豊臣家の殘黨等始と饑饉に迫らんとして其身を置くに處なき者夥しく四方より來集し、日夜工事に従ひ僅に數ヶ月の間に周回三里に餘る大池は忽ち成功を遂げ、之れと同時に大に此地方の人烟を増加し工事後直ちに生産の途に就く者頗る多かりしと云ふ、又此堤防は古來堅固無双の評あり(堤長さ九十三間、隄敷七十五間、樋門十三扉あり長さ十八間幅五十四間内幅二間高さ二間餘)二百五十年間會て決潰せざりしが、明治元年五月の大雨水に始めて決潰の事あり、安樂寺村始め本郡及び中島、葉栗、西春日井、愛知、海東の六郡中六十二大字の村落は瞬間に其形跡を失し、人家の流失一千餘戸、溺死流亡亦一千人に達するの大慘禍

を來せしに依り、當時の灌漑は直ちに五萬兩を工費に充る設計にて復舊工事に着手したれど、明治維新の頃とて此工事は中途に半ば休止の姿となり漸く一時の危害を防ぐに過ぎざりしが、明治五年に再び官費を以て修繕あり然れども未だ十分の安全を期すること能はず、明治十二年に至り更に本縣に於て修築の事あり、明治初年に設けたる遠ひ根を廢して更に小富士山脚の岩石を穿ちて硤門を作り餘水を此處に泄らす事とし、別に堤防を嵩厚するの工事を施して漸く其完全を見るに至りしが、明治廿四年十月の大地震に再び大破損の箇所を生じ池中亦龜裂の場所少からず、爲めに幾多の工費を抛ち沈床其他堤防修築復舊工事を施して全く往時に優れる大用水池となり、現今は丹羽、東西春日井の三郡内三十二大字の耕地に對して灌漑水を供給せり。

○銀行諸會社 本郡に於ける銀行諸會社は左の如し。

名	額	資本金	拂込金	地	名	種	名	額	資本金	拂込金	地	名	種
株式會社丹波銀行	二十萬圓			布袋町	銀行業	株式會社大山支店					大山町	銀行業	
株式會社岩倉銀行	五萬圓			岩倉町	銀行業	株式會社古知野銀行	十二萬圓				古知野町	銀行業	
一宮銀行大山支店				大山町	銀行業	小牧銀行羽黒出張店					羽黒村	銀行業	
大山倉庫株式會社	三萬圓			三手百圓	大山町	倉庫業	尾張煙草株式會社	三萬圓			九手百圓	太田村	煙草業

○諸製造場 郡内の諸製造場は生系家最も多く其他は甚だ少數なり左に其大略を記す。

佐橋製糸工場(生系)	岩橋村	今井製糸場(生系)	岩橋村	澤水製糸場(生系)	高雄村	千田製糸場(生系)	高雄村
三品製糸場(生系)	大山町	高木製糸工場(生系)	高雄村	早川製糸場(生系)	和勝村	金星社(生系)	古知野町
石井製糸場(生系)	瀬部村	伊藤製糸場(生系)	時之島村	後藤製糸場(生系)	時之島村	瀬戸製糸場(生系)	時之島村
平松製工場(紋二羽重)	瀬波村						

○度量衡販賣 此郡内にて度量衡器を販賣する者左の如し。

度量衡器	大山町	堀尾	宗六	度量衡器	岩倉町	山川	浩
度量衡器	布袋町	村瀬	貞右衛門	度量衡器	大山町	大島	太平

○農産物 本郡に於ける主要物産は矢張り農産物と生糸、織物とにあり、其概要を左に記すべし。

○農産物 米作各種反別の總計は四千六百三十九町(西春日井郡と相似たり)にして其收穫は大畧八萬石に内外す、其東部山嶽部に接近する方面は米質最も佳良なりとの稱われども收穫量は西南部に劣れり麥作は大麥小麥裸麥を併せて總反別は大畧五千三百町歩に達し收穫亦七萬石に内外す、次に大豆、小豆種、黍、蕎麥、甘藷、馬鈴薯、實綿、葉藍(尾張部の第二位)、葉煙草、菜種(尾張部の第一位)、茶(尾張部の第二位)は何れも品質他郡に譲らざるもの多し、又蠶業に至りては非常に盛大にして桑畑の多き無慮八百餘町歩を有し繭産額亦全縣各郡に冠たり、今最近の調査に基く成績を擧れば左の如し。

種類	飼養戸數	掃立枚數	繭收穫	玉繭同	田穀繭同	屑繭同	合計
春蠶	六、八八〇	八、四九二	一七、六二〇	二、〇三二	六	一、三九六	二二、〇五八

夏 蠶	八、一五	七、七三	七、五二	七	三	六、三	八、八六
秋 蠶	一、六五	一、〇四	六、九	一、七	六	一、六	一、三〇

三期收穫合計三萬千百一十一石 飼養戸數合計一萬九千七百十戸（但三期を通して飼養する者を合算す）

右の如く本郡の蠶業は發達し居りて年々百萬圓以上の實收を有し、農産物中價格の上に第一位を占め居れり、又蠶種紙は其産出割合に多からざるも大約七千五百五十餘枚に達し、此産出分を除き本郡使用の蠶種は他方の供給を仰ぐものと知らる、此外乳牛は其數多からざれど大抵一ヶ年の乳量七十石に及び、家鶏は四萬五千羽内外を有して一ヶ年の産卵數は大略二百七十三萬六千顆を得ると云へり。

因みに本郡の地質は東方入鹿池周圍の山嶽部黒平山に至り又繼鹿尾栗栖方面は何れも秩生古生層（下部、御荷鉢層）に屬し、善師野より石藏に至り今井富岡間は第三紀古層、犬山より青塚に達し赤坂より羽黒新田に至るの間は壤土第四紀古層、其他は壤土第四紀新層に屬するものと知るべし。

○工業品 郡内工業品中の首位は生糸及び織物とす、生糸製造戸數は十三戸（自宅製造五百十三戸）其機械系、座繰糸を合せて七千六百六十六貫目、其他雜種七百三十貫目に及ぶと云ふ、其他清酒、銘酒（葱茶酒、千代鶴の類）種油、質綿油等産出少からず、又織物は紋織羽二重の益々發達するあり一ヶ年の産額二

十一萬圓以上に達し、綿織物は十六萬圓、絹綿織物は一萬九千圓に及ぶとは統計の示す所にて諸物産中一特色を有し今は生糸の産出價額を凌駕するの勢ひあり。

○水産物 本郡は海岸に接せず又魚族を産すべき川流稀なるも、特に木曾川の國境を流るゝありて鮎鱒、鱈等の漁獲あり最も美味の評あるは犬山附近に於ける鱒、鱈の類とす、其他は茲に記載すべき者なし。

○礦業品 郡内に滿庵の試掘二箇所、其坪數は四十三萬六千坪の探掘區域を有せり。因みに本郡善師野栗栖方面にては盛に製氷を行ひ品質良好毎年千數百噸を他に輸送す亦本郡の一産物と知るべし。

○運輸と交通 郡の北方犬山町に接して木曾川の水運あり木津用水路亦多少舟楫を通すべく、道路には隣郡小牧町より（名古屋に通す）犬山町に達し輪沼（岐阜方面に達す）に行くべく又善師野より中仙道に達す、又郡の西境よりは隣郡一宮町より巡見街道の通するあり、隣郡西枇杷島より（名古屋に通す）岩倉街道を経て布袋町に達し夫より古知野を経て巡見街道に合して犬山町に達するあり、又布袋町（大字小折）より拍森村を経て犬山町に通するあり、又岩倉町より和多里村大字三ツ淵を経て小牧町に通す、加ふるに木曾川の大堤防上には垣々として西の方宮田北方等に達する道路を有す、隨て普通の運輸と交通は至極便宜あり、因みに郡内に有する小舟は約三百餘隻にして車輛數は人力車三百餘輛、荷車三千餘

輔に達し何れも運輸交通の用に供せらるゝものと知らる。

○軍用旅舎 郡内に於て軍用旅舎と指定せられたる旅舎は左の如し。

犬山町	淺見屋	犬山町	竹屋	犬山町	田中屋	布袋町	竹葉樓	犬山町	柏屋
犬山町	山田屋	犬山町	角屋	岩倉町	松木屋	岩倉町	東洋館	古知野町	角
									簗

○葉栗郡

本郡は尾張の北方丹羽郡の西に接し、南西の二方面は總て中嶋郡に隣りし、北方は木曾川を境界として美濃國羽嶋郡に對す、面積僅に二方里、五に過ぎず、往時は此郡尙は北方に數十村を有したれど、天正十二年豊臣秀吉公木曾川の北にある諸村落を削て美濃國に屬せしめ(當時羽栗郡の稱を附す)たるに依り本郡は最も狭小なる地積となれり、然れども人口は比較的によく三萬千四百餘人と註せられ一方里に對する住民は一萬二千五百餘に當る、以て此地方が他に比して大に開發せられあるの實を証するに足るべし、殊に此郡は地積の狭小なるに拘らず物産甚だ見るべきものあり頗る有望の土地たり。

因みに本郡に於て五千以上の人口を有するは黒田町の一箇所なれども大田嶋、北方、玉ノ井、淺井、飛保、宮田の諸町村は特に其名あり此外尙は六箇村を有せり。

○諸官衙 葉栗郡役所、大田島警察署、一宮區裁判所大田島出張所は大田嶋村にあり、郵便電信局は

大田嶋(大字嶋)に、郵便局は宮田、黒田の兩村に置けり。

○諸學校 郡内に於ける諸學校は高等小學一校(男生徒四百五十九人、女生徒九十五人)、尋常小學十校(男生徒千五百十四人、女生徒九百六十二人)を有し都合十五校を設けあり。

○神社 郡内各町村に鎮座する神社の重なるは左記の如し、因みに往時は式内の神社尙は之ありし美濃國に屬せしものありと知るべし。

○黒田神社 黒田町にあり當所の生土神にして式内なり本國帳に従三位黒田天神と記せり。

○大日社 北方村木曾川堤上にある小祠に木立物古りたり大日如來を神社と崇むることいかゞしけれど、延喜式に常陸國大洗磯前藥師菩薩神社又美濃國池田郡彌勒菩薩神社などいへる例あり。

○賀茂明神社 玉の井村にあり創建の年月詳かならねどいと古代よりこゝにいましゝなるべし山城賀茂の社と同跡にして雷避の守札を出すも別雷神の靈驗のいちじるきに因るなるべし、毎年例祭には近村より種々の供物などを出して賑合はし。

○伊富利部神社 黒田町大字門間にあり式内にして元は八幡村の八幡とて國分寺と同じく諸國にある例にて廻國行者の參詣人絶ゆることなかりしよしなり、今も當郡中の大社と稱せらるゝが往昔は猶更大地なりしと云ふ。

○大毛神社 大田島村大字大毛にあり式内にして本國帳に從三位大毛天神と記せり、當社は六所明神といひ又ひながたの宮と稱す菴大姫の立て給ひし雛人形を納めしと言ひ傳ふ。

○大野神社 瑞穂村大字大野にあり式内にして本國帳に從三位大野天神と記せり。

○小塞神社 瑞穂村大字尾關にあり式内にして本國帳に從二位小塞天神と見ゆ、延喜式及び本國帳ともに中嶋郡と記したるは此地もと彼郡に屬したりし故なり、尾張本貫小塞氏の祖神を祀りし社なり。

○石刀神社 瑞穂村大字黒岩にあり式内にして本國帳に從三位石刀天神とあり今も岩を祭りて森々たる境地なり。

○宮田天王社 宮田村のうち四ツ谷にありて宮田村の本土神とす往昔當村の住人三輪某等の勸請せし所なりと云ひ傳ふ。

○魚入天神社 小草鹿村大字小秋にあり熊野社と稱す本國帳に從三位魚入天神と見ゆたり。

○河俣上天神社 淺井町大字河端にあり八劍社と稱す本國帳に中島郡從三位河俣上天神と記せるは往昔此地中嶋郡に屬せし故なり。

○若栗神社 大田嶋村大字嶋にあり八幡と稱す式内にして本國帳に從三位若栗天神と記せり祭神は羽栗臣の祖神天押帶日子命なり。

○宇夫須那神社 大田嶋村大字嶋にあり權現と稱す式内にして本國帳に從三位宇夫須那天神と見ゆ、祭神は按行天皇の皇女五百城入姫なり、御母八坂入姫は尾張大海媛の御孫なれば其縁を以て皇女此國にて生れ給へるなり。

○八龍社 淺井町にあり府志に式内中嶋郡淺井神社を此社とせり今郡は違ひたれど中嶋郡に近き地なれば之を式内の神として批難なかるべし。

○佛閣 郡内に寺院の有名なる者亦少からず其大畧を舉れば左の如し。

○曼陀羅寺 前飛保村にあり淨土宗西山派京都禪林寺光明寺の兩末寺本邦六椋林の一所にて田舎の本寺と號す、後醍醐天皇の元徳元年天眞乘蓮上人鎮護國家の爲に初めは圓福寺といひしを寛正三年曼陀羅の瑞應により今の寺號に改む、後奈良天皇の天文十年勅願の繪旨を下し給ふ實に郡中第一の大地にして清淨なる古名刹なり。因みに慶長五年關ヶ原合戦の前關東諸將岐阜の城を攻めんとして此曼陀羅寺にて軍議を開きしに池田三左衛門輝政此席を起ちて竊に河田の渡りを越へられたりと舊記に見ゆ其頃も亦當寺は郡中第一の寺院なりしなり。

○劍光寺 黒田町にあり臨濟宗京都妙心寺末、建久元年右大將頼朝公上洛の時當寺の地藏尊を拜し寺領を寄附し又劍一口を奉納せらる寺の名は之に依りて起りしとぞ、其後頼廢に歸せしを永祿年中以安和

尙再興す一の宮地蔵と稱して當國六地蔵の一なり又彼岸繩手の地蔵とも云ふ。

○寶光寺 黒田町にあり同宗同末にして古書に見ゆたる梵刹なり。

○善龍寺 黒田町にあり一向宗東派京都本山直末河野九門徒其一なり、寺傳に曰く當寺は元同郡河嶋にありて専修坊といひ天台の道場なりしが親鸞聖人東國化導の砌祐道といへる僧聖人に歸依し弟子となり今の宗に改む、因りて祐道を以て開山とす本尊阿彌陀の木像は行基菩薩の作なりと云ひ傳ふ。

○河野妙性坊 北方村にあり元天台宗にして同郡河沼郷笠田村にありしが其後衰廢し仁治元年親鸞聖人東國より歸洛の節正圓と稱する出家聖人の法徳に隨喜して今の宗に改め終に河野九門徒の一になりしと云へり。

○寶行寺 北方村にあり一向宗東派本山直末なり元眞言宗にして文和元年順正といふ僧の開基なりしが、文安三年休安と稱する出家蓮如上人に歸依し其後眞言念佛兼學なりしが慶長年中宗圓といへるが今の宗に改めしと云ふ。

○養願寺 里小牧村にあり一向宗東派にして大永年間の創建に係り開山を福受といへり、蓮如上人勢州長嶋に在任の砌の弟子なり、慶長五年岐阜城攻の時木曾川洪水にて渡行困難なりしを池田輝政當寺の僧同村の高橋某廣瀬某の三人に指揮して船を出さしめ川を渡しけるが是れ笠松渡し之權輿なりと云ふ。

○榮泉寺 大田嶋村大字大毛にあり一向宗東派河野九門徒の一なり、元は天台宗にして創建の年月詳かならず寺傳に白鳳六年栗本人磨の裔孫栗本源太夫國政草創し庵入山王家院と稱し又和栗殿といふ、其後嘉祿年中に住僧法輪坊何天親鸞聖人に歸依し今の宗に改む。

○光明寺 光明寺村にあり天台宗春日井郡野田密藏院末天武天皇の白鳳六年葉栗臣人磨の建立にて葉栗の尼寺と名づけしよしなるが中古廢絶し其後再建せし寺なり。

因みに當寺の住僧に意足居士といふ者ありけり軍學を好み兵書を暗記す、家康公曾て信長公に對顔し給ひし時意足側に侍りしかば信長公の仰せに此僧兵學を好み八幡太郎の傳を得たり我之を學ばんと思へども源氏にあらざれば授り得ず、君は源家の裔孫なれば其傳を請け給へどありければ家康公悦び給ひ意足を濱松にゐて歸り給ひ悉く其傳を請け給ひぬ、意足が曰く八幡殿の傳を請け給ひぬる上は義家の家の字を用ひ給へど申し、かば則ち諾し給ひ元康の元の字を家に改め給ひしなりと言ひ傳ふ、

○善福寺 瑞穂村大字尾關にあり黃龍宗山城宇治萬福寺末なり創建の年月詳かならず、開山は唐僧なりと云ひ傳ふ此寺は此附近にて頗る有名なり。

○文永寺 小草鹿村大字小松にあり臨濟宗笹野村妙光寺末なり寺傳に往昔此近邊は禁裏供御料所にして租税のため年々官吏來る毎に當寺の別館に寄宿せり後世其舊跡を呼びて眞名代塚と名づくると云ふ今境

内にある古塚是れなり。

○極樂寺 瑞穂村大字極樂寺にあり浄土宗西山派にて圓光大師(安居)の遺跡は其實當所なれば(天文年中木曾川の大水にて荒廢)とて中古伊勢松坂清光寺の住僧信國と云ふ者此地にて古き禪寺を修葺し今の宗派となる。

○名勝舊跡 本郡は其開發頗る古く隨て記すべきの箇所甚だ多く悉く之を舉れば巨多の紙面を費さざるを得ず故に左に其大略を記す。

○黒田里 岐阜街道筋の中嶋郡一宮の北西にありて今の黒田町なり昔は官道にて黒田宿といひしなり東鑑に建久元年十二月頼朝公上洛歸路の條に十七日丁酉黒田と見ゆ又同書建長四年三月三品親王宗尊將軍關東御下向の休泊を記したる條に廿二日丙午晝黒田と見ゆたり、又こゝを松枝庄ともいひて西園寺殿の御領なりしが公經の大臣の時北山に西園寺を創建ありし時、其地資永朝臣の領なりければ此尾張の松枝庄と替地せられしこと増鏡に出でたり。

○舊善光寺古跡 黒田町にあり善光寺屋敷と稱して畠中に古五輪一基を存せり、昔本田善光攝津國より三國傳來の阿彌陀如來の像を負ひて本國信濃に歸る途中此里に宿りける因縁に依り此地を舊善光寺と呼びて一寺を建立せしが嘉慶二年の合戦に廢絶せし古跡なり。

○北方里 今の北方村とす、康正二年造内裡段錢并國役引付に壹貫八百廿五文伊賀美作守殿尾張國堀津北方段錢と見ゆたり、堀津村は木曾川の對岸にありて今は美濃に屬す。

○北方渡(東海鐵道鐵橋) 北方村(本郷)より美濃の圓城寺村への船渡しありて圓城寺の渡しとも云ひ今此渡場の附近に東海道鐵道の大鐵橋架せられて汽車轟々常に木曾川を壓して一大壯觀を添へたり。

○里小牧渡 里小牧村(今は北方の字寶江)より美濃の笠松に至る木曾川の船渡しなり今笠松の渡しと通稱するは是なり。

○玉の井里 今は玉ノ井村といふ古歌によめる玉の井の里玉の井の森はこゝなり、又同村に玉の井の舊跡あり享保二年の秋當所賀茂社の林中を穿ちたるに忽ち清水湧出し且つ古き井桁數十片を掘出し其中一片の木に天平三年辛未三月五日の十字鮮明に見ゆしかばろのかみ此所に玉の井と稱する清泉のありし事確に知られぬ。

くみ見れば遠き昔のふもかけも心にうつる玉の井の水

秋 隆

○及川古渡 わか君のめくみや遠く及ひ川ゆたかにすめる水の音かな、と堯孝法印がよみしは此所にして玉ノ井、三ッ法寺(黒田町に屬す)の邊の木曾川ひかしの官道の船渡しなり、今は廢れて里人の私の渡しとなれりとぞ。